

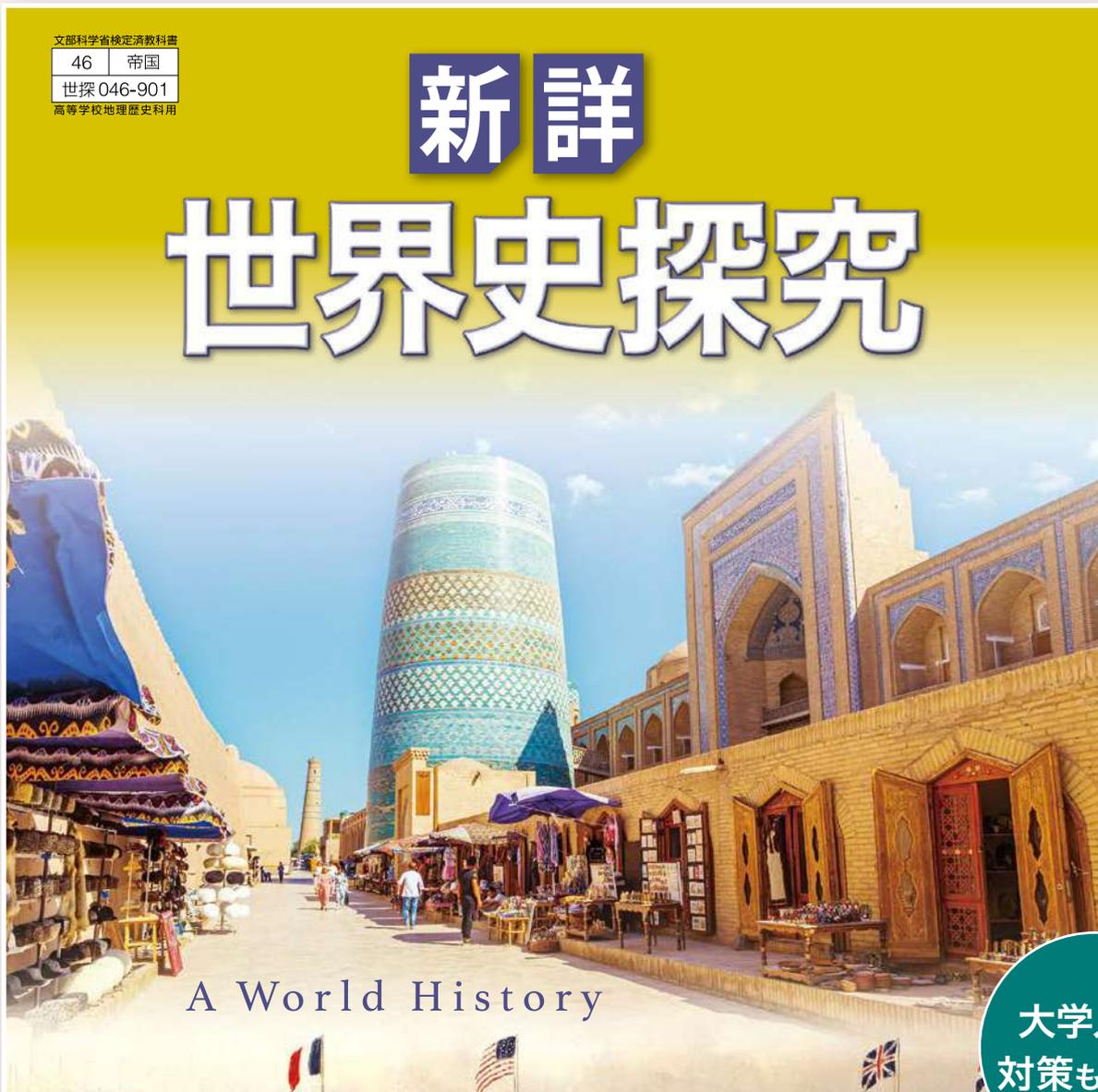
# 内容解説資料



特設ウェブサイト  
もご覧ください

世探046-901『新詳世界史探究』

「教科書発行者行動規範」に則った資料です

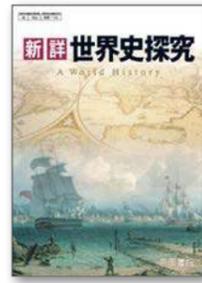


**世界の構造と変化をとらえ、  
探究する力を育てる教科書**

# 新詳世界史探究

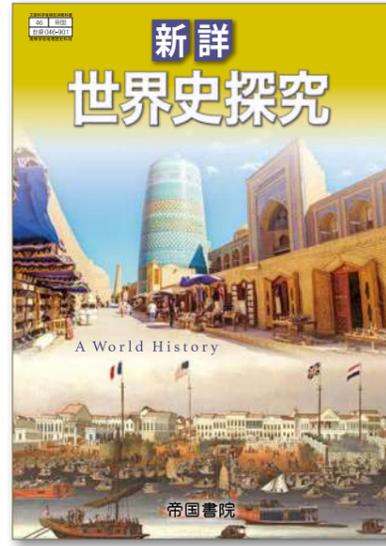
令和9 (2027) 年度発刊  
世探046-901  
B5判 384ページ

大学入試対策も万全!  
世界の構造と変化をとらえ、  
探究する力を育てる教科書



令和5 (2023) 年度以降版

大刷新!



令和9 (2027) 年度以降版

## 『新詳世界史探究』に込めた思い

“doing history”と“a history”で育てる探究的な学び

著作者代表 大阪大学 名誉教授 桃木至朗  
帝国書院 編集部

この教科書は、生徒が歴史を知識として学ぶだけでなく、過去と現在を往復しながら主体的に考える力を育てることを目標に編集しました。歴史を学ぶ意義は、できごとの結果を覚えることにとどまらず、なぜそうなったのか、過去の人々がどのような判断をし、その選択がどのような結果をもたらしたのかを考える点にあります。そうした問いを通して、似た状況に置かれたとき自分自身ならどう判断するかを考える姿勢こそが、歴史と向き合うことの本質であり、本書ではこれを“doing history”にとらえています。

また、本書が提示する歴史像は、唯一の正解としての“the history”ではなく、多くの事実や資料に基づいて描かれた一つの見方としての“a history”です。国や地域を越えた人々のつながりや相互作用に注目することで、生徒は世界を多面的にとらえ、異なる価値観や立場を理解する視点を養うことができます。

本書が、生徒一人ひとりがみずから問いを立て、よりよい判断・選択を行うための材料となることを願っています。

## 本資料のもくじ

全体構成 ..... 4

### 特色

①

因果関係を丁寧に記した理解しやすい本文記述

- 世界史の大きな流れをつかめる本文記述 ..... 6
- 歴史の流れや社会構造が理解しやすい本文記述 ..... 10

### 特色

②

世界全体のつながりがわかる  
「結びつく世界」 ..... 12

### 特色

③

資料・構造図・本文で  
理解が深まる文化史 ..... 16

### 特色

④

探究活動と資料読解を促す特設・資料

- 資料読解を通して思考力・判断力・表現力を養う「探究TRY」 ..... 20
- 本文の理解を助ける充実の地図・構造図・コラム ..... 22
- 資料読解の技能を養う「読み解き」 ..... 24

### 特色

⑤

歴史の全体像がつかみやすい紙面の工夫と単元構成

- 世界史のポイントがつかみやすい 要約文・本文・側注の三段構成 ..... 26
- 単元を通して生徒の主体的な探究活動を促す構造化された問い ..... 30

入試対応 ..... 34

QRコンテンツ ..... 38

関連教材 ..... 42

### 試し読み

- 結びつく世界 13～14世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機 ..... 46
- 3部2章1節 明の国際秩序と東・東南アジア ..... 47
- 結びつく世界 16世紀 「世界の一体化」の始まり ..... 56
- 3部3章4節 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 ..... 57
- 探究TRY 「平等」は達成されているのか? ..... 60

本文  
執筆者紹介 ..... 62

特色一覧・  
著作関係者 ..... 63

帝国書院の  
歴史教科書 ..... 64

特色①

特色②

特色③

特色④

特色⑤

入試対応

QRコンテンツ

関連教材

試し読み

# 全体構成

# 世界の構造と変化をとらえられる構成

- 本文ページで、諸地域の歴史の流れや他地域とのつながりを押さえ、特設「結びつく世界」で、世界全体のつながりを補足する構成としています。世界史のタテとヨコのつながりをつかみながら、構造と変化をとらえられます。
- 文化史の特設「文化からみる当時の社会」(→本資料p.16-19)や、資料読解の特設「探究TRY」(→本資料p.20-21)など、各種ページが充実しています。

▶ 巻頭3-p.1

## もくじ・本書の使い方

世界地図(世界の自然環境)、世界史の舞台 … 巻頭1  
 もくじ・本書の使い方 … 巻頭3  
 はじめに … 4

### 1部 世界史へのまなざし

1章 地球環境からみる人類の歴史 … 6  
 2章 日常生活からみる世界の歴史 … 10  
 家族の形態の変化と歴史 … 10  
 感染症への対応の歴史 … 12

### 2部 諸地域の歴史的特質の形成

複数の資料を読み解いて問いを表現しよう … 15

#### 1章 世界各地の古代文明

1節 文明の誕生 … 16  
 2節 オリентと地中海周辺の歴史的特質 … 18  
 3節 南アジアの歴史的特質 … 23  
 4節 東アジアの歴史的特質 … 26  
 5節 南北アメリカ・アフリカの歴史的特質 … 28

#### 2章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質

1節 中華帝国の成立と東アジア … 31  
 2節 中央ユーラシアと遊牧国家 … 38  
**結びつく世界 1~2世紀**  
 諸地域を結ぶ「陸の道」と「海の道」 … 42  
 3節 遊牧帝国の興亡と移動 … 43  
 4節 ユーラシアの変動と東アジア … 46  
**探究TRY** 各国は「中華」とどのようにつきあったのか? … 54

#### 3章 南アジアと東南アジアの歴史的特質

1節 南アジアの統合と花開く文化 … 56  
 2節 東南アジアの社会と国家形成 … 59

#### 4章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質

1節 オリентの統一 … 62  
 2節 地中海周辺の国家形成 … 65  
 3節 地中海周辺と西アジアの帝国 … 72

**結びつく世界 3~5世紀**  
 ユーラシアの再編と交易ネットワーク … 82

#### 5章 キリスト教社会とイスラーム社会の成立

1節 ヨーロッパへ広がるキリスト教 … 83  
 2節 イスラームの誕生 … 91  
**結びつく世界 8~9世紀**  
 イスラーム=ネットワークの形成 … 97  
 2部 まとめと展望 … 98

### 3部 諸地域の交流・再編

複数の資料を読み解いて問いを表現しよう … 101

#### 1章 ユーラシア大交流圏の成立

1節 イスラーム世界の拡大 … 102  
 2節 ヨーロッパ封建社会の展開 … 110  
 3節 東アジア諸地域の成長と自立 … 122  
**結びつく世界 10~12世紀**  
 海の道の活性化 … 130  
 4節 海と陸をつなぐ海域世界 … 131  
 5節 ユーラシア大帝国の出現 … 135

**結びつく世界 13~14世紀**  
 ユーラシア大交流圏の成立と危機 … 140

#### 2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出

1節 明の国際秩序と東・東南アジア … 141  
 2節 世界帝国消とアジア諸国の成熟 … 150  
 3節 スペインとポルトガルの進出 … 159  
 4節 イスラーム世界の成熟 … 163  
**探究TRY** なぜ多民族が共存できたのか? … 170

**結びつく世界 16世紀**  
 「世界の一体化」の始まり … 172

#### 3章 主権国家体制の成立と交易の拡大

1節 ルネサンスと宗教改革 … 173  
 2節 主権国家の形成と「17世紀の危機」 … 179  
 3節 東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 … 189  
 4節 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 … 195  
**探究TRY** 奴隷とはどのような存在だろうか? … 198

**結びつく世界 17~18世紀**  
 「17世紀の危機」とその後の諸地域の発展 … 200

#### 3部 まとめと展望

### 特設ページ

**探究TRY** 全5か所設置  
 資料読解を行い、本文ページや歴史総合での既習の知識を活用して探究活動を行う特設。読解のほか、自分の言葉でまとめたり、グループで議論をしたりすることで、より深く考察することができる。

### 4部 諸地域の結合・変容

複数の資料を読み解いて問いを表現しよう … 205

#### 1章 環大西洋革命~工業化と国民国家の生成

1節 世界で最初の工業化 … 206  
 2節 アメリカ革命 … 209  
 3節 フランス革命とナポレオン … 211  
 4節 ラテンアメリカへの革命の波及 … 217

#### 2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設

1節 イギリスの覇権と自由主義 … 219  
**探究TRY** 産業革命は「革命」といえるのか? … 222

**結びつく世界 19世紀**  
 イギリスの覇権と世界システム … 224  
 2節 ヨーロッパに広がる国民国家 … 226  
 3節 アメリカ合衆国の拡大と国家統合 … 235

#### 3章 世界の一体化の進展とアジアの変容

1節 イスラーム王朝の解体と変容 … 238  
 2節 南・東南アジアの変容 … 244  
 3節 東アジア諸国の模索と変容 … 249

#### 4章 世界の一体化の完成とその影響

1節 帝国主義と世界分割競争 … 256  
**結びつく世界 19世紀後半~20世紀初頭**  
 世界大戦前夜の世界システム … 271  
 2節 アジア知識人による体制改革の試み … 272

#### 5章 世界大戦の時代

1節 第一次世界大戦と社会主義革命 … 280  
 2節 第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 … 289  
 3節 大衆社会の到来とファシズムの出現 … 298  
 4節 第二次世界大戦とその惨禍 … 306  
**結びつく世界 20世紀前半**  
 二つの世界大戦と資本主義の変容 … 314

#### 6章 戦後の国際秩序と冷戦

… 315

#### 4部 まとめと展望

… 322

### 結びつく世界 全12か所設置

この特設では、グローバル化した現代世界がどのように形成されてきたのか、交易ネットワークの結びつきや、国際的な分業体制といった同時代の構造に着目しながらみていく。1世紀から15世紀まではユーラシアを中心に、交易ネットワークの拡大を基盤として世界の結びつきが深まった。16~18世紀には、アメリカ大陸を組み込んでヨーロッパを中心とする国際的な分業体制が登場した一方で、交易ネットワークはアジアを中心に引き続き活性化した。19世紀になると、国際的な分業体制は世界を覆い(世界システム)、そこで生じた格差は現代にまで影響した。

### 5部 地球世界の課題

1章 冷戦の展開と平和の模索 … 324

1節 集団安全保障と冷戦の展開 … 325  
 2節 多極化の始まり … 328  
 3節 新しい国際秩序を求めて … 335

**探究TRY** 「平等」は達成されているのか? … 340

#### 2章 グローバル化する国際経済とその課題

1節 冷戦下の経済秩序と格差 … 342  
**結びつく世界 20世紀後半**  
 アメリカの覇権とその変容 … 352  
 2節 グローバル経済の光と影 … 353

#### 3章 情報と科学技術によって結びつく世界

**結びつく世界 現代**  
 世界のあり方を変えるグローバル化の進展 … 363

#### 4章 地球世界の課題の探究

… 364

さくいん … 368  
 世界地図(世界の国々)、世界地図(世界観)の変遷 … 巻末2

### 文化からみる当時の社会

文化が社会に与えた影響、社会が文化に与えた影響などを、読み解き作業を通じて理解します。

儒家の思想と後世への影響	32
法家の思想と秦の統治	33
国際色豊かな唐の文化	50
アジア各地に広がる文化	51
古代オリンピックにみるギリシア社会	69
ギリシアの哲学	70
現代につながるヘレニズムの科学的探究	71
ローマの都市文化の広がり	76-77
イスラーム世界の都市文化と交易	108
イスラーム世界で発達した学問	109
中世ヨーロッパとキリスト教	116
教会建築と信仰	117
商工業の発達と人々の生活	126
江南の発展と首都の位置の変化	127
絵巻・挿絵から読み解く明代の社会	146
イエズス会宣教師が明に伝えた世界	147
世界中を魅了した陶磁器	154
清とヨーロッパの文化交流	155
ヒューマニズムとルネサンス	173
キリスト教とルネサンス	174-175
華やかな宮廷文化の隆盛と市民文化の芽生え	192-193
さまざまな思想と社会への影響	194
自由主義とナショナリズムに影響を与えたロマン主義	228
科学だけではなく社会に影響を与えた進化論	258
二つのジャンルの絵画に描かれたフランス社会	259
チャップリンとその作品からみる大量生産と機械化の明暗	301

## POINT 3

東南アジア海域の交易に関する内容を4ページ分増やしました。(→本資料p.6-7)

## POINT 1

ご要望の多かったオリентから始まる配列に変更。1章にオリент-南アジア-東アジアと古代文明に関する内容を集約し、2章以降で中国→南・東南アジア→西アジア・地中海周辺と展開しています。

## POINT 2

イスラームの誕生から拡大まで、部をまたぎながら続けて学習できる配列により、イスラーム世界のダイナミックな展開を歴史的に理解できるようにしています。

**1部**  
 探究学習の導入となる部です。地球の形成から先史時代の終わりまでを扱ったのち、自身と世界史のつながりについて学習します。

**2部**  
 歴史時代の始まりから、10世紀ごろまでを扱う部です。諸地域の歴史的特質と、世界の緩やかなつながりを学習します。

**3部**  
 10世紀ごろから、18世紀ごろまでを扱う部です。諸地域の交流・再編により、世界全体がつながっていく流れを学習します。

**4部**  
 18世紀後半から、20世紀半ばまでを扱う部です。歴史総合「近代化と私たち」「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の範囲にあたる時代をさらに深めます。工業化、国民国家の形成、帝国主義などにより、諸地域がより深く結合・変容し、第二次世界大戦で一定の帰結をみるまでを学習します。

**5部**  
 20世紀半ばから、現代までを扱う部です。歴史総合「グローバル化と私たち」の範囲にあたる時代をさらに深めます。政治・経済・科学技術の三つの視点から、これまでの歴史の帰結や、それらが生んださまざまな課題などについて学習します。

# 特色

1

# 因果関係を丁寧に記した理解し

# やすい本文記述

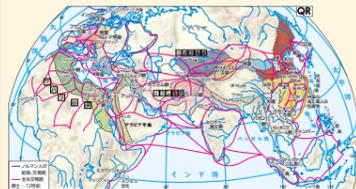
## ▶ 世界史の大きな流れをつかめる本文記述

● 本文では、できごとの**因果関係**や**背景**を丁寧に記述し、歴史事象を**大きな流れ**としてとらえられるよう工夫しています。

● 例えば、教科書p.131-134の「海と陸をつなぐ海域世界」では、9世紀以降の**宋・東南アジア・モンゴルの歴史**を相互に関連づけながら、ユーラシアで「海の道」が結びついていった**大きな流れ**をつかめるようになっています。

### 3部1章4節 海と陸をつなぐ海域世界 4ページ増

#### ▼ p.130「結びつく世界」(▶本資料p.12~)



**10~12世紀のユーラシア**  
イスラーム世界では10世紀になると、カイロがネットワークの中心となり、インド洋や地中海でのムスリム商人の活動がますます活発化した。

**10~12世紀のユーラシア「海の道」の活性化**  
イスラーム世界では10世紀になると、カイロがネットワークの中心となり、インド洋や地中海でのムスリム商人の活動がますます活発化した。

**10世紀前後から、中国商人の海上進出、ユーラシア・アフリカの辺境部での交易拡大などが起こり、12~13世紀にはそれらの全盛をつなぐ海と陸をつなぐ結びつきが成立した。**

#### ▼ p.131



**4節 海と陸をつなぐ海域世界**  
中国商人の海上進出が、ユーラシア・アフリカの辺境部での交易拡大につながった。

**11~12世紀になると、中国商人の活動も活発化し、東南アジア各地に拠点を築いた。**

**11~12世紀になると、中国商人の活動も活発化し、東南アジア各地に拠点を築いた。**

#### ▼ p.132-133



**12~13世紀の東南アジア**  
東南アジアの海上交通の中心となった東南アジアでは、12~13世紀の最盛期には、インド洋から東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。

**12~13世紀の最盛期には、インド洋から東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。**

**12~13世紀の最盛期には、インド洋から東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。**

#### ▼ p.134



**ユーラシア南部で海陸の交易・交通ネットワークの支配を狙ったモンゴル帝国による東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。**

**ユーラシア南部で海陸の交易・交通ネットワークの支配を狙ったモンゴル帝国による東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。**

**ユーラシア南部で海陸の交易・交通ネットワークの支配を狙ったモンゴル帝国による東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。**

### p.130 「海の道」によって結びつく世界

時代の**10世紀前後から、中国商人の海上進出、ユーラシア・アフリカの辺境部での交易拡大などが起こり、12~13世紀にはそれらの全盛をつなぐ海と陸をつなぐ結びつきが成立した。**

**POINT 1**  
10~12世紀のユーラシアで、「海の道」がどのように結びついていったのか、大きな流れがわかります。

### p.131 アジア海域の交流・交易の発展

唐代後半の中国の周縁地域では、節度使が遊牧民などの外部の諸勢力との交渉も担っていた。唐の解体後、宋は東北や西北でそれらの勢力を再征服しきれず、南方にある北部ベトナムでも、安南都護府を引き継ぐ節度使の支配領域の回復に失敗した。そのため宋は「唐の後継者としての統一王朝」とはいえないものの、代わりに江南の経済発展や都市文化の成長などを背景として、海上貿易を重視した。この結果、インド洋の

**POINT 2**  
陸での勢力が伸び悩んでいた宋は、沿海部の成長を背景として海上貿易を重視するようになったことがわかります。

### p.132 東南アジアで港市国家が発達

こうした海上交易の中心となった東南アジアでは、幹線ルートを押さえる中部ベトナムのチャンパーやマレー半島、ミャンマー沿岸などの港市群が発展する一方で、フィリピン南部、インドネシア東部などの周辺地域でも港市や国家の形成が始まった。それら全体の中心であるマラッカ海峡やマレー半島南部では、10世紀ごろから、シュリーヴィジャヤを中心とした連合を引き継いで、港市国家連合のジャヴァカ(三仏齊)が栄えた。その一方、ジャワの王朝は中心を東部に移し、農業生産力を高めるだけでなく、ジャワの胡椒やマルク諸島の香辛料を輸出して、海域での勢力を伸ばした。なかでもモンゴル軍の侵襲後に成立したマジャパヒト朝は、14世紀に、マラッカ海峡周辺を含むインドネシア群島のほぼ全域を影響下に置いた。

**POINT 3**  
東南アジアでは、大陸部沿岸で海上交易の発達を背景として港市群が発達し、続いて諸島部でも港市や国家の形成が始まったことがわかります。

### p.133 東南アジア大陸部の発展

東南アジア大陸部では、**クメール人のカンボジア(真臘)**が、内陸のアンコール地域に中心を置いた9世紀から強大化した。12~13世紀の最盛期には、ヒンドゥー教寺院アンコールワットや、都城アンコールトムが建設された。ビルマのエーヤワディー川流域では、**ビルマ人が11世紀に中流部でバガン朝**を建て、海岸部にも進出した。13~14世紀には雲南や大陸部北部で**タイ人の勢力が拡大し、各地に国家を建てた。**

こうしたなか、中国王朝の支配下で中国文明の影響を受けてきた北部ベトナムも、10世紀に独立して**大越**を建国した。大越は中部ベトナム沿岸の貿易を基盤に繁栄するチャンパーとしばしば争う一方、**陳朝**になるとモンゴル帝国の侵襲を撃退し、「中華世界の南半分を支配する帝国」としての国家意識を強めた。これらの農業国家の発展の背景として、気候変動の研究によれば、西暦1000年ごろから北半球の気候が温暖になり、東南アジアではインド洋から吹く夏のモンスーンが強まって雨量が増加したことによって、農業生産力が向上したとみられている。

**POINT 4**  
東南アジア大陸部では、気候変動によって雨量が増加し、農業生産力が向上したことで、複数の国家が勢力を強めていったことがわかります。

### p.134 モンゴルが海陸のネットワークを掌握

ユーラシア南部で海陸の交易・交通ネットワークの支配を狙ったモンゴル帝国による東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。しかしモンゴルは、チャンパーや東南インドの港市を介してペルシア湾・紅海に伸びる海上ネットワークを、泉州や大都を介してユーラシアの陸上ネットワークに連結させることに成功した。モロッコのムスリム商人の活躍もあって、15世紀前半には、インド洋から東南アジア各地への出兵は、軍事面ではほとんど成功しなかった。

**POINT 5**  
モンゴル帝国が海上ネットワークも手に入れ、これを陸上ネットワークと結びつけた結果、アジアとヨーロッパの交流が活発になったことがわかります。こうした交流の広がりや、香辛料に象徴される豊かなアジアへの憧れが、大航海時代へとつながっていったことも押さえられます。

特色 ①  
特色 ②  
特色 ③  
特色 ④  
特色 ⑤  
入試対応  
QRコンテンツ  
関連教材  
試し読み

# 特色

1

# 因果関係を丁寧に記した理解し

## ▶ 世界史の大きな流れをつかめる本文記述

### 3部1章5節 ユーラシア大帝国の出現

▼ p.135

**5節 ユーラシア大帝国の出現**

モンゴル帝国は、840年にウイグルの崩壊を契機として、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた、モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

▼ p.136-137

**モンゴル帝国の構造**

モンゴル帝国は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

# やすい本文記述

- 本資料p.6-7で示した「海と陸をつなぐ海域世界」(教科書p.131-134)に続く、「ユーラシア大帝国の出現」(教科書p.135-139)では、**モンゴル帝国による陸の統合から海への進出、そして陸と海が結びつき大交流圏を形成していった過程**を記述しています。
- **海と陸それぞれの記述を充実**させ、**世界が結びついていく過程**を分かりやすくしました。

▼ p.138-139

**138-139 ユーラシア大帝国の出現**

モンゴル帝国は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

▼ p.140「結びつく世界」(▶本資料p.12-15)

**140「結びつく世界」**

モンゴル帝国は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

### p.135 モンゴル帝国の誕生と拡大

率いた。モンゴル帝国は、匈奴以来の遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

モンゴル帝国の出現は、遊牧国家の伝統的な制度を引き継ぎつつも、それまでのような在来遊牧集団の連合国家と異なり、チンギス・カンとその子孫に権力を集中させたのである。

モンゴル高原では、840年にウイグルの崩壊した後、統一勢力が現れ、トルコ系・モンゴル系の遊牧集団が統合して長年対峙していた350年にわたって続いた。モンゴル高原方面にいたモンゴル部系とチンギス・カン部系との統合を成し遂げた。

### p.136 モンゴル帝国が陸を支配

方勢力の支持を得て即位した。彼は自分の本拠地であった東方に支配の重心を移し、モンゴル高原へ連なる草原地帯と中国の農耕地域にまたがる地に**大都**(現北京)を築いて、遊牧・農耕の両世界を共に支配する新しい帝国建設に乗り出した。1271年に大元という国号を定めたことから、

**POINT 2**

モンゴル帝国は大都を築くなどして、遊牧・農耕の両世界を支配する新しい帝国の建設を始め、陸の支配を確立していったことがわかります。

### p.136-137 モンゴル帝国の構造

れた。一方で、創立以来従ってきた遊牧集団や早くから服従した勢力も尊重されており、帝国の中枢は、世襲と実力とのバランスのとれた、多元的で開放的なしくみによって運営されていた。統治においては徴税と治安維持に重点を置き、在来の社会や文化にはほとんど干渉しなかった。

**POINT 3**

モンゴル帝国は王族を核としつつも、多様な人々を登用し、在来の文化にも干渉しない、開放的な体制であったことがわかります。

### p.137-138 モンゴル帝国が海へ進出

大元ウルスは1276年に南宋を下し、中央ユーラシアの王権として初めて華中・華南を直接支配した。南宋の造船・航海技術や海洋知識を吸収したモンゴルは、東南アジア・インド洋への進出を図った。南方では大越(陳朝)・チャンパー・バガン朝・ジャワ島に遠征軍を送り、東方では2回にわたって日本に出兵した(文永・弘安の役)。これらは多くの場合、強い抵抗に遭って撤兵することとなったが、もともと征服ではなく通商の拡大と交易路の確保が目的であったため、13世紀末にはほとんどの地域が大元ウルスと通交・通商関係をもつようになった。これにより、杭州・泉州・広州などの港市が海上貿易で繁栄し、交通や物流は海運や大運河によって華北や内陸部とも結ばれた。こうしてモンゴル帝国は、陸上だけでなく海上交通をも支配する帝国へと発展していった。

**POINT 4**

華中・華南を支配した大元ウルスが、海域世界との結びつきを求めて遠征を進め、海上貿易に必要な通交・通商体制を整えていったことがわかります。その結果、陸路と海路が結ばれ、モンゴル帝国が陸上だけでなく海上交通も掌握する帝国へと発展したことがわかります。

### p.138-140 ユーラシア規模の大交流圏が形成

モンゴル帝国は、早い段階から交通路の整備や国際商人の保護など交通・貿易振興策を推進し、カラコルムを中心に**驛伝制**(ジャムチ)を敷いて、陸上の交通・通信ネットワークを築いた。また、クビライは冬の都として大都を、夏の都として上都を建設し、驛伝制によって結びつけた。さらに、大都から大運河・渤海湾へとつながる水運路を開き、大都は海路で江南を経て南シナ海・インド洋と結ばれることとなった。歴代の皇

ユーラシア規模のネットワークは、人やものの移動も活発化させ、多様な文化・習俗に寛容で開放的なモンゴル支配の下で、文化や技術の面でもさまざまな交流・展開がみられた。東方では、中国にイスラームの

**POINT 5**

モンゴル帝国が築いた海と陸のネットワークによって、ユーラシア規模で、人・もの・文化・技術の往来が活発になったことを押さえます。また、モンゴル帝国の多様な文化・習俗に寛容な体制が、これらの交流を後押ししたことがわかります。

特色 1  
特色 2  
特色 3  
特色 4  
特色 5  
入試対応  
QRコンテンツ  
関連教材  
試し読み

# 因果関係を丁寧に記した理解しやすい本文記述

## ▶ 歴史の流れや社会構造が理解しやすい本文記述

- 歴史事象を単に時系列で並べるのではなく、**原因と結果のつながりがわかる本文**とすることで、できごとの流れや関係性、社会の変化を理解しやすくしています。
- 例えば教科書p.260-261では、1870年代の不況を背景として列強が帝国主義へと向かっていくことや、産業発展のもとで労働運動や社会主義運動が高まり、それによって社会が成熟していく様子などを記述しています。このように、**複数の歴史事象のつながりから、時代の流れをとらえられる**ようにしています。

▶ p.260-261



↑1 ヴェルヌの冒険小説「80日間世界一周」(1872年)の旅  
読み解き ▶ どのような交通機関が、短時間での世界一周を可能にしたのだろうか。また、ルート上にあったイギリスの植民地・勢力圏を確認しよう。

**Key Word 帝国主義**  
狭義には、1870年代半ばから1914年の第一次世界大戦に至る、列強間の植民地獲得競争を「帝国主義の時代」とよぶ。当面の採算性を無視してアフリカ奥地や太平洋上の島までもが占有された背景には、ナショナリズムによる競争心に加えて、資源が埋蔵されているかもしれないという期待があった。  
広義には、特定の時代や帝政であるなしにかかわらず、国家の領土的拡大や植民地支配を意味する。植民地が地球上からほとんど姿を消す1960年代以降も、アメリカなど大国による、武力行使または武力の威嚇を伴う外国への内政干渉が、帝国主義とよばれる場合もある。

**Key Word 列強**  
広義には、強力な武力を備えた国々を意味する。だが狭義には、「帝国主義の時代」に植民地獲得競争を展開した国を指す。狭義の列強には、イギリス・フランス・ドイツ・アメリカ・イタリア・ロシア・日本などが挙げられる。

**1873年の大不況と「帝国主義」の始まり**  
不況下の1870年代、工業国としてのイギリスの地位が低下していき、欧米列強は、経済問題・社会問題の解消を目指し、海外への膨張政策を強引に展開した。

1870年代、アメリカとドイツで工業化が進化したことで、もはやイギリスは「世界の工場」でなくなった。イギリスは、工業製品輸出より、海運業・保険業に加えて、世界各地へ投資することで利益を得るようになり、「世界の銀行」というほうがふさわしくなった。

● 1870年代は欧米主要国で不況が続き、特に73年に始まった不況は、イギリスに深刻な影響を与え「大不況」とよばれた。この不況下でも、ドイツやフランス・アメリカ・ベルギーは、保護関税制度で自国の産業を保護しつつ、それぞれに工業化を推し進めていった。特にドイツとアメリカはこの70年代に、科学技術の進歩をきっかけにして、重化学工業と電機工業を中心とする第2次産業革命を成功させつつあった。イギリスはこの動きに十分に対応できず、その覇権はしだいに弱まっていった。

この不況期に欧米先進工業国(列強)では、過剰な生産力と資本を持て余した資本家が、商品の販路と資本の投下先を海外に求める傾向を強めた。資本家にとっては、労働運動や社会主義運動を弱めて現体制を維持するためにも、ナショナリズムを刺激し、国民の関心を富の差などの国内問題から海外へそらすことが重要だった。労働者の間でも、海外で市場を確保できれば賃上げと社会福祉の充実が可能になる、という期待が広がった。こうして列強は、1870年代半ば以降、本国と植民地の連携を強めるために、そして新たに植民地を得るために、列強間の直接衝突は避けつつ世界各地で武力を行使するようになった。特にアジアとアフリカ、オセアニアが、その主要な場となった。この現象を**帝国主義**といい、科学技術の進歩で武器・通信・医療・交通機関が発達し植民地征服が容易になったこともあり、欧米優位の世界の一体化が進んだ。



↑2 世界経済の中心とされたロンドンのシティ(1900年ごろ)

① 「世界の銀行」 イギリスは工業力を低下させたとはいえ、金融力を併せると最大の経済大国だった。その主たる収益源が外国の政府・企業への融資(資本輸出)へと移ったことで、銀行や保険会社、証券取引所など金融業が集中するロンドンのシティが、世界経済の中心になった。

問い つながり  
「帝国主義」が出現した背景について要約しよう。

# やすい本文記述

## 「因果関係を丁寧に記した本文」は大学入試にも直結!

入試に直結!

- **複合問題への対応力が身につきます**  
因果関係を整理しながら学ぶため、複数の時代・地域を比較・関連づける問題への対応力が身につきます。
- **初見資料の読解力を高めま**  
資料中のできごとを**歴史の流れのなかでとらえられる**ようになり、初見資料に対する読解力が身につきます。
- **作文力の向上につながります**  
因果のわかる本文を通じて「**背景→過程→結果**」の思考が定着し、小論文などに応用できる作文力が身につきます。

**視点を変えて 日常工業品の普及と生活の変化**  
第2次産業革命によって生み出された工業製品が、人々の生活を変えていった。その代表が、重化学工業が供給する良質の鋼鉄とゴムタイヤを使った自転車である。19世紀初めに登場したときには木製で実用的でなかった自転車は、鋼鉄製パイプのおかげで軽量となり、使いやすくなり乗るようになった。女性の間でも人気となり、その活動範囲を広げることになった。また、自転車に乗る女性のために、機能的な衣服がつくられ、女性の社会進出を後押しすることにもなった。  
→3 自転車に乗る女性たち(1905年、イギリス)



**『タイムマシン』にみる階級社会の未来**  
19世紀後半は、科学の進歩(→p.256)により機械で時空を超えることが空想されると同時に、階級格差が社会問題化する時代だった。そのようななか、穏健な社会改革を目指すフェビアン協会(→p.262)の一員であるイギリス人ウェルズが、進化論(→p.258)も踏まえてSF小説『タイムマシン』(1895年)を著した。  
主人公がタイムトラベルした80年後のロンドンには、劣悪な労働環境ゆえに食人種へ進化した労働者階級の子孫たちが、安逸な生活ゆえに身体も知能も退化した資本家階級の子孫を襲って餌とする、凄惨な社会となっていた。階級格差に説く警鐘を鳴らす小説だった。

**労働運動と社会主義運動の高まり**  
第2次産業革命は、富の総量を増やす一方で貧富の差も拡大させたため、その解決を目指す労働運動と社会主義運動が高まり、成果として社会福祉も進展した。

19世紀後半は、第2次産業革命による工業化の進行で労働者が増え、資本家階級との貧富の差が広がることで、彼らは労働者階級としての自覚を強めるようになった。労働者を基盤にする社会主義勢力が伸張し、1864年にロンドンで労働者の最初の国際組織である**第1インターナショナル(国際労働者協会)**が結成された。しかし、マルクス主義者と無政府主義者との対立によって分裂・解散した。

1873年以降、欧米の工業国が不況期に入って労働者の生活が悪化すると、労働運動・社会主義運動が拡大し、各国で社会主義政党や労働組合の連合体が結成された。こうして、国際的な連帯の機運が再燃し、1889年、各国の社会主義政党と労働組合の連合組織である**第2インターナショナル**がパリで結成された。

労働運動の台頭に直面した各国政府は、限定的ながらも**社会福祉政策**を実施するようになった。これは労働運動の成果だったが、一方で運動を分裂させる一因になった。革命を通じて社会主義の実現を目指すマルクス主義者に対して、19世紀末以降、議会を通じて社会を改良することで社会主義の実現を展望する勢力が現れたのである。また**社会福祉政策**の進展は労働者の国民国家への帰属心を強め、後の第一次世界大戦にみられるように、労働者の国際的な連帯を弱めることになった。

**イギリスの覇権の動揺**  
ドイツとアメリカの台頭に直面し、不況にも見舞われたイギリスは、植民地の獲得と連携強化を目指す帝国主義政策を用いて、覇権の動揺に対応しようとした。

19世紀半ばから続いていたパクス=ブリタニカは、ドイツとアメリカの台頭と「大不況」の影響で幕が下りはじめた。イギリスは覇権動揺の対応策として、本国と植民地の連携を強化することに努め、保守党の首相

② **無政府主義(アナーキズム)**  
すべての権力と強制を拒否し、個人の自由が縛られることのない社会を実現しようとする主張。先駆者にブルードンがいる(→p.229)。ロシアのパクーニンは、第1インターナショナルのなかであって、プロレタリアート(労働者階級)による革命と政権運営を主張するマルクス(→p.229)と対立した。

③ **社会主義政党の結成**  
ドイツ社会主義労働者党が1875年に結成され、1890年にドイツ社会民主党へ改称した。

④ **修正主義と社会民主主義**  
マルクス主義者は、革命ではなく議会(選挙)による社会主義実現を唱える勢力を「修正主義」とよんで批判した。その後、議会を通じて漸進的に社会主義に到達しようとする主張は「社会民主主義」とよばれ、革命を主張するマルクス主義と区別されるようになった。

**POINT 2**  
第2次産業革命による貧富の差の拡大を背景に、各国で労働運動や社会運動が広がり、労働者の国際的な連帯も生まれたことがわかります。

**POINT 3**  
労働運動の高まりにより、各国政府が社会福祉政策を実施するようになった一方、その政策により労働者の国民国家への帰属意識が強まり、国際的な連帯は弱まっていったことがわかります。

**POINT 1**  
1870年代の不況を背景に、「現体制維持のためにナショナリズムを利用して国民の関心を国内問題から海外へ向けさせたい」という資本家の思惑と、「海外市場を確保して賃上げと社会福祉の充実を実現させたい」という労働者の期待が重なった結果、帝国主義が出現してきたことがわかります。

# 世界全体のつながりがわかる「結びつく世界」

- 同じ時代に、地域を越えて広がったつながりに注目して世界史を見渡す特設ページです。
- 世界的な交流が各地域にどのような影響を及ぼしたかを、政治と経済、文化の側面から分かりやすく説明しています。

## POINT 1

ページ上部に、大きな世界地図を掲載。地図を通して、当時の地域間の結びつきを具体的に確認できます。

### 「結びつく世界」の全体構成

#### 1～15世紀

ユーラシアを中心に、海と陸の**交易ネットワーク**によって地域間の結びつきが深まっていく過程や、地域を越える人やものの移動が、世界の諸地域の歴史に与えた影響を記述しています。

#### 16～18世紀

ヨーロッパ人による世界への進出が本格化し「世界の一体化」が始まるなか、工業生産が集中する地域と、原材料・食料を生産する地域との分化が進み、**垂直的な分業**が生じたことを記述しています。

#### 19～20世紀

垂直的な分業が世界規模に拡大し、中核・周辺構造が進展したことを「**世界システム論**」を軸に構成。19世紀はイギリス、20世紀はアメリカの覇権の時代として記述しています。

#### 現代

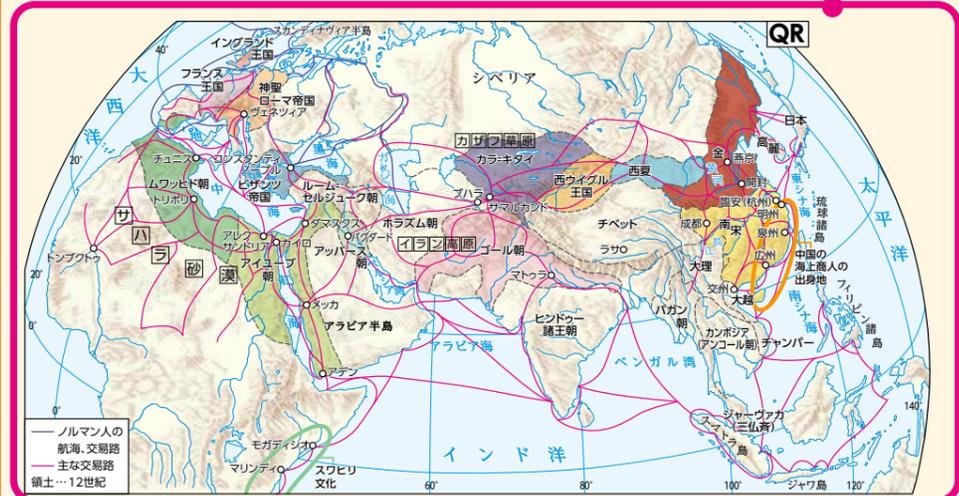
急速なグローバル化によって新興国でも工業化が進展し、**水平的な分業**が広がっている現状を示すことで、**従来の「世界システム論」だけではとらえきれない局面**が現れていることを記述しています。

## POINT 4

銀を基軸とする世界的な交易の広がりによって、多様な商品が流通し、人々の生活が変化していった一方、垂直的な分業が進み、地域間格差が生じていったことがわかります。

## POINT 5

文末には、前後の「結びつく世界」へのリンクを掲載。「結びつく世界」を追うことで、世界史の全体像を端的につかむことができます。



10～12世紀のユーラシア

### 結びつく世界 10～12世紀 「海の道」の活性化

● **イスラーム=ネットワークと中国商人の海上進出**  
イスラーム世界では10世紀になると、カイロがネットワークの中心となり、インド洋や南シナ海でのムスリム商人の活動もますます活発化した。

同じ10世紀前後から、中国商人が、**羅針盤**や**ジャンク船**などの新技術も使いながら、南シナ海をはじめとする諸地域への進出を開始した。中国経済の中心が黄河中流域から長江下流域(江南)に移動したことや、宋代以降の全国的な経済成長も、この動きを後押しした。また、宋から元にかけての時代には、外国からの朝貢や商人の来航も続き、江南や福建・広東などで多数の港市が繁栄した。中国船は12世紀には、インド洋まで進出した。

#### ● 辺境の貿易ブーム

10世紀前後の数百年間は、交易拡大の影響がユーラシアの辺境部に及んだ時代だった。10～13世紀に北半球で温暖な気候が続き、各地の農業生産力が上昇したことも、交易の拡大を助けていた。例えばユーラシアの東方では、琉球諸島や北海道周辺を含む日本列島、朝鮮半島や中国東北から極東ロシア、東南アジアなどの地域でも、手工業品を含む商品の生産・輸出、各地の商人の活動、さらに琉球のような交易を基盤とした国家・文化の形成が進展した。

## POINT 2

「海の道」の活性化により海と陸にネットワークが張りめぐらされ、リレー式の貿易も発達して、ユーラシア全域が緩やかに結びついたことがわかります。

がった。ほかの地域でも、ヨーロッパ北方のノルマン人(ヴァイキング)の活躍、アフリカ東海岸でのスワヒリ文化の誕生など、同種の動きがみられた。

#### ● ネットワークの連鎖

こうしてユーラシアやアフリカの広い範囲で、古くからの幹線ルートだけでなく、周辺の海域や陸上にもネットワークが張りめぐらされた。インド商人が、綿布と交換に東南アジアからもち帰った**香辛料**を、エジプトから来た商人に売り渡し、後者がこれをイタリア商人に転売してドイツ産の銀を受けるといったリレー式の貿易も発達し、12～13世紀までに各地域のネットワークが緩やかにつながった。

貿易を担う各集団の間では、対立と協力の両方がみられ、混血や複数の言語・文化をもつ人々もよく現れた。日本列島の商人の中国渡航、十字軍を含むヨーロッパのイスラーム世界との交流など、周辺から中心を目指す動きも活発化した。<p.97 p.140>



16世紀の世界

### 結びつく世界 16世紀 「世界の一体化」の始まり

#### ● アジアと広域ネットワーク

「14世紀の危機」が去ると、アジア各地域の経済は急速に回復した。インド洋や東アジア海域などの海上交通のネットワークがモンゴル時代以上に発展し、貿易量も増大した。明の海禁で中国製の陶磁器が品薄となるとベトナム・タイ産陶磁器が輸出されるなど、生産物や流通ルートの多様化も進んだ。16世紀には、**オスマン帝国**や**ムガル帝国**が繁栄する一方、**ロシアの東進**と毛皮交易、**日本銀輸出**の増大など、さまざまな地域で経済の活性化がみられた。

#### ● 「世界の一体化」の始まりと垂直的な分業

一方、ヨーロッパ人は、**香辛料**・陶磁器・生糸などの魅力的なアジアの商品を求めてスペインやポルトガルを中心に「**大航海**」に乗りだし、南北アメリカ大陸に到達した。ヨーロッパ人は、ポトシ銀山の発見などで、当時のアジアでの取り引きにおいて事実上の決済通貨となっていた**銀**を手にし、これによってアジアの物産を持続的に入手できるようになった。銀を基軸とした交易の活性化は、南北アメリカ大陸とアフリカ大陸、そしてユーラシア大陸各地の広域ネットワークの結びつきを急速に深め、「**世界の一体化**」が始まった。交易ネットワークは大西洋、インド洋だけではなく、マニラ-アカプルコ航路など太平洋を介して、地球を一周する結びつきとなった。

交易の活性化によりもたらされた商品は、貴族だけでなく庶民にまで及び、日常生活が変化した。

このような貿易の活性化はヨーロッパの経済に大きな影響を与えた。毛織物などの利潤率の高い工業生産が集中する地域と、そうした地域に輸出する原材料や食料の生産に特化する地域とに分化する傾向が生まれ、前者と後者の間の**垂直的な分業**は富の蓄積に格差を生じさせた。分業の底辺に組み込まれた地域では、**東ヨーロッパ**において再強化された直営地農業や**カリブ海**のプランテーションのように強制労働が行われることが多かった。

#### ● アジアの海の活況とヨーロッパ

日本列島を含むアジアへのヨーロッパ人の進出は、カトリックや銃砲とともに、たばこやとうがらしなどのアメリカ大陸の産物をもたらし、アジアの社会、経済、生活に大きな影響をもたらした。他方で、この時代にはヨーロッパ人がアジアを圧倒するだけの力は、経済的にも軍事的にもなかった。ヨーロッパ人がアジアで活動するためには、すでに発達していたアジアの交易ネットワークのなかで役割を見つけ、維持しなければならなかった。また、格差のある垂直的な分業もヨーロッパおよび大西洋地域を中心に、限られた地域にとどまっていた。

<p.140 p.200>

時代の 16世紀は南北アメリカ大陸を含む世界の諸地域が結びつき、世界の一体化が始まった時代だった。一方、世界経済の中心は引き続き、アジアの海の交易だった。

▲ p.172

時代の 10世紀前後から、中国商人の海上進出、ユーラシア・アフリカの辺境部での交易拡大などが起こり、12～13世紀にはそれらの全域をつなぐ緩やかな結びつきが成立した。

▲ p.130

## POINT 3

ページ下部には「時代の特徴」として要約文を掲載。内容を端的につかめます。(▶本資料p.15)

# 世界全体のつながりがわかる「結びつく世界」

- 「現代 世界のあり方を変えるグローバル化の進展」の記述をリニューアル。
- 現代世界で進むグローバル化の多方面への影響を分かりやすく説明しています。米中関係の緊張やグローバル企業の台頭など、現在の国際社会を形づくる重要な要素も整理しています。
- グローバル化がもたらす負の影響にも触れ、持続可能な世界をつくるための方向性も示しています。

刷新!

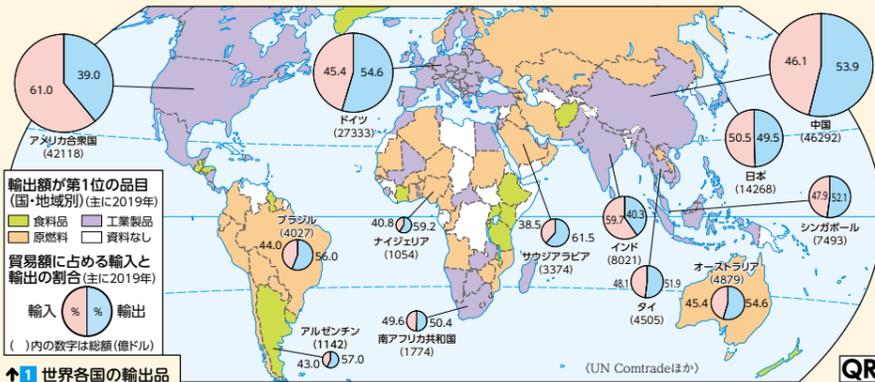
▶ p.363

## POINT 1

現代世界では、グローバル化の進展に伴う新興国の工業化を受けて、従来の垂直的な分業による結びつきから、水平的な分業による結びつきへと変化していることを記述。世界システムが新たな形へと変容していることを押さえられます。

## POINT 2

- 大学入試の小論文のテーマとなりうる内容を取り上げています。
- 米中対立
  - GAFAMなどのグローバル企業の影響
  - 「自国第一主義」
  - SNSと民主主義
  - グローバル化の光と影



## 結びつく世界 現代 世界のあり方を変えるグローバル化の進展

●新興国の台頭と国際社会の基軸としての米中関係  
 現在、世界システムは大きく変容しつつある。かつての世界システムの基本構造は、垂直的な分業が格差を生みだすものだった。しかし、20世紀末からの情報化・デジタル化の進展と金融経済の膨張による急速なグローバル化の結果、世界の産業構造と資本の流れが変化し、従来の世界システムの見方だけではとらえられない局面がみられるようになった。

●大きな変化の一つが、「グローバルサウス」とよばれる国々の台頭である。かつて世界システムのなかで低開発が進められ、「周辺」とされたこれらの新興国では、グローバル化のなかで工業化が進み、「中核」諸国との間で工業製品を輸出しあう水平的な分業が拡大した。こうして垂直的な「中核-周辺」構造自体が変わりつつある。特に中国は国際的な存在感を高め、かつての「覇権国家」アメリカと経済摩擦を生んでいる。今日の国際社会は米中の緊張関係が一つの基軸となっているが、これを従来の世界システムからとらえると、21世紀の「覇権」争いとみることできる。

●変容する世界システムのなかのグローバル企業  
 ほかの大きな変化として、グローバル企業の世界的事業展開がある。デジタル技術の発展に伴って成長した、プラットフォームとよばれるようなグローバル企業が世界規模で流通・情報・労働を掌握し、世界中の人々の生活基盤がそのサービスに依存しているため、国家と企業の関係も変容している。グローバル企業は、さまざまな規制や技術標準に開

時代の 現代は新興国が台頭し、グローバル企業の展開が顕著になっている。先進国ではグローバル化への批判が高まり、リベラルな民主主義の危機の兆候が広がっている。

わる国際的なルール形成に大きな影響力をもつ一方、租税回避など国家による統治を逃れる側面も持っている。国家とグローバル企業は互いに依存しつつも、グローバル企業の巨大化に伴うリスクを制限するための立法や規制の導入を求める動きも広がっている。

●反グローバル化と自由主義の危機  
 グローバル化は、かつての世界システムの「中核」だった「先進国」の地位を動揺させている。新興国の台頭やグローバル企業の展開、製造業の海外流出、デジタル化による企業活動の合理化に伴い、「先進国」では中間層の所得が伸び悩んでいる。その結果、グローバル化が自国の伝統や安全をおびやかすとする右派的な立場からも、グローバルな資本主義の論理が国内格差を拡大させるとする左派的な立場からも、グローバル化への批判が強まった。そうした批判は、SNSなどによって増幅され、社会の分断を助長している。また、グローバル化の負の影響に有効な対策を打てない既存政党への不信から「自国第一主義」をうたう政党や政治家が影響力を高めている国もある。こうして「先進国」においてもリベラルな民主主義の危機の兆候が広がっている。

●持続可能な世界の創出に向けて  
 グローバル化は、地球温暖化などグローバルなリスクも生み出している。リスクの増殖を抑え、リベラルな民主主義の危機を克服し、持続可能な世界を創出するには、国・企業・個人それぞれが多様性を認めて連帯する、開かれた社会の実現が求められる。

▶ p.352

363

## POINT 3 入試に直結!

背景→原因→結果→課題を分かりやすく記述しています。因果関係を丁寧に記述しており、大学入試の論述問題の対策に応用できます。

### 例) 反グローバル化について

新興国の台頭やグローバル企業の展開、製造業の海外流出、デジタル化による企業活動の合理化(背景)

- ↓ 先進国における中間層所得の伸び悩み(原因)
- ↓ グローバル化への批判の高まり、「自国第一主義」をうたう政党や政治家の影響力増大(結果)
- ↓ SNSを通じた批判増幅による社会分断の進行、リベラルな民主主義の危機の兆候(課題)

## 要約文「時代の特徴」

ページ下部の要約文「時代の特徴」をつなげて読むことで、世界史の全体像を端的につかむことができます。

### ▼ 19世紀 (p.224)

時代の いち早く産業革命を成し遂げたイギリスは、19世紀になると世界で圧倒的な力をもつ覇権国家となった。東アジアや東南アジアも世界システムに組み込まれることとなった。

産業革命とイギリスの覇権

### ▼ 19世紀後半～20世紀初頭 (p.271)

時代の イギリスの覇権は衰退を始め、代わってドイツとアメリカが台頭し、帝国主義の争いを通じて世界の一体化が加速した。アジアでも域内交易が加速し、経済・社会の発展が進んだ。

ドイツ・アメリカの台頭

### ▼ 20世紀前半 (p.314)

時代の 第一次世界大戦後、イギリスの覇権は衰え、アメリカが台頭した。世界の一体化の流れは世界恐慌を経ていったん後退し、総力戦の経験は第二次世界大戦後の福祉国家の基盤となった。

アメリカの台頭と二つの世界大戦

### ▼ 20世紀後半 (p.352)

時代の 第二次世界大戦後、アメリカの覇権が確立され、冷戦構造の下でも世界の一体化は進んだ。しかし1960年代後半から西ドイツや日本の成長などによって、アメリカの覇権は揺らいだ。

アメリカの覇権と冷戦

### ▼ 現代 (p.363)

時代の 現代は新興国が台頭し、グローバル企業の展開が顕著になっている。先進国ではグローバル化への批判が高まり、リベラルな民主主義の危機の兆候が広がっている。

新興国の台頭とグローバル化

ページ	テーマ (全12か所)
p.42	1～2世紀 諸地域を結ぶ「陸の道」と「海の道」
p.82	3～5世紀 ユーラシアの再編と交易ネットワーク
p.97	8～9世紀 イスラーム=ネットワークの形成
p.130	10～12世紀 「海の道」の活性化
p.140	13～14世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機 (試し読み▶本資料p.46)
p.172	16世紀 「世界の一体化」の始まり (試し読み▶本資料p.56)
p.200-201	17～18世紀 「17世紀の危機」とその後の諸地域の発展
p.224-225	19世紀 イギリスの覇権と世界システム
p.271	19世紀後半～20世紀初頭 世界大戦前夜の世界システム
p.314	20世紀前半 二つの世界大戦と資本主義の変容
p.352	20世紀後半 アメリカの覇権とその変容
p.363	現代 世界のあり方を変えるグローバル化の進展 刷新!

# 資料・構造図・本文で理解が深まる文化史

- 文化に関するページの上部には、本文と関連づける形で多様な資料を掲載。本文では文化を生んだ社会背景を丁寧に解説しています。
- 政治的な動きや歴史上のできごとと、文化のつながりを示す構造図を新たに掲載し、紙面構成も見直しました。これにより、文化を通して社会の様子が把握しやすい構成となっています。

**POINT 1**

**レイアウト**

原則、「文化からみる当時の社会」と本文小見出しの開始位置をそろえ、それぞれを結びつけて読み進められるように紙面構成を改善。当時の文化を通じて社会を理解できるようにしています。

▼ p.50-51

**文化からみる当時の社会**

**国際色豊かな唐の文化**

唐の時代には、南北の統合と西域文化の流入により、国際色豊かな文化が形づくられた。さまざまな資料から、唐の文化の国際性をみてみよう。



ソグド人の乗人たち

西域から来たと思われるラクダ

↑3 唐三彩 派手な彩色の陶器が流行した。前面の人物が持つ弦楽器は琵琶とよばれる。

↑1 外出する宮廷の人々 女性たちの中では、胡服とよばれる、筒袖で体にぴったり沿う西方趣味の服装が流行した。胡とは、当時ソグドを指した。

↑2 発掘された小麦粉食品 小麦の製粉技術は西方由来である。小麦粉を使った食品は漢代に現れ、「胡餅」「胡食」とよばれた。唐代には民衆にとっても日常的な食物となっていた。

**玄宗時代の長安の流行**

宮中音楽では胡曲が好まれ、貴人の食事はことごとく胡食が供され、身分のある男性も女性も皆胡服を着るまでになった。

読み解き 図1~3や史料を根拠に、唐の国際性にはどのような特徴があったのか考えよう。

**1 世界宗教の伝播** この時期、特定の民族や地域を超えて信仰される世界宗教が広まった。仏教に加え、西方からマニ教・ゾロアスター教(祆教、→p.64)・ネストリウス派キリスト教(景教、→p.79)・イスラーム(後に回教とよばれる、→p.91)が伝来した(→p.15)。

### POINT 3 儒教・仏教・道教と社会

**本文**

魏・晋以降の遊牧民との融合を背景に、新しい文化が生まれたことがわかります。また、隋・唐の時代には西域文化が流入し、文化の変容がさらに進んだことも押さえられます。

**南北文化の融合 晋唐文化**

魏・晋以来、江南の優雅な文化と華北の質実な文化の二つの流れが成長し、隋・唐で融合した。仏教をはじめ西域文化も流入し、唐代には国際色豊かな文化が栄えた。

魏・晋代に始まり、南朝・北朝で発展し隋・唐に至る文化の流れを晋唐文化という。この一連の文化は、朝貢使節や僧侶・商人の往来を通して各地に広がっていき、日本を含む東アジア共通の文化的土壌となった。

魏・晋以降、中央ユーラシアに連なる華北では、質実剛健な遊牧系政権の下で、仏教をはじめとする外来文化が漢代までの文化と融合した。また、地理書「水経注」や農書「齊民要術」などの実用的な書物が現れた。これに対し、緑豊かな江南では貴族中心の優雅な六朝文化が栄え、世俗を離れた趣味や幅広い教養が貴族たちに好まれ、清談とよばれる哲学的談議が流行した。東晋の陶潜(陶淵明)の詩や王羲之の書、顧愷之の絵画、南朝の梁で編まれた詩文集「文選」などは、後世まで広く愛された。

この二つの流れが南北の統合と大運河によって結びつき、さらにソグド文化やインド系・イラン系文化などの入り混じった西域文化が流入・融合したのが、隋唐の文化である。主に華北で発展した漢訳仏教や仏像、江南で発達した詩文や書・画は、遊牧民と漢人、華北と江南といった違いを超えて広く受け入れられ、さらに時代や地域をも超えて後世まで重

### アジア各地に広まる文化

晋唐文化は、漢字文化圏共通の文化的土壌となった。資料から、日本でもどのように唐の文化が受容されていたのかみてみよう。

白居易の唐詩

唐の詩人である白居易が、長安から地方へ左遷され、廬山のもとに草庵を建てたときによんだ詩。

雪のたいそう高くつもった日、…話をしていると、宮さまが、[少納言よ、香炉峰の雪はどんなふうかしら。]とおっしゃるので、格子をあげ、みすを高くまきあげるとおわらいになった。[…白氏文集の詩は知っていても、なかなか、あなたのように機転はききませぬわ。やっぱりこちらの宮さまにお仕えなさるにふさわしい方よ。]と、みんなにいわれた。

(大庭みな子訳「現代語訳 枕草子」一部改変)

↑5 『枕草子』(1000年ごろ)

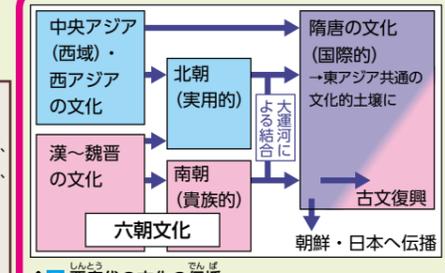
雪のたいそう高くつもった日、…話をしていると、宮さまが、[少納言よ、香炉峰の雪はどんなふうかしら。]とおっしゃるので、格子をあげ、みすを高くまきあげるとおわらいになった。[…白氏文集の詩は知っていても、なかなか、あなたのように機転はききませぬわ。やっぱりこちらの宮さまにお仕えなさるにふさわしい方よ。]と、みんなにいわれた。

(大庭みな子訳「現代語訳 枕草子」一部改変)

↑5 『枕草子』 日本の平安時代の作品。藤原道隆の娘、中宮定子に仕える清少納言が、宮廷生活を記した随筆。



↑6 法隆寺伝来の香木(7~8世紀) 仏教とともに、仏事に必要な南・東南アジア産の香料も伝来した。この香木には、ササン朝時代の文字の銘文とソグド文字の焼き印が残されている。



↑7 晋唐時代の文化の伝播

読み解き 史料4の漢詩のうち、史料5と関係する箇所を線を引こう。また、史料4は日本の貴族にとってどのような存在だったのか考えよう。

んじられた。李白や杜甫、王維、白居易(白楽天)らの唐詩は、中国にとどまらず、日本をはじめ漢字文化圏共通の教養として広く親しまれた。

多様な文化に寛容な遊牧民が主導権を握っていたこの時代は、さまざまな宗教・思想も活発に展開した。なかでも紀元前後に伝来した仏教は、儒教や華夷思想に対抗できる普遍的な世界観・死生観をもち、非漢人の君主や乱世に幻滅した漢人貴族に支持された。仏教は、4世紀以降、中央アジア出身の僧侶玄奘・鳩摩羅什によって華北の諸国で盛んになり、江南でも貴族たちに広まった。北朝から唐にかけて、仏教は国家的保護を受けて栄え、雲岡や竜門、敦煌などに巨大な石窟寺院が造営された。

仏典の伝来・翻訳が進み、天台宗・禪宗・浄土宗などの諸宗派が成立した。一方、外来の仏教の普及は在来の民間信仰や儒教を刺激し、老荘思想や神仙思想などを取り入れた道教が成立して、唐代には王朝の保護を受けた。儒教でも経典の整理・研究が進み、唐代には太宗の命で注釈書『五経正義』がつくられ、科挙試験のための公式解釈となった。

やがて唐代後半になると、このような国際色豊かで普遍性の高い文化から、古文の復興を主張した韓愈・柳宗元らのように、中国内地の風土に根ざし、漢代に模範を求める動きが盛んになった。

**POINT 4**

**本文**

魏・晋から隋・唐にかけては、多様な文化に寛容な遊牧民が主導権を握っていたため、さまざまな宗教・思想が展開したことがわかります。

2 求法僧の取経の旅 東晋の僧法顕は、仏典を求めて陸路で

**POINT 5**

**本文**

仏教の普及によって在来の思想が刺激され、道教の成立や儒教の体系化が進み、中国で多くの宗教が共存する状況が生まれたことがわかります。

**POINT 2**

**構造図**

旧版教科書では、整理表(一覧表)でまとめていた文化史を、文化構造図で示す形に変更しました。これにより、政治的な動きや歴史上のできごとと、文化との関連が視覚的に理解できるようにしています。旧版教科書の文化整理表はページ上部のQRコードから閲覧できます。(→本資料p.41)

▼令和5年度以降版(旧版)教科書に掲載していた文化整理表(例)

魏晋南北朝時代	
詩文	●田園詩人…陶潜(陶淵明)(東晋)「菊去來辭」 ●四六駢體(4字・6字の対句・韻を用いた華麗な文章)が流行…昭明太子(梁)「文選」を編集
書画	王羲之(東晋)…書聖 楷書・行書・草書を芸術化 顧愷之(東晋)…画聖「女史箴図」
宗教	●渡来僧 仏國澄(ブドテンガ)…亀茲(クチャ)出身 鳩摩羅什(クマラジーヴァ)…仏典漢訳 達磨(ダルマ)…インド僧、禪宗の始祖 ●漢印僧…法顕(東晋)「仏国記」 ●石窟寺院…敦煌(莫高窟)・雲岡・竜門
思想	冠諫之(北魏)が道教教団を確立。北魏の保護を受ける 清談が流行…「竹林の七賢」
隋唐時代	
詩文	●唐詩…李白・杜甫・王維・白居易 ●古文(漢代の文体)の復興…韓愈・柳宗元
書画	●唐画…張彦遠「歴代名画記」 ●書画…顔真卿
宗教	●宮廷・貴族の保護で隆盛 天台宗・禪宗・浄土宗など宗派が成立 ●漢印僧…玄奘「大唐西域記」、義浄「南海寄帰内法伝」 ●マニ教・ゾロアスター教(祆教)・ネストリウス派キリスト教(景教)・イスラーム
その他	●諸宗派(儒教)を整理する動き…孔穎達「五経正義」 ●外書 唐三彩…緑・褐色、白などの彩色をした陶器

資料・構造図・本文で理解が深まる文化史

●近年の大学入試では、文化史の知識を記憶しているだけでなく、社会・政治・経済との関連のなかで理解しているかが重視され、図版や史料を読み取る問題、文化を比較する問題が増加傾向にあります。

入試に直結!

●このような出題への対策として、資料読解の問い読み解きを設置しています。本文との関連づけや資料どうしの比較を促し、文化史への理解を深めつつ、大学入試への対策にもなるようにしています。

p.258-259

文化からみる当時の社会

科学だけではなく社会に影響を与えた進化論

19世紀後半に「種の起源」が書かれ、人々の考え方に大きな影響を与えた。「種の起源」とそれに対する当時の批判や、進化論に影響を受けた社会進化論を読み解く。

文化整理表



ダーウィン「種の起源」(進化論 1859年)

…たとえわずかなものであれ、他の個体よりも有利な変異を備えた個体は、生き延びて同じ性質の子を残す可能性が大きいと考えられなければならない。その一方で、少しでも不利な変異は確実に排除されることもまた、確かなような気がする。

このように、有利な変異は保存され、不利な変異は排除される過程を、私は自然淘汰と呼んでいる。



↑1 ダーウィンの進化論を風刺する絵(1874年)

「社会進化論」(キッド著 1894年)

…差異は、ヨーロッパの進歩的諸民族と非ヨーロッパ諸民族とを比較した場合にいつそう顕著である。合衆国や西インドにおける不精で不用心で容儀な黒人の存在を、その黒人が住む場を支配する民族の存在と比較する時、その差異はいつそう明瞭となる。

読み解き 当時、進化論が批判されたのはなぜか、図1や本文をもとに考えよう。また、後に社会進化論は進化論を用いてどのような主張をしたのだろうか。

Table with 3 columns: 文学, 美術, 音楽. It lists various movements and artists like Romanticism, Realism, Impressionism, and Symbolism.

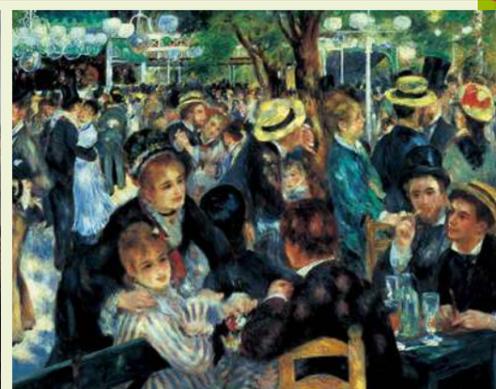
↑2 19世紀後半の文化

二つのジャンルの絵画に描かれたフランス社会

19世紀後半のヨーロッパ美術を牽引したのはフランスだった。写実主義・自然主義と印象派をそれぞれ代表する絵画を通して、当時のフランス民衆社会の様相をみてみよう。



↑3 ミレー作「落ち穂拾い」 第二帝政下(→p.230)の農村社会を描いている。聖書では、農地所有者に対して、穀物収穫時に生じる落ち穂は貧者のために捨て置くように記されている。



↑4 ルノワール作「ムラン=ド=ラ=ギャレット」 普法戦争敗北(→p.234)から5年後、パリ市内のダンスホールは、おしゃれに気を使う余裕のできた職人・労働者・商店員・女工たちで賑わっていた。

読み解き 第二帝政下の農村社会の様子と、帝国主義時代の都市民衆生活の様子は、それぞれどのような感じだろうか。また、どのような要因で図4のような都市民衆生活が発達したのか、本文の記述も踏まえて考えよう。

大衆が文化を支える新時代

芸術分野にも自然科学の影響が及んだ。印刷技術の進歩により、芸術が大衆の身近なものになると同時に、マスメディアの出現で大衆社会のきざしがみえ始めた。

19世紀後半は、文学や絵画でも自然科学の影響が表れ、人物を客観的に描写しようとする写実主義が台頭した。写実主義をさらに推し進めた自然主義の文学では、人物の行動を遺伝で説明するなど、科学的知見を取り入れる傾向が強まった。また、光に関する研究が深まるにつれて、光の変化を絵筆で表現しようとする画家たち(印象派)が現れた。さらに、科学知識を応用するサイエンスフィクション(SF)小説も誕生した。

これまで専ら貴族や上層ブルジョワジーのものだった文学と絵画は、19世紀後半になると、職人・労働者・商店員・農民らにも身近になった。これは第2次産業革命の進展で国民全般の生活水準が向上したことや、科学技術の発展が印刷術にも及んだ結果、カラー印刷が可能になり、書籍や雑誌の価格が低下して、安価な大衆向け新聞も欧米各国で創刊されたためだった。新聞では連載小説が、雑誌では小説に加えて名画の複製画が人気を博した。

こうしたマスメディアの登場と、同時期に学校教育の義務化が進んで識字率が向上したことが相まって、マスコミュニケーションにより画一的な世論が形成される大衆社会へのきざしも、19世紀末に現れ始めた。

POINT 2

本文と絵画を関連づけることで、第二帝政下の農村では、落ち穂拾いによって辛うじて生活している貧者がいたこと、帝国主義時代の都市では、第2次産業革命の進展で国民の生活水準が向上し、大衆が娯楽を享受できるようになったことが読み取れます。このように、読み解きを通して、19世紀後半のフランスの民衆社会の様相をとらえられます。

問い つながり

この時期の諸科学が帝国主義(→p.260)や、国民国家に与えた影響について要約しよう。

19世紀後半の社会科学

自然科学が発展するにつれ、社会科学分野でも自然科学的思考への関心が高まった。進化論が提起され、従来の宗教観が揺らぐようになった。

自然科学界でさまざまな法則が発見されたことは、社会科学にも影響を与えた。社会を考察するときに、統計資料を用いたり、何らかの法則を探求しようとする機運が強まったのである。18世紀末に『人口論』を著し、貧困の原因を人口増加と食料生産の不均等に求めたイギリスのマルサスがその先駆者だった。19世紀後半には自然科学的思考を重視する傾向がますます強まり、イギリスのダーウィンが「種の起源」(1859年)のなかで唱えた進化論が、宗教観と社会観に大きな影響を及ぼした。

進化論を社会に流用したイギリスのスペンサーは「適者生存」論(社会進化論)を唱え、これが1870年代に入ると、社会的弱者や、劣等とみなされた民族・人種への迫害を正当化する論理になっていった。

歴史学の分野でも、史料批判による科学的研究方法が重視されるようになり、ここに近代歴史学が始まった。また、史料館の整備と史料集の刊行が各国で進み、ナショナリズムの風潮と相まって、「国民」の存在を前提にその成立・発展を叙述する国民史の流行につながった。一方で、ナショナリズムに批判的なマルクスが唱えた史的唯物論(唯物史観)も、歴史学の発展に貢献した。

民族を束ねる「物語」の再発見

19世紀は科学の進歩と同時にナショナリズムを正当なものとする論理が構築された時代であり、そのための「物語」が必要とされた。ナポレオン戦争に敗北してフランスに支配されたプロイセンでは、「ドイツ人」としての意識を高める運動が起こった(→p.216)。そのなかで再発見されたのが、中世に成立していた民族叙事詩「ニーベルンゲン」の歌だった。この物語に着目して、ロマン派のヴァグナーによって「ニーベルンゲンの指環」が作曲された。このオペラは広く愛好され、ナチ党が政権を握った時代(→p.305)には作中の楽曲をつなぎ合わせた「ニーベルンゲン行進曲」が好んで演奏されるなど、愛国心を高揚させる役割を担っていた。

Table with 2 columns: ページ, テーマ(全26か所). Lists page numbers and topics like Confucianism, Roman culture, and modernism.

POINT 3

読み解きの解答例や解答のポイントは指導資料(→本資料p.42)に掲載しています。

刷新!

p.198-199

- 複数資料の読み取りや説明・議論を通して歴史の重要概念を理解し、自身の言葉で表現する力を育む特設ページです。
- テーマを全面的に見直し、より多面的な視点で考えられる内容へ刷新しました。また、取り組みやすくなるよう、資料の配置や問いの流れなども工夫しています。

POINT 1

中学校や歴史総合、これまでの世界史探究の学習事項の振り返りを促しています。

探究 TRY

奴隷とはどのような存在だろうか? 一複数の時代・地域から考える奴隷の定義

人も商品だった?

過去には、人が奴隷として使役されたり、商品として売買されたりしていた時代があった。このページでは、複数の時代・地域の奴隷に関する資料から、当時の奴隷とはどのような存在だったのか、考察しよう。

学習の振り返り

歴史総合: 大西洋三角貿易、南北戦争
世界史探究: 古代ギリシア・ローマ→p.65・73、
イスラーム世界→p.102、奴隷貿易→p.197

	奴隷の価格 (ポンド)	上昇率(奴隷、 1675-79=100)	砂糖の価格 (ポンド)	上昇率(砂糖、 1675-79=100)
1675-79	18.5	100.0	1.04	100.0
1700-04	25.8	139.5	2.13	204.3
1725-29	28.8	155.7	1.36	130.3
1750-54	38.2	206.5	2.01	192.8
1775-79	43.8	236.8	1.96	188.0
1800-04	50.2	271.4	1.42	136.1

↑11 西インド諸島での奴隷と砂糖の価格の比較

- HOP 読解 ▶ 1) 古代ギリシア・ローマの奴隷はどのような存在だったのだろうか。Aの資料などを参考に考えよう。  
 2) イスラーム世界の奴隷はどのような存在だったのだろうか。Bの資料などを参考に考えよう。  
 3) 大西洋三角貿易における奴隷はどのような存在だったのだろうか。Cの資料などを参考に考えよう。  
 4) 1)~3)の奴隷の共通点と相違点は何か。

STEP 説明・議論

HOP 読解 ▶での考察やほかの資料も調べて、奴隷とはどのような存在と考えられるか、グループで意見交換し、右の思考ツールにまとめよう。その上で、あなたが奴隷を定義する最も重要な要素を一つ選び、説明しよう。



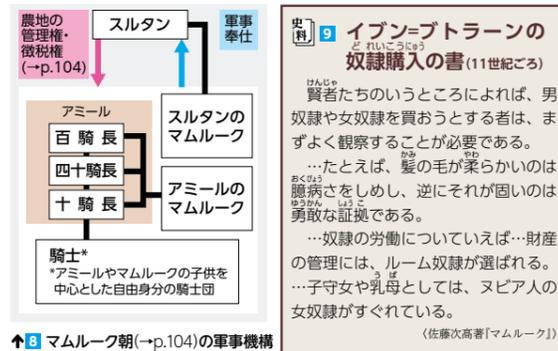
Jump! 現代への展望

現代でもイギリスに「現代奴隷法」が存在する。この法律や国連の国際労働機関などの資料から、現代の奴隷的な労働について調べよう。また、ここでの探究の成果を踏まえて、なぜ奴隷的な労働が現代でも存在するのか、そのような状態を解消するにはどのような取り組みが必要か、考えよう。

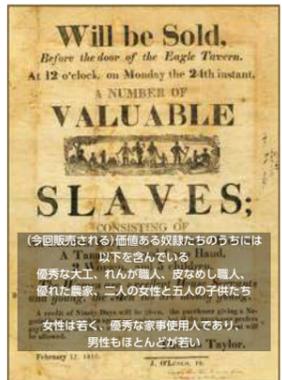
B イスラーム世界の奴隷



↑2 マムルーク騎士の訓練風景(1370年ごろ) マムルークは、功績に応じてアミールやスルタン(→p.103)への出世もありえた。



C 大西洋三角貿易で運ばれた奴隷



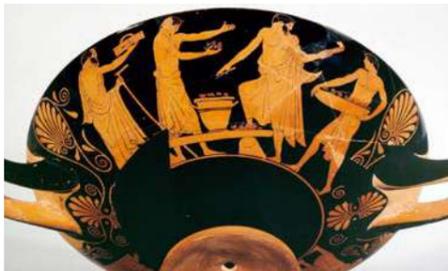
↑10 奴隷売りのポスター(1812年)

史料 11 ある奴隷の手記
 私が注文された後、この目で見て覚えた恐怖は、言葉では表せない…年々多くの人々のうめき声や泣き声を聞き、仲間の捕縛たちの何人かを目にした。しかし、船が到着して連れていかれる時ほど恐ろしい光景はなかった。鎖の音、鞭の鳴る音、それから仲間のうめき声と泣き声しか聞こえなかった。これでもかというくらい残忍なやり方で鞭打たれ、たたかれ、その場で身動きができなくなった者もいた。(デイヴィッド=エルティスはか著、増井志津代訳「環大西洋奴隷貿易歴史地図」)



↑12 ブラジルの様子を描写した本の挿絵(1830年代) ブラジルへ上陸した奴隷は、奴隷貿易全体の約4割を占めた(→p.101)。

A 古代ギリシア・ローマの奴隷



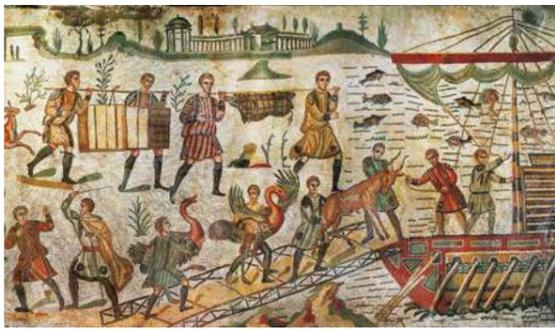
↑2 奴隷とその主人が描かれている杯(前5世紀ごろ、アテネ) 古代ギリシアにおいて、奴隷は商品として売買されることが多く、家内奴隷を所有している市民も多かった。

史料 3 アリストテレス(→p.70)「政治学」にみる奴隷観

奴隷は生きた財産である。…もしすべての道具が、命令されて、または(命令を)承知して、…みづからの仕事をなしとげることができるとすれば、…主人に奴隷は要らないだろう。…精神が肉体を統治するように主人は奴隷を統治する。…奴隷にとっては統治されるのが良いことである。…奴隷と家畜の用途には大差がない。…あるものが生まれながらにして自由人であり、あるものが奴隷であるとするれば、奴隷であることも正義になったことであることは明白である。(太田秀通訳、下中彌三郎編「西洋史料集成」一部改変)

史料 5 奴隷が解放される様子

才能や責任を持ってこうした監督役に就く奴隷は、しばしばその忠実な奉仕に対して報酬を与えられた。主人は奴隷に対し、土地や他の奴隷など自分の好きに使える財産を獲得し、ゆくゆくは自分で自分を買い取って自由を得ることを許した。こうした解放民はしばしば庇護民として元の主人との関係を継続した。(ロバートクナップ著、西村洋訳「古代ローマの庶民たち」)



↑4 船に積み荷を載せるローマの奴隷と庶民の自由人(3~4世紀ごろ、イタリヤ) ↓5 当時のローマにおける主な奴隷の供給源

- 1 戦争捕虜 戦争の結果属州(→p.73)となった地域の人々は、戦争捕虜としてローマにもたらされ、最も大きな奴隷の供給源となった。
- 2 奴隷の子供 奴隷が産んだ子供は、同じく奴隷として育てられた。
- 3 自由人の拾い子 ローマ法では拾い子は自由人の身とされていたが、実際は本来の身分の証明が難しく、奴隷となる場合が多かった。
- 4 盗賊や海賊による誘拐 旅人や農村地域の人々を誘拐し、奴隷として売り飛ばす「奴隷商」もいた。

入試に直結! 「探究TRY」は大学入試にも直結!

- 複数資料を根拠に論理的に記述する力が身につきます
 テーマに対して複数の資料を読み取り、根拠をもとに記述する学習を通して、資料読解力や論理的思考力・記述力が身につきます。
- 過去の事象を現代の課題と結びつけて考察する力が身につきます
 歴史事象を現代の課題と結びつけて考察する問いを通して、学んだ内容を現代社会のなかでとらえ直すことで、総合型選抜で求められる課題探究力や、小論文に応用できる力が身につきます。

POINT 2

異なる時代・地域の複数の資料から、奴隷のあり方も多様であったことがわかります。例えば、奴隷が支配者になった時代を取り上げ、生徒が奴隷に抱く通念を揺るがすことで、より深い概念理解を促しています。

「探究TRY」の三段階の問い

HOP 読解 ▶
複数の資料を読解し、比較したり関連づけたりします。

STEP 説明・議論 ▶
HOP 読解 ▶を受けて、グループで意見交換し、議論を踏まえて、思考ツールで自身の考えをまとめます。

Jump! 現代への展望
ここまでの探究の成果を踏まえて、テーマに関連する現代の問題を考察し、5部4章の探究学習につなげます。

ページ	テーマ(全5か所)	深める概念
p.54-55	各国は「中華」とどのようにつきあったのか? 刷新!	国家
p.170-171	なぜ多民族が共存できたのか? 刷新!	民族
p.198-199	奴隷とはどのような存在だろうか? 刷新!	労働力
p.222-223	産業革命は「革命」といえるのか? 刷新!	産業革命
p.340-341	「平等」は達成されているのか? (試し読み▶本資料p.60-61) 刷新!	平等

特色 ①

特色 ②

特色 ③

特色 ④

特色 ⑤

入試対応

QRコンテンツ

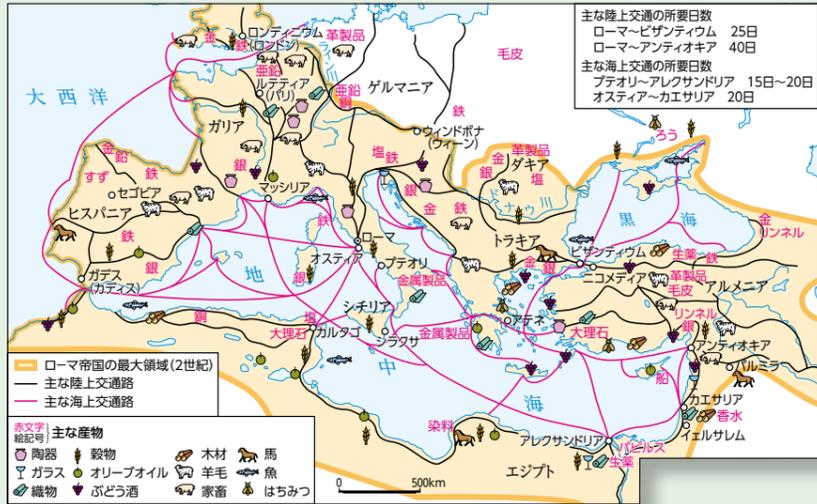
関連教材

試し読み

B5判の紙面を生かし、本文の周囲にさまざまな種類の資料・コラムを掲載しています。

地図

地図を大小合わせて196図掲載(1見開き当たり約1図)。地図読解力を育みつつ、歴史の舞台や地域の結びつきを確認しながら学習できます。



p.75 ローマ帝国の遠隔地商業ネットワーク

POINT 1

主な産物を絵記号で示すことで、視覚的に各地の産物を確認できます。また、海と陸のネットワークの広がりや結節点もとらえられます。

コラム

「視点を変えて」

さまざまな立場に焦点を当て、多面的・多角的に世界史を考察するコラムです。

聖地エルサレムをめぐる争い

エルサレムは、ユダヤ教にとっては神殿があった神の町であり、キリスト教にとってはイエスが処刑された聖地である。イスラームでは、ムハンマドの天国訪問の奇跡を象徴する土地とされた。三つの宗教の聖地とされたこの町では、それぞれの信者が共存していたが、しばしば、争奪戦争の対象ともなった。十字軍運動はその代表的なものであり、ヨーロッパ西部のキリスト教徒は、ムスリムの手からこの地を奪うため軍事遠征を繰り返した。



↑1 イエルサレムの岩のドーム イスラームの聖所にウマイヤ朝が建設したもので、ほぼ同じ場所にユダヤ教・キリスト教のそれぞれの聖所が存在する。

p.104

POINT 5

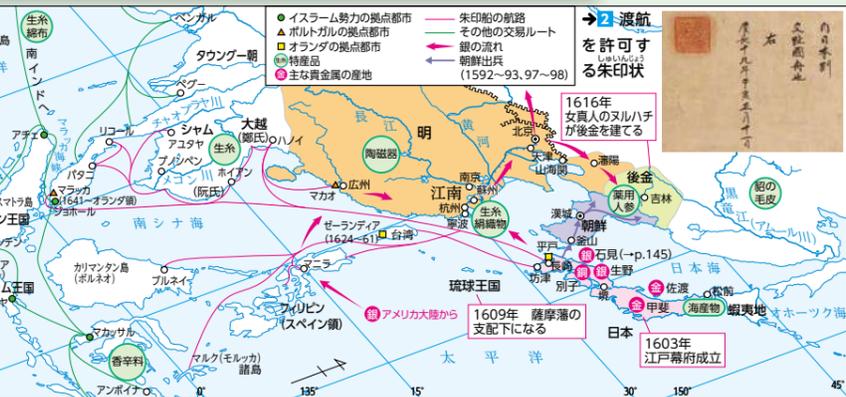
現代の問題につながるトピックを、多様な主張とともに考察できます。

教皇ウルバヌス2世の演説(1095年)

キリストの伝令として、…こう説いていただきたい。…邪悪な民族をわれわれの土地から追い払うため、キリストの崇拜者たちを、機を逸せず助けるべく努めるようにと。

サラディンの演説(1187年)

神の満足をともに、朗報を喜べ。神は…この地が多神教徒の手の中で100年近くの間獄された後、イスラームというふさわしい場所に戻し、神の名を唱え称えることができるようこの街を清められた。



p.148 17世紀初めの東アジア交易

POINT 2

日本列島から東・東南アジア沿海部を一望できる地図で、海上交易のルートをとらえられます。

大元ウルスと日本

日本と大元ウルスの間では、文永・弘安の役のため政府間の関係は開かれなかったが、民間の海上貿易は活発に行われた。戦争時や倭寇(→p.142)の出没時などには、両国の政府が沿岸警備の強化や海外交通の統制をしたが、それ以外の時期は海商が盛んに往来して貿易を行った。中心地となったのは寧波(明州)、元代には慶元と博多(→p.129)であり、博多は元軍の攻撃目標となったにもかかわらず、戦後はすぐに繁栄に戻った。戦争や外交を担った幕府や寺社なども、有力者が寺院建設費の捻出の名目で貿易船を派遣し、私的な貿易を行っていた。貿易船には多くの僧が便乗して往来し、禅宗や宋学など新しい学問や文化がもたらされた。喫茶の風習が広まったのも、禅僧を通してである。



↑2 元軍と戦う日本の武士 元軍は、モンゴル・女真・高麗・南宋などさまざまな出身者の混成であった。日本側は元軍の集団戦法や火薬兵器に苦戦したが、元軍も日本側が築いた防壁に上陸をはばまれた。

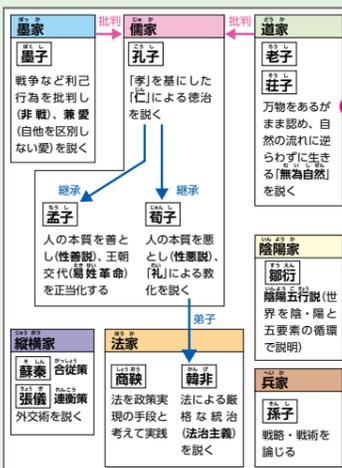
p.137

POINT 6

世界の動きと日本の動きがどのように関連してきたのかがわかります。

構造図

構造図を各所に設置し、文章だけではつかみにくい複雑な内容を視覚的に理解できるようにしています。要点を整理しながら学びを進められます。

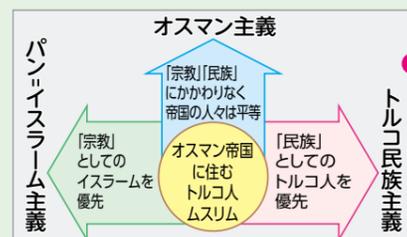


p.33 諸子百家の思想

POINT 3

諸子百家の主な思想と関係性を端的にとらえられます。

p.279 オスマン帝国のトルコ人の国家観

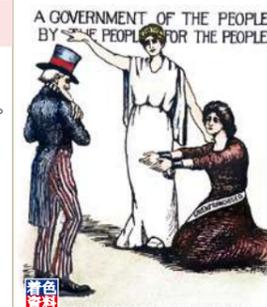


POINT 4

文章だけでは難解な「オスマン主義」「トルコ民主主義」「パン=イスラーム主義」について整理できます。

女性の社会進出と選挙権運動

女性差別が問題視され、その撤廃を目指す理念が広がり始めるのは、ようやく18世紀後半になってからである。その背景には、基本的人権や「法の下での平等」などを掲げるアメリカ独立戦争(→p.210)とフランス革命(→p.212)の展開があった。平等を追求しようとするれば、男女平等も課題になることは自明だった。しかし19世紀に入っても、「法の下での平等」の核心である女性選挙権は実現しなかった。大きな転機が訪れるのは19世紀末以降である。家庭外で働く女性が増加し、これまで有産市民層出身の少数の女性によって担われてきた女性選挙権運動に加わったのである。選挙権を求める女性たちの声は、第一次世界大戦下の総力戦(→p.283)で新後を担って以降、ますます大きくなった。



↑4 女性選挙権を求めるポスター(1919年、アメリカ) 読み解き 図4は何が書かれているのだろうか。

女性選挙権の獲得年

Table with 2 columns: Year and Country. Includes New Zealand (1893), Australia (1902), Finland (1906), etc.

p.299

POINT 7

大学入試での出題が増えている女性史も数多く取り上げています。

その他、下記コラムも随所に設置しています。

Key Word ...世界史学習の際に押さえておきたい概念を解説したコラムです。

コラム ...当時の社会の様相や、世界を結びつけたものなどに焦点を当てたコラムです。

# 探究活動と資料読解を促す特設

## 資料読解の技能を養う「読み解き」

### 単体資料の「読み解き」

#### 絵画



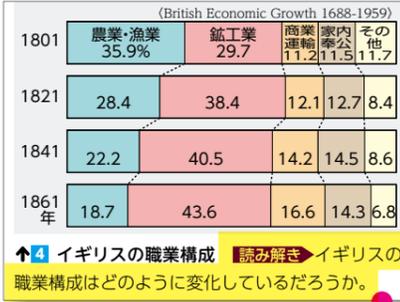
↑2 エリザベス1世 背景にはスペインに勝利したアルマダの海戦(→p.180)が描かれている。  
読み解き 女王は地球儀に手を置き、支配欲を示しているが、手を置いている地域はどこだろうか。

▲ p.182 2

#### POINT 1

女王が北アメリカ(新大陸)に手を置いていることから、当時のイギリスが海外進出に強い意欲をもっていたことを読み取れます。描かれた仕草に注目することを、肖像画が**政治的な意図**を伝えるために使用されていたことにも気づくことができます。

#### グラフ



↑4 イギリスの職業構成 読み解き イギリスの職業構成はどのように変化しているだろうか。

▲ p.207 4

#### POINT 2

「工場労働者が増えた」という本文に関連して、鉱工業に従事する職業構成割合の増加をグラフから読み取れます。

- 資料読解を促す問い「読み解き」を全183か所(1見開き当たり約1か所)設置しています。
- 資料の着眼点を示すことで、資料への理解を広げつつ、読解能力も育めるようにしています。

### 同じ種類の資料どうしを比較・関連づける「読み解き」

#### 文章史料

##### 史料 ヘロドトス『歴史』に記されたスキタイ

まず…ギリシア系スキタイ人が住んでおり、その向うには…農耕スキタイ人が住むが、彼らが穀物を栽培するのは、自分たちの食用のためではなく、他に売却するのが目的なのである。…東に向い…そこは遊牧スキタイ人の世界で、彼らは種も蒔かねば耕す術も知らない。…ゲロス河\*以遠は…王領のスキティアで、このスキタイ人は最も勇敢で数も多く、他のスキタイ人を自分の隷属民と見做している。…町も城塞も築いておらず、その一人残らずが家を運んで移動してゆく騎馬の弓使いで、生活は農耕によらず家畜に頼り、住む家は獣に曳かせる車である。\*ドニエプル川の支流 (松平千秋訳『歴史(中)』一部改変)

##### 史料 司馬遷『史記』に記された匈奴

彼らは家畜を放牧するために移動する。その家畜で多いものは馬・牛・羊であり、特殊な家畜としてらくだなどがある。水と草とを求めて転々と移動し、城壁のある町や定住地をもたず、耕田の作業はない。…成人男性はみな力強く弓を引くことができ、すべて甲冑を着けて騎兵となる。その風俗は、平時には家畜に従って移動し、鳥や獣を射て生業としている。有事の際には、人々は戦になれているので、攻撃して略奪を行う。

◀ p.40 上部

読み解き 二つの史料から、スキタイと匈奴にはどのような共通点があると読み取れるだろうか。また、それは農耕社会とどのような違いがあるだろうか。

#### POINT 3

二つの資料から、農耕をせず移動生活を送るというスキタイと匈奴の共通点を読み取れます。このことから、中央ユーラシアでは遊牧民による社会的・文化的まとまりが形成されていたと推測できます。

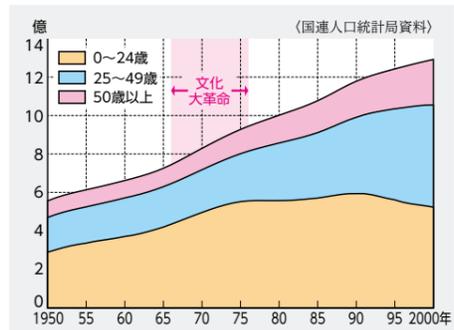
### 種類の異なる複数の資料を比較・関連づける「読み解き」

#### 写真 × グラフ

▼ p.331 2 3



↑2 文化大革命期に毛沢東に忠誠を誓う人々 人々が右手に持っているのは毛沢東の短い言葉を集めた『毛沢東語録』である。

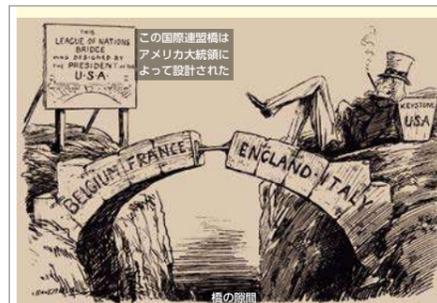


↑3 中国の年齢別人口比率の推移 読み解き 図2、図3から、毛沢東は大眾のどの層を動員したといえるだろうか。

#### POINT 4

グラフからは、文化大革命期は人口の半数以上を24歳以下が占めていたこと、写真からは、若者がプロレタリア文化大革命に積極的に参加していた様子を読み取ることができます。これらに関連づけることで、当時の政治運動は人口の過半数を占める若者によって推進されていたと推察できます。このように異なる資料を比較し関連づけることで、**歴史的背景を読み取れる**ようにしています。

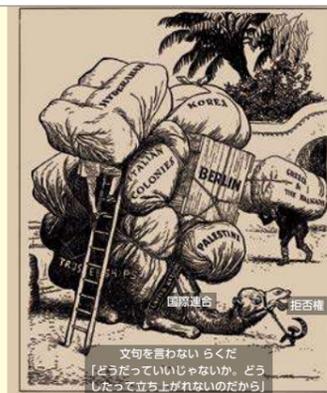
#### 風刺画 × 表



↑5 国際連盟を表した風刺画(1919年)

国際連盟 1920年1月~46年4月	名称	国際連合 1945年10月~
ジュネーブ	事務局	ニューヨーク
ウィルソンの「十四か条」	提唱	大西洋憲章
原加盟国は42か国 米は不参加、ソ連は遅れて加盟の後除名、日・独・伊は途中で脱退	加盟国	原加盟国は51か国 連合国の五大国(米・英・ソ・仏・中華民国)は初めから参加
全加盟国が出席する総会において、全会一致することで議決となる	議決	総会での多数決と、安全保障理事会で常任理事国の意見が一致することで議決となる
金融・通商などの経済制裁(武力による制裁手段はない)	制裁手段	経済制裁・外交断絶など非軍事措置、不十分なら武力制裁も可能

↑7 国際連盟と国際連合の比較



↑6 国際連合を表した風刺画(1948年)

読み解き 図5と図6の風刺画は、国際連盟と国際連合のそれぞれどのような点を風刺していると考えられるだろうか。図7から読み取れるそれぞれの特徴も踏まえて考えよう。

▲ p.205 5 6 7

#### POINT 5

国際連盟の風刺画は「アメリカの不参加による構造的弱さ」を、国際連合の風刺画は「多くの国際問題を抱えながら拒否権によって十分に機能しない実態」を示しています。これらの象徴的な表現と、併載した比較表の事実とを結びつけて考察することで、**資料を総合的に理解する力を養えます**。大学入試で求められる複数資料の読解にも応用できます。

#### POINT 6

読み解きの解答例や解答のポイントは指導資料(→本資料p.42)に掲載しています。

- 本文ページは、**要約文**、**因果関係がわかる本文**、**側注**で構成しています。
- 偶数ページ下部に「**中学校との関連**」「**歴史総合との関連**」というコーナーを新たに設け、既習事項を振り返ることができるようにしています。

章の問い/節の課題

章や節で学習する内容を見通す問いや課題を掲載しています。(→本資料p.32)

p.56-57

3章 南アジアと東南アジアの歴史的特質

章の問い 南アジアと東南アジアは、歴史的にどのような特質をもつようになったのだろうか。

①要約文

小見出しごとに、本文の要点をまとめています。(→本資料p.28)

②本文

因果関係や社会構造、歴史事象の流れを丁寧に記述しています。(→本資料p.6-11)

③側注

本文の詳細や補足を記述しています。(→本資料p.29)

見開き/項目の問い

学習の要点に関する問いです。考察のヒントとなる「歴史的な見方・考え方」の五つの視点を示しています。(→本資料p.33)

NEW! 中学校/歴史総合との関連

1~3部は中学校、4・5部は歴史総合で学習した用語を掲載しています。



① 弁財天(左)と② サラスヴァティー(右) 季節風(モンスーン)がもたらす雨・風・雷や山・川などの自然は南アジアの宗教文化の源となった。そこから生まれた神々は、名前や姿、役割を変えて、東南アジア・中央アジア・中国を経由し、仏教と共に日本に伝わった。例えば、インドの河川の女神であるサラスヴァティーは元来学問・技芸の神としてまつられ、日本にも弁才天として伝わった。その後、室町時代に七福神に加えられ、「才」の字が弁財天とも記されるようになった。読み解き 二つの神像の共通点を探そう。

1節 南アジアの統合と花開く文化

節の課題 南アジアの社会、宗教、文化・思想には、どのような特徴があるのだろうか。

帝国の形成と文化的発展

巨大な帝国が南アジアを統合していく一方で、東西交易による外部世界との交流が深まり、仏教の拡大やヒンドゥー教の形成が進んだ。

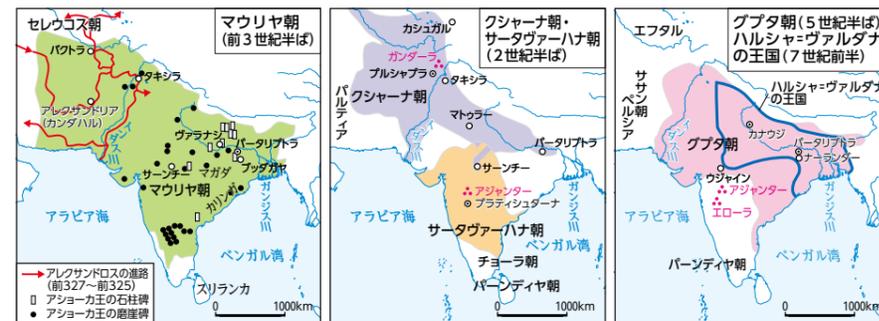
① アショーカ王の宗教政策 古来インドの王は、自身の信奉する宗派とは関係なく、すべての宗派を保護する義務を負う。アショーカのダルマは、仏教の思想を背景としているが、宗派を超えた倫理を説いていた。

② 上座部仏教と大乗仏教 上座部仏教は伝統的な部派の一つで、厳しい戒律に従う出家僧侶のみが解脱できると説いた。これに対して大乗仏教は在家・出家を問わず、すべての者がブツダと同じ悟りを得られると説いた。「大乗」には大きな乗り物で、すべての人を救うという意味が込められており、大乗派は上座部仏教を蔑称である「小乗」とよんでいた。

問い つながり マウリヤ朝・クシャーナ朝時代の、仏教と政治や文化との関わりについて抜き出そう。

前4世紀後半、アレクサンドロスの遠征軍がインダス川流域の地方勢力を一掃した直後、ガンジス川中流域の都市経済の繁栄を背景に、マガダ国のチャンドラ Gupta がパターリプトラを都にマウリヤ朝をおとし、北インド全域を征服した。第3代アショーカ王のときに最盛期を迎え、その領域は南端部を除く南アジア全域に及び、西北方面はアフガニスタン東部を含みセレウコス朝と接する巨大な帝国を形成した。彼は仏教に帰依し経典の編集を支援しつつ、各地域に社会倫理(ダルマ)を説く法勅を刻ませて多様な社会を倫理的に統合し、帝国秩序の安定を図った。このころスリランカにも仏教が伝わり、後に上座部仏教の中心となった。アショーカ王以後、マウリヤ朝は衰退して前180年ごろ滅ぶと、西北インドにはギリシア系のバクトリア、イラン系のサカ人などが次々と進入した。その過程で1世紀後半から3世紀前半にかけてクシャーナ朝が中央アジアから北インドに至る巨大な帝国を築き、カニシカ王の下で最盛期を迎えた。この時代はローマ帝国と漢帝国を両端とする東西交易が盛んになり、クシャーナ朝はその中継交易で潤った。前1世紀ごろから起こった大乗仏教も、交易路を通じて中央アジア・東アジアへと広がった。またこのころヘレニズム文化の影響を受けて、初めて仏像がつけられた。

56 中学校との関連 仏教、ヒンドゥー教



④ インド諸王朝の影響範囲 古代帝国は領域の大部分が従属勢力や同盟勢力によって構成され、一般に不安定であった。そうした勢力が支配する辺境は、開発の進行とともに強大化していき、10世紀には多くの地域国家を形成した(→p.58)。

れるようになり、ガンダーラ美術が開いた。

同じころ、モンスーン交易の開始によって、南インドにも東西交易の中継点、熱帯物産の出荷地として経済的な繁栄がもたらされた。デカン高原ではサータヴァーハナ朝が現れてインド洋交易で栄え、仏教やバラモン文化が急速に広まった。また南インドではドラヴィダ語系のタミル語による古典文学が開いた。

またこのころから、従来のヴェーダの宗教に民間信仰が取り入れられて、現在のインドで最大多数の信仰を集めているヒンドゥー教が形成された。ヒンドゥー教は、シヴァとヴィシュヌを最高神とする多神教である。特定の聖典をもたないが、ヴァルナごとに社会規範が定められており、それをまとめた「マヌ法典」がこの時期に編纂されている。

サンスクリット文化の開花と波及

グプタ朝の下でサンスクリット文化が開花し、その後、辺境の開発とともにヴァルナ制やヒンドゥー教も各地に浸透していった。

4世紀前半におこったグプタ朝は、北インドを統合する帝国へ発展し、チャンドラ Gupta 2世のときに全盛期を迎えた。同王朝はサンスクリット語を公用語とし、その保護の下で宮廷を中心にサンスクリット文学が開花した。二大叙事詩「マハーバーラタ」「ラーマヤナ」も、このころに現在のかたちにとめられた。この時代には学術の発展もみられ、とりわけ十進法・ゼロの概念を含む数学や天文学は、後にイスラーム世界からヨーロッパへと伝わって、近代科学の基礎となっていく。仏教もなお

部に強大な国家が現れた。7世紀半ばに、スマトラ島のシュリーヴィジャヤを中心にマラッカ海峡を支配した港市国家連合が、次いで8世紀半ばには、ジャワ島中部の農業国家シャイレンドラ朝が繁栄した。双方とも大乗仏教が広まり、ジャワ島にはボロブドゥール寺院が築かれた。

3章の振り返り 南アジアと東南アジアの歴史的な特質は、どのようなものだろうか。社会や宗教、文化や近隣地域との関わりに着目してあなたの考えを説明しよう。



⑤ シヴァ神 日本では天照大神と同一視されている。

⑥ サンスクリット語 ヴェーダ語から発展し、前400年ごろに整理された古代語。パラモン文化の及んだ広大な地域(南アジア・東南アジアなど)で知識人によって使われ、特に学術・宗教・文芸のための共通語として機能した。この言語で表現される文化をサンスクリット文化とよぶ。

2節の振り返り

この節の学習を踏まえて、p.59の「節の課題」に対するあなたの考えを説明しよう。

地域インデックス

見開きで扱っている地域が一目でわかります。

章/節の振り返り

章の問いや節の課題に対して、学習を踏まえてみずからの考えを説明することを促しています。

要約文

小見出しごとに、本文の要点を2行程度で端的にまとめています。歴史の大まかな流れと全体像をつかめるようにしています。

2部5章2節 イスラームの誕生

p.91

西アジアの風土とイスラームの成立

イスラームは乾燥地帯の西アジアで宗教として確立するとともに、オリエントと地中海の諸文明を吸収して新しい文明を生み出し、東西に広がった。

p.92

預言者ムハンマド

メッカに生まれたムハンマドは、神の啓示を受けて預言者と名乗り、イスラームの教えを確立した。

p.93

イスラームとイスラーム社会

ムスリムたちは『クルアーン』の教えとそれに立脚したシャリーアに従って生き、社会を営む。

p.93

急速に拡大するイスラームの共同体

アラブ人のムスリムの征服活動によって、広大なイスラーム世界が形成された。しかし、初期の統治は、アラブ人による異民族支配であった。

p.95

シーア派とスンナ派

イスラーム共同体の指導者をめぐる意見の相違から、二つの宗派が成立した。

p.95

イスラーム帝国としてのアッバース朝

アラブ人の異民族支配体制が崩れ、新たな王朝では、諸民族が対等なムスリムとして、社会的役割を担う体制が作り出された。

POINT 1

要約文をつなげて読むことで、西アジアの風土から、イスラームが誕生し拡大していくまでの、教科書6ページ分の内容を端的につかむことができます。

要約文の活用例

- 予習で大まかな流れを把握する
- 授業で前時の内容を復習する
- 受験前に通史を復習する
- 論述の文例として活用する

側注

側注に用語解説や詳細な解説をまとめています。本文で歴史の流れや因果関係をとらえ、側注で知識を補う構成にしています。

① 大元の国号「大元」は五経(→p.36)の一つ『易経』の一句からとられた2字熟語で、天や宇宙を意味する。従来、中国の王朝名は王家とゆかりのある古地名にちなんでいたが、それとは異なる新しい命名法であった。

② ジョチ=ウルス バトゥをはじめとする、チンギス=カンの長子ジョチ(→p.135)の諸子が治めたウルスで、後にクリム、カザンなど多くのハン国に分かれた(→p.190)。当時キプチャク草原とよばれていた地域を支配したので、キプチャク=ハン国と通称される。

③ ハーン カガン(可汗)の発音が変化した称号で、オゴデイ以降使われるようになった。モンゴル皇帝だけが名乗り、それ以外の王族はハン(カン)と称して区別された。

POINT 2

本文で学習するモンゴル帝国に関して、より詳細な知識を押さえます。例えば「⑤地方単位としての省」では、大元ウルスの地方単位について、中央政府の中書省と同格の行中書省を置いたこと、これが現在の中国の行政区分の省の起源になったことを補足しています。



④ 「モンゴル」の概念 モンゴルとはもともと集団名であり、次いで国家名として使われ、現在のような民族名ではなかった。帝国の支配層に加われば、出身にかかわらずモンゴルとして扱われた。

POINT 3

⑤ 地方単位としての省 モンゴルは、中国支配に際し中央政府の中書省と同格の行中書省を各地に置いて地方統治にあたらせた。これは従来よりはるかに広い範囲を管轄し、現在の中国の行政区分の省の起源となった。



④ 女性が進出したモンゴル帝国 男性が全戦線となる遊牧の社会は、父系の血統を中心に継承されてきたが、遊牧を取りしめ、広域の管理を要する女性も財政管理をもつ必要に迫られた。女性も政治的・経済的役割を担った。

⑤ 大元ウルスとコシヤン部 蒙古は遊牧生活を終結し大元ウルス(1271)を築いた。大元ウルスは1276年に南宋を下し、中央ユーラシアの王座として初めて華南・華南を併呑した。南宋の造船・航海技術や海洋知識を吸収したモンゴルは、東南アジア・インド洋への進出を図った。南方では大元(元朝)・チャンパー・パガン朝・ジャワ島に連環を送り、東方では2回にわたって日本に出兵した(文永・弘長)の役。これらは多くの場合、貿易の確保が目的であったため、もともと征服ではなく通商の拡大と貿易路の確保が目的であったため、13世紀末にはほとんど各地が大元ウルスと通交・通商関係をもちつづけた。これにより、杭州・泉州・広州などの諸港が海上貿易で繁栄し、交通の物流は海運や大連河によって華北や内陸部とも結ばれた。こうしてモンゴル帝国は、陸上だけでなく海上交通をも支配する帝国へと発展していった。大元ウルスでは、制度上は金・南宋の官制・地方行政単位を引き継

④ 地方単位としての省 モンゴルは、中国支配に際し中央政府の中書省と同格の行中書省を各地に置いて地方統治にあたらせた。これは従来よりはるかに広い範囲を管轄し、現在の中国の行政区分の省の起源となった。

▲ p.136-137

側注の活用例

- 学習内容をさらに詳しく理解する
- 受験対策として細かな知識を補充する

POINT 3

QRコンテンツ(→本資料p.38-41)には、教科書執筆による用語解説コンテンツを収録しています。



- 各部の最初に設置されていた「部の導入」を受ける形で、部の最後に学習を振り返り探究活動を行う「まとめと展望」を新設しました。
- これらにより、学習の見通し・振り返りが行いやすくなるとともに、探究学習にも取り組めるようになっています。

見通し・振り返りシート

「部の導入」「まとめと展望」に対応したワークシートや、節の問いへの解答を記入できるワークシートを、QRコンテンツ(▶本資料p.38-41)および指導書Webサポート(▶本資料p.43-45)に収録しています。



STEP 1 部の導入(見通し)

資料から部で学習する時代を概観し、生徒自身が問いを表現します。

4部 諸地域の結合・変容

この部では、およそ18世紀後半から20世紀半ばまでの歴史を学ぶ。歴史総合では「近代化と私たち」「国際秩序の変化と大衆化と私たち」の二つのテーマの時代に当たる。4部と5部の時代については、上記のテーマに基づいて歴史総合ですら学んでいるため、それをさらに深めることが求められる。深めるというのとは、ただ単に知識を増やすことではなく、問いを立てて資料を考察する能力、各時代の特徴を大観し、それに関連する抽象的な概念を理解する能力などを磨くことも求められる。

この時代には、農業中心の人類社会が、工業化された社会へと変化を始める。それは、国境を越える「世界市場」の形成とも不可分であり、経済面で諸地域が結びつき、地球規模の「一体化」が実現した。その影響の下で、大西洋をまたぐ地域では、「一体化」の主体となる自由近代市民社会と国民国家の形成が進み、一方ではかの地域では、植民地支配などを通じて強制的に一体化の流れに巻き込まれる例が増加した。国家間でも各国内でも、格差が拡大し、それへの反発としてナショナリズムや社会主義も広がった。国民国家が生み出したナショナリズムは、経済・社会や政治の大衆化が進むなかで、方による外部への影響を主要とする帝国主義や全体主義への支持など、負の側面もみせ始めたが、同時にそれは、民族自決の理念を通じて、植民地などの人々を勇気づけた。20世紀前半には、これらの矛盾が爆発し、人類は二度の世界大戦を経験した。その結果、国際機関の設立とそれを通じて平和維持および経済・社会の発展など、新しい世界のあり方が目指されるようになっていった。

このころの社会や人々の様子はどのようなものだったのだろうか？

**自由貿易の広がり**  
19世紀の上海 考えよう 中国のジャンク船以外には、どのような船がみられるだろうか？

**科学・技術の発達**  
パリの電話交換手の様子 考えよう ここではどのような技術が使われているだろうか？

**人々の国際的な移動**  
アメリカの雑誌に掲載された風刺画(1892年) 考えよう 人々は、どこからどこへ向かっているのだろうか？

**マスメディアの発達**  
ローズヴェルト大統領による演説(1933年) 考えよう ローズヴェルトは、どのような手段で演説を国民に伝えようとしているのだろうか？

教科書p.206～321のほか、図書館やインターネットなどを活用して、ほかに資料を探してみよう。

複数の資料を読み解いて問いを表現しよう

4部「諸地域の結合・変容」の学習にあたって、以下の六つの観点から、あなたが最も興味のあるものを選び、そして以下の例を参考に、その観点に関連する資料を教科書や資料集などから集め、あなたの「問い」を表現しよう。

「諸地域の結合・変容」について読み解く6つの観点

- ・人々の国際的な移動
- ・自由貿易の広がり
- ・マスメディアの発達
- ・国際機関の変容
- ・科学・技術の発達
- ・文化・思想の展開



「国際機関の変容」について集めた資料の例

国際連盟	名称	国際連合
1920年1月～46年4月	事務局 ニューヨーク	1945年10月～
加盟国 51か国	加盟国 191か国	
加盟国は42か国	加盟国は51か国	
米は不参加、ソ連は遅れて加盟の後除名、日・独・伊は途中で脱退	加盟国は51か国	
全加盟国が出席する総会において、全会一致することによって議決となる	総会での多数決と、安全保障理事会で常任理事国の5国が一致することによって議決となる	
金融・通商などの経済制裁(武力による制裁手段はない)	経済制裁・外交断絶など非軍事措置、不十分なら武力制裁も可能	

集めた資料をもとに考えた問いの例

平和維持のための国際機関はそれぞれ、なぜ問題を抱えていると考えられたのだろうか？

あなたの考えた問い

観点「\_\_\_\_\_」(と「\_\_\_\_\_」)に関する資料

「\_\_\_\_\_」や「\_\_\_\_\_」などから考えたあなたの問い

あなたの考えた問い

この問いを考えた理由

※各章の学習を終えるごとに、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめながら、「あなたの考えた問い」との関係を考えて、その際、「あなたの考えた問い」自体も改めて見直そう(▶p.322 STEP 1・2)。

STEP 3 まとめと展望(振り返り)

学習を振り返り、部の導入で立てた問いをもとに探究学習を行います。

4部 まとめと展望

STEP 1 各章の「章の問い」に対するあなたの考えをワークシートに書き込もう。その際、「あなたの考えた問い」と関連していると考えたことも、それぞれ書き込もう。

1章 大東洋革命～工業化と国民国家の形成	「大東洋革命」は、人類の歴史に何をもたらしたのだろうか。
2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設	「自由」はそれぞれの国でどのように求められ、どの程度達成されたのだろうか。
3章 世界の一体化の進展とアジアの変容	なぜ欧米諸国はアジアへ進出したのだろうか。また、アジア諸国は進出にどのように対応したのだろうか。
4章 世界の一体化の完成とその影響	世界の一体化は、各地域に何をもたらしたのだろうか。
5章 世界大戦の時代	二度の世界大戦がそれぞれ引き起こされた要因と、世界に与えた影響は何だろうか。
6章 戦後の国際秩序と冷戦	第二次世界大戦後の世界では、なぜ国際秩序が形成されても対立がなかったのだろうか。

STEP 2 「STEP 1」を踏まえ、p.205で設定した「あなたの考えた問い」と「この問いを考えた理由」を、自分にとっての問いの意味も考えながら見直そう。そして、もし「あなたの考えた問い」を修正したり、別の観点で設定し直したりする場合は、ワークシートに書き込もう。

「諸地域の結合・変容」について読み解く6つの観点

- ・人々の国際的な移動
- ・自由貿易の広がり
- ・マスメディアの発達
- ・国際機関の変容
- ・科学・技術の発達
- ・文化・思想の展開

あなたの考えた問い

STEP 3 「STEP 1」・2で設定した「あなたの考えた問い」を探究するにあたり、「問い」に関連する資料を収集しよう。収集にあたっては、教科書のほか、書籍や資料集、インターネットなども活用しよう。

STEP 4 収集した資料をもとに、各部の探究の例(p.99、203、323)も参考にして、「あなたの考えた問い」に対する探究成果をまとめよう。まとめることが難しい場合には、探究するにあたって重要だと考えることをワークシートに書き込もう。

まとめの振り返り あなたの「問い」との関係を探るにあたって、主体的に取り組むことが

よくできた できた あまりできなかった

→特にできた点や改善したい点などをワークシートに書き込もう。

現代への展望 5部「地球世界の課題」に向けて

4部で学習した時代と現代とで似ていると考えたことや、現代の諸課題を考えるにあたって気づいたことがあれば、ワークシートに書き込もう。

→5部の探究活動に取り組む際に、改めてワークシートを振り返ろう。

「あなたの考えた問い」の探究の例

問い：第一次世界大戦後の国際連盟の設立により、植民地のあり方は変わったといえるのだろうか？

選んだ観点：国際機関の変容

探究にあたって意識したこと：部の始めには国際連盟の中心となった大国に着目していたが、4部の学習を通して大国に属する植民地に興味をもった。そこで、国際連盟によって宗主国と植民地の関係性はどう変わったのか、探究しレポートにまとめた。

●国際連盟の概要

国際連盟は、第一次世界大戦後のパリ講和会議で、アメリカ大統領ウィルソンの提唱によって設立が合意された。原加盟国はヴェルサイユ条約に調印した42か国である。新たな集団安全保障という理念に基づき、国家が集団として平和維持に協力することが目指された。

●第一次世界大戦後の植民地の動向とナショナリズム

右の資料は、第一次世界大戦のフランス軍兵士が表している。大戦の長期化や人員の不足などから、フランスとイギリスは積極的に植民地兵を前線に動員した。動員された植民地からは、徐々に独自の意識や、本国への政治参加に向けた権利の拡大の意思が生まれた。さらに民族自決の思想の広がりもあり、アジアやアフリカの植民地では戦後の宗主国対応に期待が高まっていたと考えられる。

●国際連盟と植民地

植民地の期待とは裏腹に、欧米諸国は民族自決の原則をアジア・アフリカ諸国に適用することにに対して消極的だった。それは国際連盟においても同様だった。右の史料に示された委任統治体制は、それまでの植民地支配とは異なる制度として導入されたにもかかわらず、実質的には第一次世界大戦の敗戦国の領土や植民地を戦勝国が分配したため、戦勝国の多くはその領土を拡大させることになった。そのため、各地のナショナリズム運動に火をつけ、戦間期に多くの地域において独立運動が広がる結果となった。このように第一次世界大戦後の国際秩序からあられた国や地域は、第二次世界大戦後に独自の平和と自主外交を掲げる第三勢力を形成した。

探究のまとめ

- ・第一次世界大戦に兵士として動員された植民地では、独立や権利の拡大が望まれていた。
- ・しかし、国際連盟中心の新たな国際秩序のなかでも、宗主国の植民地への姿勢は変わらなかったといえる。一方で、戦後の対応の不満でナショナリズムが刺激され、独立や権利獲得への意識が高まったともいえる。

探究活動を通じて気づいたこと

- ・第一次世界大戦中に高まった植民地の期待と戦後の宗主国対応には大きな差があったが、その後の植民地のあり方は、見方によって変わった面と変わらなかった面の二つの側面があることがわかった。
- ・現代の国際連盟は、この時代の植民地の名残をもつ途上国と大国である先進国との格差是正のために、どのような働きをしているのかについても、探究してみたいと思った。

▲ p.204-205

▲ p.322-323

POINT 1

部の冒頭に当時の社会や人々の様子がわかる資料を掲載。資料の着目点を示した「考えよう」を参考に、資料読解を通して時代を概観し、部の学習を見通します。

POINT 2

問いを表現することで、生徒は「何を明らかにするために学ぶのか」を理解したうえで部の学習に臨めます。目的意識が生まれるため、受け身ではなく主体的な学習につながります。

STEP 2 本文ページ

POINT 3

各章の問いへの説明を通して、生徒自身で学習の理解度を確認できます。

POINT 4

探究学習に必要な、問いを立てる→調べる→まとめる というプロセスの基礎を養うことができます。

POINT 5

探究の例を掲載し、探究活動の参考となるようにしています。探究を積み重ねることによって、5部4章で取り組む、「地球世界の課題」の探究活動に生かせるようにしています。

# 歴史の全体像がつかみやすい紙

## ▶ 単元を通して生徒の主体的な探究学習を

# 面の工夫と単元構成

## 促す構造化された問い

●生徒が主体的な探究学習に向かえるように、教科書全体を通して問いが充実しています。

### 章の問い／節の課題

章と節にはそれぞれ「問い(課題)」と「振り返り」を設置し、章・節単位でも見直し・振り返りをしながら学習できるようにしています。

### 例) 3部1章 ユーラシア大交流圏の成立

#### 3部1章の問い

ユーラシアと諸地域における陸と海のネットワークは、どのように広がったのだろうか。(教科書 p.102)

### POINT 1

「章の問い」を受ける形で、各節に「節の課題」を設置。「節の課題」→「節の振り返り」を積み重ねることで、「章の問い」を追究できるようにしています。

#### 1節 イスラム世界の拡大

節の課題 イスラムは、どのような地域に広がったのだろうか。(教科書 p.102)

1節の振り返り この節の学習を踏まえて、p.102の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

#### 2節 ヨーロッパ封建社会の展開

節の課題 ヨーロッパの封建社会は、どのように変化していったのだろうか。(教科書 p.110)

2節の振り返り この節の学習を踏まえて、p.110の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

#### 3節 東アジア諸地域の成長と自立

節の課題 唐の崩壊後、東アジアではどのような勢力が台頭したのだろうか。(教科書 p.122)

3節の振り返り この節の学習を踏まえて、p.122の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

#### 4節 海と陸をつなぐ海域世界

節の課題 9世紀以降に東南アジアで起こった「ダイナミックな変化」とは、どのようなものだろうか。(教科書 p.131)

4節の振り返り この節の学習を踏まえて、p.131の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

#### 5節 ユーラシア大帝国の出現

節の課題 モンゴル帝国によるユーラシアの統合と交流は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。(教科書 p.135)

5節の振り返り この節の学習を踏まえて、p.135の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

#### 3部1章の振り返り

ユーラシアと諸地域における陸と海のネットワークは、どのように広がったのだろうか。拡大の要因のうち重要だと考える事柄をいくつか選んだうえで、あなたの考えを説明しよう。(教科書 p.139)

### 問いは大学入試にも直結!

- 入試問題の意図を読み取る力が身につきます  
日常的に問いを意識して学ぶことで、入試問題が「何を考えさせたいのか」をつかみやすくなります。
- 比較・つながりをとらえる力が身につきます  
歴史事象の関係を整理できるようになり、資料を比較する問題や、時代や地域のつながりを問う問題への対応力がつきます。
- 説明・論述の基礎が自然に身につきます  
問いに答える過程で「どの知識をどうつなげるか」を整理する習慣が付き、論述問題に応用できます。

### 見開き／項目の問い

学習の要点に関する問いです。「歴史的な見方・考え方」を働かせながら、学習をまとめられるようにしています。

歴史的な見方・考え方

- 年代 時期や年代
- つながり 背景・原因、影響・結果
- 推移 変化と継続
- 現代 現代世界とのつながり、展望、自己との関わり
- 比較 類似と差異、特徴

NEW!

#### ▼ p.91



問い 推移 つながり  
イスラムはどのような地域で成立・発展したのかを抜き出そう。

#### ▼ p.93



問い つながり 現代  
ムスリムの信仰と社会生活にはどのようなつながりがあるか、要約しよう。

#### ▼ p.95



問い つながり  
アッバース朝の革命はなぜ起こったのか、説明しよう。

### POINT 2

「抜き出そう」「要約しよう」「説明しよう」の難易度の異なる三つの問いで構成しています。

### POINT 3

思考力・判断力・表現力を育むとともに、本文の要点も明確になり、本文を読み進めやすくなります。

特色 ①

特色 ②

特色 ③

特色 ④

特色 ⑤

入試対応

QRコンテンツ

関連教材

試し読み

入試に直結!

- 自身の言葉で説明することで理解が定着します  
説明を繰り返すことで理解が深まり、記憶にも残りやすくなります。
- 課題発見力が育まれます  
問いを起点に考える学習が、総合型選抜で求められる、課題発見力や探究力の育成につながります。
- 作文力の向上につながります  
問いへの説明を重ねることで論理的に文章を書く力が養われ、論述や志望理由書、小論文にも生かれます。

監修：学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

● 実際の世界史探究の大学入試問題と、解答に必要な要素が本書にどのように掲載されているかをまとめました。

## ① 2025 年度 東京大学 大問1 (改)

### ▶ 20世紀前半における、4つの大陸国家の変容について問う

#### 問題文

オーストリア＝ハンガリー帝国、オスマン帝国、ロシア帝国、清は、いずれも地続きに巨大な領域を支配した大陸国家である。これら4国は、版図を統合する強力な政治体制や軍事力をもつ一方で、脆弱性も抱えており、いずれも20世紀前半に大きな変容を迫られた。その際、それぞれがたどった過程や結果には、いくつかの共通点と相違点があった。以上のことを踏まえて、以下の2つの設問に答えよ。(略)

(1) 共通の課題を抱えていた4つの大陸国家は、1910年代から1920年代にかけて後継国家に移行していく。その際に、支配領域や民族別人口構成の面で、大きな変化があった場合とそうでない場合があった。これらの点に着目して、4つの大陸国家の変容を、2つの類型に分けて、12行以内で記述せよ。その際、以下の4つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

国民統合 チベット ドイツ人 連邦制

#### 解答のポイント

本問で重要なのは、4つの大陸国家が、第一次世界大戦前後の1910～20年代に「後継国家」へ移行する過程について、各国のできごとを2類型に整理して論理を構成できるように理解し、考察できることである。

① オーストリア＝ハンガリー帝国とオスマン帝国は、戦争における敗戦や民族運動を背景に、多民族からなる国家が解体し、支配領域と民族別人口構成が大きく変化した類型として整理できる。前者は諸民族が独立して帝国は解体され、残存したオーストリアはドイツ人地域を中心とする小国となった。後者は第一次世界大戦後に広範囲の領土を失い、トルコ革命を経て共和国へ移行するなかで、トルコ民族中心の国民統合が進められた。

▶ 『新詳世界史探究』では、両国の解体について、民族の視点から記述を行っている。また、併載の地図から、領土の縮小も確認できる。

② ロシア帝国と清は、革命によって旧体制は崩壊したものの、支配領域の大部分を維持しつつ諸民族を統合し直した類型として整理できる。前者は革命で帝政が崩壊したが、ソヴィエト政権は諸民族を民族共和国として編成し、連邦制の枠組みで再統合することで多民族からなる国家を構築した。後者は辛亥革命後に中華民国へ移行し、外モンゴルの独立など動揺はあったが、五族共和を掲げ漢人地域を基盤に新疆・チベットなどを含む領域統合をめざした。

▶ 『新詳世界史探究』では、両国の体制の移行について、多民族の存在を記載しつつ記述している。また、併載の地図から、領土も確認できる。

上記の理解をもとに、4国を「解体・領域縮小」と「体制転換・領域維持」に二分し、各類型の代表的な政治的帰結(民族国家化/革命後の再統合)を示しながら、指定語句を組み込んで説明することが求められる。

▶ 『新詳世界史探究』では、随所の「問い」や、章・節の振り返りに、論述の訓練となる問題を多数掲載しており、日々の学習のなかで、学習内容を論理的に整理し、文章を書く能力を養うことができる。

### 『新詳世界史探究』における ① オーストリア＝ハンガリー帝国とオスマン帝国の解体に関する記述・資料

会議は紛糾したが、東欧・バルカンの民族自決については合意が成立した。オーストリア＝ハンガリー帝国が解体され、ハンガリー、チェコスロヴァキア、そして、後のユーゴスラヴィアが独立した。さらにポーランドが旧ロシア領とドイツ領の一部を併せて独立を回復した。フィンランドとバルト3国はロシア革命の際に独立を宣言し、フィンランドの独立についてはパリ講和会議で追認された。



▼ p.289 同盟国側で第一次世界大戦に参加したオスマン帝国は、敗北後に一気に解体へと向かった。戦後のセーヴル条約により領土は分割され、多くの地域がイギリス・フランス・イタリアの支配下に入った。しかし小アジアとヨーロッパ領の一部は、協商国軍に支援されたギリシア軍の占領をはねのけ、帝国はかろうじて独立を維持した。

オスマン帝国が解体し、ナショナリズムが一般化するなかで、宗教よりも民族が国家建設の基準とされるようになった。その結果、現代の中東では、世界のほかの地域と同じように、人々はまず民族の違いによって識別されるようになった。トルコ人とイラン人はそれぞれに国をもち、いったんは列強の支配下に入ったが、後には独立を獲得した。アラブ人は、第二次世界大戦後にほとんどが独立を果たしたものの、列強の定めた国境線に従った複数の国に分かれた(アラブ諸国)。一方、クルド人は、自分たちの国をもつことが認められなかった。

→オスマン帝国に関しては、p.239に、17世紀後半の最大領域から1914年までの領土の縮小を段階的に読み取ることができる地図も掲載

### 『新詳世界史探究』における ② ロシア帝国と清の体制転換に関する記述・資料



▲ p.285 1922年にはソヴィエト社会主義共和国連邦(ソ連)が結成され、新憲法下で新たな社会建設が始まった。しかし課題は多くあった。民族ごとの連邦構成国に対して分離の自由を含む民族自決が保障されたが、ソ連共産党(旧ロシア共産党)が連邦全体を統制しており分離は困難だった。社会権が保障され、さらに義務教育も進むなど、社会生活は改善されたが、共産党以外の政党は禁止され、政治の非民主的運営が続いた。



▲ p.276 ② 五族共和 中華民国は、漢・満・蒙(モンゴル)・回(主にトルコ系の言葉話すムスリム)・蔵(チベット)の五族を国家の構成要素とした。これは、清朝の領域をそのまま中華民国が受け継ごうとするための説明だった。中華民国は五族共和の理念を掲げ、多民族国家を目指す。しかし、中央集権を目指した袁世凱の死後は、中国各地で自立した軍事指導者が実質的な支配を行うようになり、戦乱が相次いだ。これら軍事指導者は後に批判的に軍閥とよばれるが、彼らには支配地の近代化を進めようとした例も多かった。また、清朝に服属していた地域のうち、外モンゴルのハルハ地方を中核とするモンゴルは独立を宣言し、チベットも自立の傾向を強めた。

### 『新詳世界史探究』における論述の訓練となる問い

問い 推移  
オスマン帝国の解体が中東にもたらした変化について、要約しよう。  
▲ p.290

4章の振り返り  
世界の一体化は、各地域に何をもたらしたのだろうか。各地域での最も大きな変化について、根拠をもとにあなたの考えを説明しよう。  
▲ p.279

→特設「探究 TRY」も論述や整理の訓練となる

特色①

特色②

特色③

特色④

特色⑤

入試対応

QRコンテンツ

関連教材

試し読み

## ② 2025 年度 慶應義塾大学 法学部 大問4

### ▶ 北宋の統治体制について問う

#### 問題文

中国の歴代王朝は地方統治をめぐる試行錯誤を繰り返してきた。例えば、周では封建制、秦では都県制、前漢では都国制、隋や唐では州県制が施行された。とりわけ宋(北宋)は中央集権的な中央・地方関係に基づく統治体制(以下、「本体制」という)を構築したことで知られている。

以上を踏まえて、本体制を導入するに至った背景、本体制を支えた仕組みおよびそれにともなう問題、本体制の構築によって北宋の地方統治にもたらされた唐末からの変化、ならびに対外関係への影響について、300字以内で記述しなさい。

#### 解答のポイント

本問で重要なのは、宋(北宋)の中央集権体制が、唐末の混乱に伴う地方分権化の克服を図るものだったことと、文治主義に立ち科挙官僚制を整備したことが、財政的矛盾や士大夫層の成長、対外関係にも影響したことを、一連の因果として説明できるかである。

- ①背景としてまず押さえるべきなのは、安史の乱以降、唐末から五代十国にかけて武人が自立して藩鎮が割拠したことである。宋はこうした地方分権の状況を克服するため、軍事力と財政を中央に集中させようとした。
- ②本体制を支えた具体的なきみとしては、文治主義に基づく科挙の整備と、節度使の権限の削減、中央直属の軍隊の整備が挙げられる。宋では科挙が整備され、殿試を通じて皇帝と結びついた文人官僚が政治を担うことで、皇帝権力が強化された。また、軍事面では、節度使が解体され、中央直属の軍隊が整備されて地域に頼らないしくみがつくられた。他方で、中央集権化による統治の安定と引き換えに、行政機構の肥大化と軍事費の増大が国家財政を圧迫し、これが宋代の構造的弱点となった。
- ③唐末からの地方統治の変化としては、貴族層の没落と新興の地主層の台頭がある。宋代には、唐代の統治を担った門閥貴族は衰退し、新興の地主や商人など富裕層が科挙を通じて官界に進出した。彼らは士大夫とよばれ、地域社会で大きな影響力を持つようになった。
- ④対外関係としては、宋が文治主義をとったことを背景に、キタイ帝国・西夏と銀や絹の貢納を伴う和議を結んだことがある。これらの対外的支出も財政負担を増し、宋代の課題となった。

- ▶『新詳世界史探究』では、五代十国時代の分裂状況(①)についての記述に続けて、宋が文治主義に基づく科挙の整備と中央直属軍の整備によって中央集権体制を築き(②)、その担い手となる新興の地主層が成長したこと(③)、さらに中央ユーラシア国家に対する防衛支出の増加(④)までを、一連の流れとして記述している。そのため、本問で求められる制度・社会・国際関係を因果的に接続する深い理解が可能となる。
- ▶また、『新詳世界史探究』には、本問の各要素に関する資料や記述も充実しており、本問で必要な理解をさまざまな面から深めることができる。

### 『新詳世界史探究』における ①背景記述から②～④まで通観した記述と、地理的理解に関する資料

唐の滅亡以後、華北では五つの王朝が交代し、各地で10余りの政権が割拠した(五代十国時代)。960年、後周の武将趙匡胤(太祖)が宋(北宋)を建て、次いで太宗が中国内地の大部分を統合した。後唐を除く五代の諸王朝は、江南との交通・輸送を重視して大運河と黄河の接点である開封に都を構え、宋も同じく都とした。

この時代、華北のテュルク系勢力が互いに争いながら北方のキタイ帝国に対抗する一方、十国が分立した華中・華南では、江南に加えて四川・福建・広東などの開発が進んだ。動乱のなか、長く栄えた貴族は武人勢力に追い落とされ、荘園も失って経済的にも没落し、武人勢力も互いに

抗争して衰えていった。代わって新興の地主層が台頭し、宋代に入ると、儒学を修め科挙を通して官界に進出した彼らが、権力を強めた皇帝の下で新しい時代を担うこととなった。このような政治・社会・経済・文化にわたる一連の変動は、唐後半期の8世紀後半から数世紀間をかけて進行し、宋代になると、中国社会はそれ以前とは大きく姿を変えた(唐宋変革)。

▲ p.122-123



◀ p.123 図4

五代の動乱を取めた宋は、安史の乱以来200年以上続いた藩鎮の割拠と武人優位の風潮を抑え、中央集権化を進めるために、文人官僚を重用する文治主義をとった。節度使の勢力を解体して中央直属の軍隊を整備するとともに、科挙の権威を高めて官僚登用の中心とすることにより、皇帝の権力基盤が著しく強化された。科挙の受験資格は、原則として成人男性であれば家柄や階層を問わなかったため、貴族に代わって経済と文化の担い手に成長していた新興地主層が科挙を通して官僚となり、政治の主な担い手にもなった。しかし、このような官僚組織や軍隊の維持

には巨額の出費が必要であり、さらにキタイ帝国・西夏などに対する防衛支出が国家財政を圧迫した。

▶ p.124-125

### 『新詳世界史探究』における ②中央集権体制、③地主層の成長、④外交関係に関する記述・資料

#### ②中央集権体制に関する資料



▲殿試の様子 宋代に、最終試験として宮中で皇帝みずからが試問する殿試が始められた。これにより、科挙合格者は皇帝と君臣関係だけでなく師弟関係によっても結ばれることになり、皇帝と官僚の直接の結びつきが強化された。科挙は、貴族中心の隋唐時代には人材登用法の一つにすぎなかったが、宋以降は官僚登用の中心となり、20世紀初めまで続く(→p.273)。

▲ p.125

殿試(合格者の順位をつける)  
皇帝みずからが行う試験  
合格  
省試  
首都で行う試験  
合格  
解試  
各地方(州)で行う試験  
合格  
童試(明・清で予備試験の童試が加わる)

▲宋代の科挙のしくみ  
地方・首都・宮中の3段階からなる。3年に1回行われ、最終合格者は300～400人という狭き門だった。

#### ③地主層の成長に関する記述

政治と経済の担い手の変化は、文化にも反映した。地主や商人など富裕層の一族からは、儒学・詩文の教養を身につけて科挙を受験する者が数多く出るようになり、士大夫や読書人とよばれる知識人となった。

▲士大夫 多くは経済的には地主であり、資産家として地域の有力者にもなった。官職や特権は世襲できないため、同族(宗族)を結集して相互扶助や科挙受験の援助などを行い、社会的地位の維持を図った。一族から科挙合格者を出すことは、富を蓄え地域社会で優位に立つための手段だった。

◀ p.127

→士大夫については、QRコンテンツ「用語解説」(→本資料 p.39)でも詳しく解説

#### ④外交関係に関する掲載資料

宋に対しても圧力をかけ、1004年に和議を結んで、国境を画定するとともに宋に毎年銀や絹の貢納を約束させた(澶淵の盟)。これは、本来対等者を認めないはずの皇帝の地位を互いに承認する、画期的な取り決めであった。以後、ユーラシア東部では2世紀にわたって諸国間で盟約が盛んに交わされ、比較的安定した外交・経済関係が取り結ばれた。

▲ p.123

宋に対しても圧力

▶ p.124

史記 澶淵の盟  
宋皇帝の誓書  
景德元(1004)年、大宋皇帝がつつしんで誓書を大契丹皇帝に送る。毎年絹20万匹と銀10万両を、わざわざ使者を北朝(キタイ)まで赴かせるようなことはせず…国境の地で受け渡すことにする。辺境一帯の州・軍はそれぞれ境界を守り、双方の住民は互いに侵入してはならない。もし盗賊が逃出するようなことがあれば、互いにかくまってはならない。両王朝の城壁や堀は皆これまで通りに維持し、修理や浚渫は通常通り行ってかまわないが、新たに城壁や堀を築いたり、水路を開削したりすることはできない。誓書の取り決め以外に、お互い要求することはしない。…天地神明に誓い、先祖に告げて、代々この盟約を守りとこしえに伝える。

キタイ皇帝の誓書  
統和元(1004)年、大契丹皇帝がつつしんで誓書を大宋皇帝に送る。ともに戦をやめることを話し、友好について話し合っ…特に誓書が次の通り示された。(以下、宋皇帝の誓書の引用)  
私は未熟者であるが、この盟約を遵守する。

# 教科書内容の理解を助ける 充実のQRコンテンツ

教科書の各所に配置しているQRコードを読み取ることで、学習内容の理解を深めるさまざまなコンテンツをご利用いただけます。  
※QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります



※ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

<https://tks46.jp/09hs/wld>

▼ QRコンテンツトップページ

新詳 世界史探究

🗨️ 一問一答

❓ 演習問題

📖 用語解説

🎥 動画

NHK ONE for School

📄 文化整理表

📖 見通し・振り返りシート

📄 探究TRYワークシート

📍 地図

💬 思考ツール・白地図

🔗 外部リンク

スマートフォンからも  
閲覧可能

帝国書院

📍 地図 全12点

特設「結びつく世界」(⇒本資料p.12-15)に掲載している地図を閲覧できます。

📍 地図 / 8～9世紀のユーラシア

📍 地図 / 10～12世紀のユーラシア

📍 地図 / 14世紀のユーラシア

📍 地図 / 19世紀の世界

一問一答 全788問

重要用語とその意味を確認できます。ブックマーク機能で間違えた問題だけピックアップし、繰り返し取り組むことができます。

🗨️ 一問一答 単元選択へ ?

Q. 宋代に発展し、海磁器生産地として知られるのはどこか。

A. 景徳鎮

1/84問

📖 用語解説 全488語

教科書執筆による解説で、重要用語などの定義や意味を確認できます。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できます。

🔍 アクメネス朝ペルシア

🎥 動画 全20点

教科書の本文や図版に関連する当時の映像を閲覧できます。

🎥 動画

NHK ONE for School NEW! 全84点

学習に関連するNHK ONE for Schoolの動画へのリンクを、単元ごとに分類して収録しています。

1部 1章  
地球環境からみる人類の歴史  
0:00

2部 1章  
世界各地の古代文明  
0:00

2部 2章  
東アジアと中央ユーラシアの歴史的特徴  
0:00

2部 3章  
南アジアと東南アジアの歴史的特徴  
0:00

2部 4章  
西アジアと地中海周辺の歴史的特徴  
0:00

2部 5章  
キリスト教社会とイスラーム社会の成立  
0:00

3部 1章  
ヨーロッパ文明の成立  
0:00

3部 2章  
アジア諸地域の成長とヨーロッパの進出  
0:00

3部 3章  
主権国家体制の成立と文明の拡大  
0:00

4部 1章  
偉大な西洋帝国—工業化と国民国家の生成  
0:00

4部 2章  
イギリスの覇権と欧米の国民国家建設  
0:00

4部 3章  
世界の一体化の進展とアジアの発展  
0:00

📖 見通し・振り返りシート NEW! 全25点

部の導入(見通し)、章や節の学習、まとめと展望(振り返り)に対応したワークシートです。

📄 探究TRY ワークシート NEW! 全5点

特設「探究TRY」(⇒本資料p.20-21)に対応したワークシートです。

💬 思考ツール・白地図 NEW!

思考ツール全11種 白地図全93点

思考ツールの解説動画とワークシート、世界と日本の白地図を収録しています。

🔗 外部リンク

主体的な学習に活用できる外部ウェブサイトへのリンク集です。

特色①

特色②

特色③

特色④

特色⑤

入試対応

QRコンテンツ

関連教材

試し読み



# 指導資料 Webサポートコンテンツ付

※内容は一部変更になる可能性があります

次の①指導資料と②指導書Webサポートがセットになった商品です。  
定価：2026年9月中旬公開予定

## ① 指導資料

- 教科書の節ごとに構成しています。
- 前半には、板書例などを示した「指導内容の整理」と、発問例などを示した「指導上のポイント」を掲載しています。
- 後半には、各種問いの解答例や、写真・図版・本文の解説を掲載しています。

### ◀◀教科書p.135-139に対応したページの例

教科書p.135~139

3部 諸地域の交流・再編 1章 ユーラシア大交流圏の成立

### 5節 ユーラシア大帝国の出現

本節の位置づけ 1節 → 2節 → 3節 → 4節 → 5節

本節で意識したい部の観点: 宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播 交易の拡大

導入の問いの例 「バクス=モンゴリカ(モンゴルの平和)」とはどのような状態をさすのだろうか。

指導内容の整理	指導上のポイント
<p><b>発問例①</b> モンゴル帝国はどのような過程を経て成立したのだろうか。</p> <p>①モンゴル帝国(大モンゴル・ウルス)の成立 テムジンがモンゴル高原を統一しチンギス・カン(ハン)を名乗る →全遊牧集団を千人隊に再編し、チンギス・カン一門への権力集中に成功 →ユーラシア各地への遠征が可能</p> <p>②モンゴル帝国の征服活動 周囲に有力な対抗勢力の不在→統一を成し遂げたモンゴルは東アジアから中東、東ヨーロッパまで進出</p> <p>③第2代ハーンにオゴデイが即位。モンゴル高原にカラコルムを建設して都とする。→帝国の拡大:高麗(朝鮮)が服属、大理(雲南)を併合、西アジア…フレグがアッパース朝を滅ぼす</p> <p><b>発問例②</b> モンゴル帝国は、広大な地域と民族を支配下に収めた。なぜ安定した統治を行うことができたのだろうか。</p> <p>①5代クビライ…ハーンに即位。都は大都(現在の北京)を建設し、南を漢(南宋)を滅ぼして大元ウルスを開く。モンゴル帝国は、大元ウルス(元朝)を中心として、ジョチ・ウルス、フレグ・ウルス、チャガタイ・ウルスといったチンギス・カン一門の緩やかな連合体となる</p> <p>②出自・宗教・言語を問わない、実力主義の多元的で開放的な帝国→支配層に加わったものはすべてモンゴルと称せられ、徴税と治安維持を重視。征服地の社会・文化には干渉せず。西方のウルスはやがてトルコ化・イスラーム化</p> <p>③実務能力を重視、色目人(中央アジアなどの出身者)を財務面で重用。実務と結びつかない科学は重視せず バクハ文字など、多様な文字を利用 チベット仏教を保護するが、特定の宗教や思想を強要せず</p> <p><b>発問例③</b> モンゴル帝国の安定した統治と交易ネットワークは、ユーラシアにどのような変化を生み出したのだろうか。</p> <p>①南方・東方への遠征、交通網の整備 大越(陳朝)、チャンパー、バガン朝、ジャワ島、日本への遠征→多くは失敗したが通商・交通関係は拡大 杭州などの港が交易で繁栄→水運で華北・内陸部とも結ぶ</p>	<p>中学校・歴史総合との関連</p> <p>中学校ではチンギス・カン、モンゴル帝国の拡大、クビライ、蒙古襲来について学習している。</p> <p>①ポイント① 服属した遊牧集団を首長から分離して千人隊に再編し、自身や家族が率いた。これによりチンギス・カンと子孫に権力を集中させ、各地に遠征を行う基盤ができたことを意識させる。また、モンゴル帝国の系図を用いて、モンゴル帝国の各ウルスの長が血統に立脚していることを理解させる。</p> <p>東方:イスラームの天文学・数学・技術などが伝わる →高精度の太陽暦である授時暦や染付磁器がつくられる 西方:中国の火薬・羅針盤・印刷術・陶磁器などが伝わる →西アジアやヨーロッパの学問・技術に影響 東方絵画の影響→イランでミニアチュール(細密画)が発達</p> <p>使われていた銀貨として使用できるようになった。例えば『タペストリー.jp.30』で示しているように、13世紀は、草原・オアシス・海の三つの交易路に加え、レヴァント貿易をはじめとするヨーロッパの交易ネットワークや日元貿易などのサブシステムによって、ユーラシアが結びついたことを理解させる。文化の面では、中国とイスラーム世界の文物が行き来するようになり、それぞれの地域に新たな文化を形づくったことに着目させる。</p>
<p><b>問い 解答例・ポイント</b></p> <p>②教科p.137 モンゴル帝国は、広大な領域に住む多様な人々をどのように統治したのか、要約しよう。</p> <p>【解答例】 統治は徴税と治安維持が優先され、在来の社会や文化にはほとんど干渉しなかった。チンギス・カン一門の君主の下、さまざまな集団や個人が出自・宗教・言語にかかわらず実力主義で登用された。</p> <p>③教科p.138 モンゴル時代に、海と陸のネットワークを通じてユーラシアでどのような人・もの・文化が行き交ったか、要約しよう。</p> <p>【解答例】 モンゴル時代にはウイグル商人やムスリム商人を通じてイスラームからは天文学・数学・医学や技術、中国からは火薬・羅針盤・印刷術・陶磁器などが互いに伝えられた。その中で、染付やペルシア語で書かれた『集異』など互いの文化を取り入れて新しい文化がつけられていった。</p> <p>④教科p.138 モンゴルによる海陸のネットワーク形成が、ユーラシア東西の技術や文化をそれぞれ伝え、新しい文化をつくり出したことを押さえる。</p>	<p>◆教科p.138 ①ルブルクが旅行記に記した宗教討論</p> <p>【解答例】 自身が優れている、真実だと主張する各宗教に対し、信徒どうしのいさかきを厳しく禁じた。各宗教を平等に扱うが、宗教の権威よりもカンの命令が優先するという原則を掲げていることがわかる。</p> <p>②教科p.138 ② 空前の領域を支配した巨大帝国にはさまざまな宗教があり、治安を乱さない限り、帝国は信仰には干渉しなかった。十字軍運動(1113~114)が行われていた時代であることにも注意させる。</p> <p>◆教科p.138 ② 駅伝制(ジャムチ)の簡便</p> <p>【解答例】 モンゴル帝国ではバクハ文字、ウイグル文字、モンゴル文字、漢字など多様な文字が使用されており、対応する多様な文字の簡便が作成された。</p> <p>③教科p.138 ③ 命令はモンゴル語で発せられるが、それを伝える文字・言語は多様だった。モンゴル語・文字の簡便については注意させる。</p> <p><b>写真・図版解説</b></p> <p>◆p.135 ② モンゴル帝国の系図</p> <p>トルコ・モンゴル系遊牧民の社会では、資産は成長した男子によって分割相続され(均分ではない)、末子が親元に残り父の面倒をみるとともに、没後その遺産を継承した(末子相続)。ただし、指導者の地位は別で、前君主の没後に部族会議や王族会議によって新君主が選出された。末子相続は資産であって、君主位でないことに注意したい。ハーン位の有資格者は正室から産まれた男子だけだった。</p> <p>◆p.136 ① モンゴル帝国の領域</p> <p>【解答例】 大都は草原の道とオアシスの道という二つの内陸ルートに加えて、水上航路も接続する位置にあることでユーラシアのネットワークを掌握できる。</p> <p>②教科p.138 ①の交易路、教科p.138 ②の水上航路から、遊牧・農耕の境界地帯にあり、海洋にも接続するという位置・特徴を押さえる。</p>
<p><b>読み解き 解答例・ポイント</b></p> <p>◆教科p.136 ① モンゴル帝国の領域</p> <p>【解答例】 大都は草原の道とオアシスの道という二つの内陸ルートに加えて、水上航路も接続する位置にあることでユーラシアのネットワークを掌握できる。</p> <p>②教科p.138 ①の交易路、教科p.138 ②の水上航路から、遊牧・農耕の境界地帯にあり、海洋にも接続するという位置・特徴を押さえる。</p>	<p>1章 ユーラシア大交流圏の成立 137</p>

教科書p.135~139

### 5節 ユーラシア大帝国の出現

3部 諸地域の交流・再編  
1章 ユーラシア大交流圏の成立

大元ウルスとユーラシア東部②

②社会実務能力を重視、( ) (中央アジアなどの出身者)を財務面で重用  
実務と結びつかない科学は重視せず  
チベット仏教(バクハ)のつくった( )を保護、特定の宗教や思想を強要せず

モンゴル時代のユーラシア大交流圏②

②影響し合う文化  
中国:イスラーム暦の影響の下、郭守敬が( )をつくる  
イラン産のコプリトを用いた染付がつけられる  
イラン:中国絵画の影響で( ) (細密画)発達  
→ラシード=ウッディーン『( )』(ペルシア語の世界史書)を装飾

## ② 指導書Webサポート

- 授業をサポートするコンテンツを多数収録しています。
- 帝国書院のウェブ会員ページよりお使いいただけます。
- ▼コンテンツ一覧

- 教科書紙面ビューア
- 授業スライド(.pptx/Googleスライド)
- 授業プリント(生徒用・教師用)(.docx)
- 見通し・振り返りシート(生徒用・教師用)(.docx/Googleスプレッドシート)
- 探究TRYワークシート(生徒用・教師用)(.docx)
- 教科書本文(.txt)
- 教科書掲載図版(カラー・モノクロ)(.jpg)
- 年間指導計画案・評価規準例(.xlsx)
- 問い・まとめ・振り返りの解答例(.txt)
- 評価問題例(テスト例)(.docx)
- 思考力を測る問題例集(.docx)
- 一問一答のデータ(.xlsx)
- 動画へのリンク
- 用語解説のデータ(.xlsx)
- 白地図集(.jpg)
- 参考文献リスト(.docx)
- 教科書QRコンテンツへのリンク

## 教科書紙面ビューア

- 教科書紙面を先生方の端末でご覧いただけるビューアです。
- スクリーンなどへの投影、紙面の拡大・縮小、ペン機能による書き込みが可能です。
- ※ダウンロードはできません



## 授業スライド

- 教科書本文ページに準拠したスライドを、PowerPointとGoogleスライドの2形式で収録しています。
- 付せん部分は、スライドショーで順に外れるよう作成しています。

教科書p.135~139

### 5節 ユーラシア大帝国の出現

3部 諸地域の交流・再編  
1章 ユーラシア大交流圏の成立

大元ウルスとユーラシア東部②

②社会実務能力を重視、( ) (中央アジアなどの出身者)を財務面で重用  
実務と結びつかない科学は重視せず  
チベット仏教(バクハ)のつくった( )を保護、特定の宗教や思想を強要せず

モンゴル時代のユーラシア大交流圏②

②影響し合う文化  
中国:イスラーム暦の影響の下、郭守敬が( )をつくる  
イラン産のコプリトを用いた染付がつけられる  
イラン:中国絵画の影響で( ) (細密画)発達  
→ラシード=ウッディーン『( )』(ペルシア語の世界史書)を装飾

5節のまとめ

この節の学習を踏まえて、p.135の「節の課題」に対するあなたの考えを説明しよう。

◆教科書p.135-139に対応した授業スライドの一部

大元ウルスとユーラシア東部①

(1)征服と遠征、交通網の整備  
南宋を下す→中央ユーラシアの王権が初めて中国南部を直接支配  
南方・東方への遠征…大越(陳朝)、チャンパー、バガン朝、ジャワ島、日本  
→多くは失敗したが通商・交通関係は拡大  
→海運・大運河で華北内陸部とも結ばれる

p.138 ③ モンゴルの水上航路

①交通路の整備と国際商人の保護  
カラコルムを中心に( )を整備(大都につながる)  
水運路を通して大都是南シナ海・インド洋につながる  
ウイグル商人(陸)とムスリム商人(海)の活躍  
→中央・西アジアで主流の( )が通貨に、紙幣( )を併用

## ② 指導書Webサポート

### 授業プリント

- 授業スライド(▶本資料p.43)の付せん部分を穴埋めにしたプリントをWord形式で収録しています。
- 加工してお使いいただけます。
- 生徒用と教師用(解答付き)があります。

#### ▼教科書p.135-139に対応した授業プリント(教師用)の一部

年 組 番 / 名前		
3部 1章 ユーラシア大帝国の出現	教科書 p.135~139	年 月 日

□節の課題  
Q: モンゴル帝国によるユーラシアの統合と交流は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。

<学習のポイント>

- モンゴル帝国の拡大と支配がユーラシアにもたらした影響について理解しよう。
- モンゴル帝国の拡大と支配がユーラシアにもたらした影響について考察し、自分の言葉で表現しよう。

●モンゴル世界帝国の出現

(1) ① **モンゴル帝国** (大モンゴル=ウルス)の成立  
モンゴル高原を統一したテムジン、1206年に君主に推戴される  
→ ② **チンギス=カン(ハン)** を名乗る 全遊牧集団を千人隊に再編し、権力を集中

②征服活動  
チンギス=カン: カラ=キタイの旧領を平定。ホラズム朝、西夏を滅ぼす  
オゴデイ: 都の③ **カラコルム** を建設。金を滅ぼす。東ヨーロッパへ遠征  
モンケ: 弟のアレグの西アジア遠征→1258年にアッバース朝を滅ぼす  
高麗を服属させ、大理を併合  
急速な拡大に西洋も関心→カラコルムにローマ教皇の使者到来

●モンゴル帝国の再編と構造

④ **クビライ** が即位(ハーン)。都は⑤ **大都** (北京=遊牧と農耕の境界)  
東方のクビライの⑥ **大元ウルス** (元朝)を中心として、西北の⑦ **ジョチ=ウルス**、  
西南の⑧ **フレグ=ウルス**、中央アジアの⑨ **チャガタイ=ウルス** の緩やかな連合体となる  
出自・宗教・言語を問わない、実力主義の多元的で開放的な帝国 徴税と治安維持を重視  
→征服地の社会・文化には干渉せず  
西方のウルスはやがてトルコ化・イスラーム化

●大元ウルスとユーラシア東部

(1)征服と遠征、交通網の整備  
南宋を下す→中央ユーラシアの主権として初めて中国南部を直接支配  
南方・東方への遠征→大越(陳朝)、チャンパー、バガン朝、ジャワ島、日本  
→多くは失敗したが通商・交通関係は拡大

⑩ **杭州** )・⑪ **泉州** )・⑫ **広州** ) が海上貿易で繁栄  
→海運・大運河で華北・内陸部とも結ばれる

⑬社会  
実務能力を重視、⑭ **色目人** (中央アジアなどの出身者)を財務面で重用  
チベット仏教バカバのつくった⑮ **バカバ文字** など多様な文字を利用  
⑯ **チベット仏教** を保護、特定の宗教や思想を強要せず

●モンゴル時代のユーラシア大交通圏

(1)交通路の整備と国際商人の保護  
カラコルムを中心に⑰ **駅伝制(ジャムチ)** を整備(大都につながる)  
水運路を通して大都は南シナ海・インド洋につながる  
ウイグル商人(陸)とムスリム商人(海)の活躍  
→中央・西アジアで主流の⑱ **銀** が通貨に、紙幣(⑲ **交鈔** )を併用

⑲影響し合う文化  
中国: イスラーム暦の影響の下、郭守敬が⑲ **授時曆** をつくる  
イラン産のコバルトを用いた染付がつけられる  
イラン: 中国絵画の影響で⑳ **ミニチュール** (細密画)発達  
→ラシード=ウッディーンの『㉑ **集史** 』(ペルシア語の世界史書)を装飾

□5節のまとめ  
Q: この節の学習を踏まえて、p.135の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

例: **モンゴル帝国がユーラシアの大半を支配して交通網を整備し、通行・通商を保護すると、人や物の流れが活発となり、銀を媒介としてユーラシアが一つの商業圏となった。また、文化や技術の伝播もユーラシア規模でみられた。そのなかでも、中国からヨーロッパへ伝わった火薬や羅針盤などは、ルネサンス期のヨーロッパで改良されて「大航海時代」を可能にした。**

.....

.....

.....

.....

.....

## 評価問題例(テスト例)

- 教科書に準拠したテスト例と解答をWord形式で収録しています。
- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価観点も示しています。

#### ▼教科書p.135-139に対応した評価問題例の一部

3部 1章 5節 ユーラシア大帝国の出現

□1 次の文章を読み、地図および図版を参考に、以下の設問に答えよ。  
モンゴル部のテムジンがモンゴル高原を統一し、1206年に君主に推戴されチンギス=カンと名乗った。チンギス=カンは、服属した全遊牧集団を(ア)千人隊に再編した。後を継いだオゴデイは(イ)モンゴル高原の(1)に政治の拠点を定め、遊牧集団だけでなく、農耕民の支配も本格化させ、さらに(ロ)ロシア領部・東ヨーロッパにも遠征を行った。第4代のモンケは弟の(2)に西方への遠征を命じて(エ)スズグードを攻略させて(3)領を滅ぼした。  
モンケが急死すると、モンケの次弟の(4)が東方勢力の支持を得て即位し、ハーンとなった。(4)は、(オ)本拠に遷都し、東方を中心とした国づくりを進め、モンゴル語を表す文字としてチベット仏教僧に(5)文字を作成させた。また財政方面では(6)とよばれる中央アジアなどの出身者が財務官僚として重用され、銀と連動した紙幣として(7)が使用された。(イ)モンゴル帝国内での交流は続けられ、(4)は各地に遠征軍を送り(ロ)貿易を促した結果、世界的な交流が促進された。



部 1章 5節 ユーラシア大帝国の出現

5 下線部(ア)の場所を、地図中のA~Fから選び記号で答えよ。☑

6 下線部(イ)に関連して、モンゴル帝国で使用された駅伝制の通行証を、ア~エから選び記号で答えよ。☑

イ	ウ	エ
---	---	---

教科書 p.139 図5「交鈔(紙幣)」を入れてください。

教科書 p.138 図2「駅伝制(ジャムチ)の旗符」のうち、中央(バカバ文字)の旗符を入れてください。

教科書 p.107 図5「イスラーム世界の銀貨」を入れてください。

教科書 p.81 図4「ササン朝の獅子狩文様」を入れてください。

7 下線部(ロ)に関連して、元の時代にイスラームの知識が中国に影響を与えて作成されたものを、ア~エから選び記号で答えよ。☑  
ア 授時曆 イ ミニアチュール ウ 集史 エ 小麦粉食品

8 下線部(オ)に関する説明として適切でないものを選び記号で答えよ。☑  
ア 広州、杭州、泉州などの港が海外との海上貿易で栄えた。  
イ ヴェネツィア出身の商人マルコ=ポーロが『世界の記述』を残したとされる。  
ウ ムスリムのラシード=ウッディーンは『大旅行記』を残した。  
エ モンテ=コルヴィノは大都会カトリックの布教を行った。

9 元の都である大都は、モンゴル帝国内・交易面でのどのような場所といえるか、地図も参考にしながら、以下の語句を用いて100字以内で説明せよ。☑  
語句【 遊牧 農耕 大運河 南シナ海 】

10 文中の空欄(1)~(7)に適する語句を答えよ。☑

11 下線部(ア)について述べた文として誤っているものを、ア~エから選び記号で答えよ。☑  
ア 服属した全遊牧集団・農耕民が千人隊に再編された。  
イ 千人隊の編制によりそれまでとは異なり、チンギス=カンに権力が集中した。  
ウ 千人隊はテムジンや弟・息子たちが率いた。  
エ 千人隊は軍事集団でもあり、遊牧民家集まった社会集団でもあった。

12 下線部(ロ)を中心に整備された駅伝制のモンゴル語での名称をカタカナで答えよ。☑

13 下線部(オ)・(ド)に形成された、モンゴル帝国内のウルスの名称をそれぞれ答えよ。なお、地図中に、(オ)に形成されたウルスは①、(ド)に形成されたウルスは②で示した。☑

- 1 -

- 2 -

## 思考力を測る問題例集 NEW!

- 生徒の思考力を具体的に測ることができる選択肢問題の例と解答を、単元ごとにWord形式で収録しています。
  - 思考力測定に役立つ単元ごとのモニタリングシートも収録しています。
- ▶詳しくは、こちらの冊子をご覧ください
- 

## 副教材



**新詳世界史探究演習ノート**  
教科書に完全準拠したノートです。基本的な知識が身につく空欄補充ページと、大学入試の過去問題「チャレンジ!入試問題」、河合塾講師と共同作成した「演習問題」などで構成しています。



**最新世界史図説タペストリー**  
豊富な情報量と充実の資料を掲載した、大学入試に最適な資料集です。世界史のタテ(時間軸)とヨコ(空間軸)を整理できる構成です。

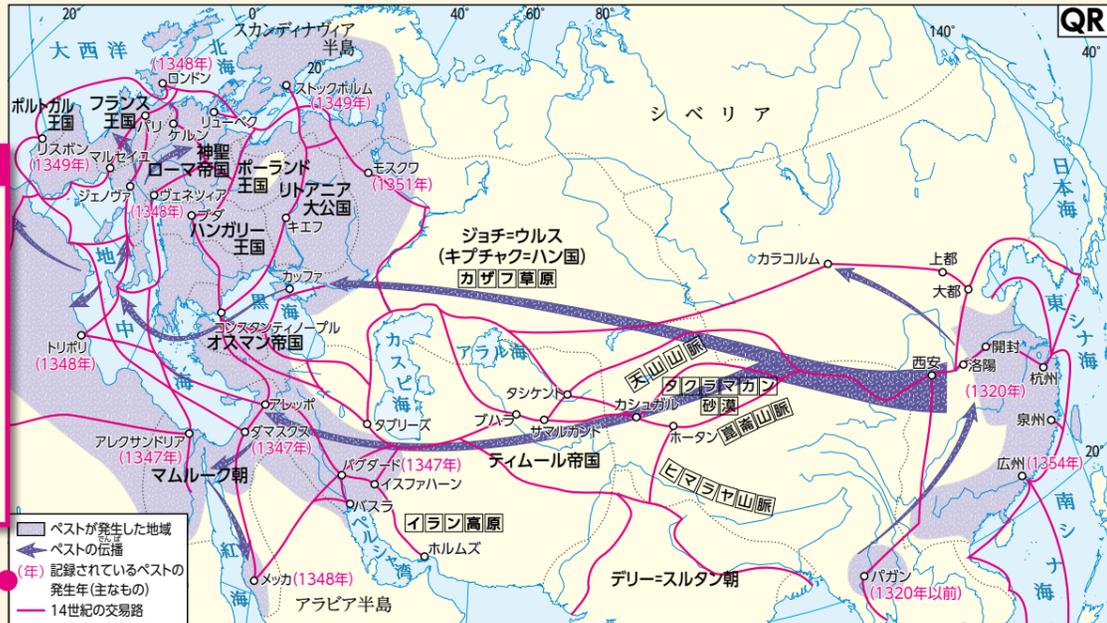
- 特色①
- 特色②
- 特色③
- 特色④
- 特色⑤
- 入試対応
- QRコンテンツ
- 関連教材
- 試し読み

# 結びつく世界 13~14世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機

原寸大

## POINT 1

ヨーロッパから中国までを一望できる特殊図法の地図で、ペストの伝播経路や交易網を確認できます。



↑1 14世紀の交易とペストの広がり

## 結びつく世界 13~14世紀 ユーラシア大交流圏の成立と危機

### ●モンゴル帝国とユーラシア大交流圏

12世紀末までに徐々に進んできた各地域の結びつきは、13世紀のモンゴル帝国の登場によって一気に加速した。14世紀前半にかけて、ユーラシア・北アフリカにまたがり、陸と海で結ばれた巨大な交流圏が形成され、ユーラシア規模で人・もの・情報の移動・交流が空前の発展を遂げた。

「草原の道」から登場し、早くに「オアシスの道」を押さえたモンゴルは国際商業の重要性をよく認識しており、交通網を整備し貿易の保護・振興に努めた。モンゴルがユーラシアの主要部分を統合したため、通行税などの負担や隊商が襲撃を受ける危険が少なくなったことも、活発な商業活動を後押しした。南宋の征服によって「海の道」も押さえると、交易網は海路とも結びついた。西方に伝わった東方の繁栄の様子は、ヨーロッパ人に豊かなアジアへの憧れを抱かせ、「大航海時代」の原動力にもなった。

### ●14世紀の危機

1310年ごろから数十年間、北半球では寒冷な気候が続いた。長期の好況で人口が増え、やせた土地の無理な開発や森林破壊が進んでいたこともあり、各地で深刻な不作や飢饉が起こった。それに伴い、

社会不安や感染症がモンゴル帝国の交通網とネットワークを通じて急速に広がった。この時期にペスト(黒死病)が、中国から中央ユーラシアを経て西アジア・ヨーロッパに短期間で伝わり、西ヨーロッパの人口の3分の1を奪ったことは、そのわかりやすい例である。こうしたなか盗賊や反乱が発生し、モンゴル帝国の諸政権は次々と解体した。日本でも14世紀には南北朝の動乱が続き、朝鮮半島・中国沿岸の人々は倭寇の恐怖におびえた。こうしてユーラシア・北アフリカのネットワークは、一時的に寸断された。

モンゴル時代の大規模な交流は、このように強烈な負の側面をもっていた。しかし、「14世紀の危機」を乗り越えた各地域では、モンゴル時代の多くの遺産が活用された。第一に、広域のネットワークが復活して海上でさらに活性化し、15世紀には鄭和の大航海やヨーロッパ人のアメリカ大陸「発見」などの海外進出が実現した。第二に、モンゴル以後にユーラシア各地を支配した諸帝国は、オスマン・ムガルやロシア、時代は下るが清朝など、いずれも支配下においた多くの民族や宗教を、独自性を認めながら効率的に統治するシステムにより、広大な領土を長期間、安定的に支配した。 <p.130 p.172>

時代の特徴 モンゴル帝国の下で、13世紀に全ユーラシアが結びついた。その交流は「14世紀の危機」で一時的に断絶したが、モンゴル時代のシステムは多くの点で後の時代に影響を及ぼした。

# 3部2章1節 明の国際秩序と東・東南アジア

原寸大

## 2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出

章の問い アジア諸地域における交易の発展や、ヨーロッパの活動が世界に与えた影響は何だろうか。



ワークシート



↑1 朱元璋 異様な風貌だったといわれ、「一人にして聖賢・豪傑・盜賊の性を併せもっていた」と評される。読み解き なぜ印象の異なる肖像画が残っているのだろうか。 →2 15世紀の東アジア モンゴルは依然として強大であり、明は東北に進出するとともに、朝鮮・日本・琉球、東南アジア諸国などと外交関係を結んで対抗した。



## 1節 明の国際秩序と東・東南アジア

節の課題 明と世界の諸地域は、どのように結びついていたのだろうか。

### 明の成立とユーラシア東方

江南を基盤に成立した明は、皇帝独裁制を確立し強固な国内支配を打ち立てたが、対外的には、北方に撤退したモンゴルと長城を境界として南北で並存した。

5 「14世紀の危機」とよばれる災害・疫病の続発は、東アジアの社会にも深刻な打撃を与え、各地で政府の支配が揺らいだ。大元ウルス(元朝)の下では、白蓮教徒の起こした反乱が広まった(紅巾の乱)。反乱の指導者の一人であった朱元璋(太祖、洪武帝)は1368年に南京を都として明(北元)を建て、大元ウルスの朝廷は明軍に大都を奪われてモンゴル高原に退いた(北元)。明は江南からおこって南北を統合した初めての王朝であり、これは江南地方が経済・文化だけでなく政治においても中心地となるほどに成長したことを意味した。

15 洪武帝は経済の混乱や農村の荒廃に対処するため、銀や貿易に依存せず、農村を立て直してそこから穀物や労働力を直接徴発するしくみを築いた。そのために全国的な検地を行って土地と農民を把握し、里甲制を敷いて徴税や治安業務にあたらせた。軍制では衛所制を敷いて、防衛や運輸を担わせた。社会統合にあたっては、さまざまな人々と価値観が共存したモンゴル時代から一変して、儒教を重んじ小農民が基盤となった社会に皇帝が君臨する体制を目指し、官僚・地主・大商人に対しても、また農民に対しても、厳しい統制を行った。中央では、中書省と宰相職を廃止し、六部などの中央官庁や地方長官を皇帝に直属させて権力を集

中学校との関連 明

① 白蓮教 仏教系の宗教結社で、弥勒仏が救世主としてこの世に現れるという信仰をもつ。歴代王朝によって禁じられたが、民間で勢力を伸ばし、しばしば反乱に関わった(→p.249)。

② 一世一元の制の始まり 明以降、皇帝一代に一元号となり、洪武帝・永楽帝など元号で皇帝を通称するようになった。日本では、明治(→p.253)から取り入れられた。

③ 土地と戸籍の把握 土地は魚鱗図冊とよばれる台帳に記録され、戸籍台帳である賦役黄冊に基づいて税役が課された。

④ 民戸と軍戸 衛所に属する人々は軍戸、それ以外の大半は民戸とされ、税と労役を負担した。

## POINT 3

問いを意識しながら本文を読むことで、明はモンゴル時代とは真逆の厳しい管理体制がとられていたことを押さえられます。

### 問い 比較

モンゴルと明の統治の相違点を要約しよう。

特色①

特色②

特色③

特色④

特色⑤

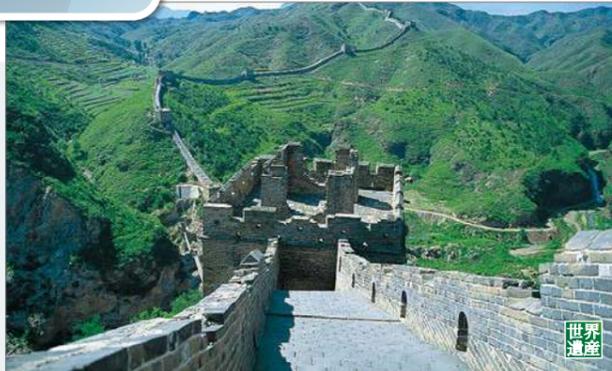
入試対

教材

教材

教材

試し読み



日本と朝貢・冊封
日本は、形式だけであっても中国皇帝の臣下になることを嫌い、遣隋使・遣唐使は朝貢のみで冊封は受けず(→p.52, 54)、宋・元時代は朝貢も行わなかった。

POINT 1
明は厳しい管理体制の一方で、モンゴル帝国の制度も取り入れていたことがわかります。

POINT 1
万里の長城 明が万里の長城を防衛線とした結果、モンゴルの遊牧世界と中国の農耕世界が分離された。

POINT 1
明初のモンゴルの制度 民戸・軍戸のように、職業別の戸籍に分類するのはモンゴルの制度だった。

POINT 1
オイラト オイラトは、モンゴル西部のチンギス=カン家ではない首長が統率する遊牧集団の連合である。

POINT 2
明が海禁=朝貢体制を敷いたことで、日本は勘合貿易に踏み切らざるを得なかったことが読み取れます。

POINT 2
陸の対外関係管理体制 厳しい交通・交易管理は陸上でも同じで、モンゴルや女真との交易は、朝貢の形式をとらせたい。

POINT 2
問い つながり 比較
明初の対外政策の特徴と周辺地域への影響、政策の目的について説明しよう。

POINT 2
中した。官僚登用に当たっては、秩序を重んじる朱子学を公式解釈に定め、民衆に対しても儒教に基づく教化を図った。

POINT 2
洪武帝の没後、息子の一人である燕王が反乱を起こし(靖難の役)、南京を攻め落として即位した(永楽帝)。

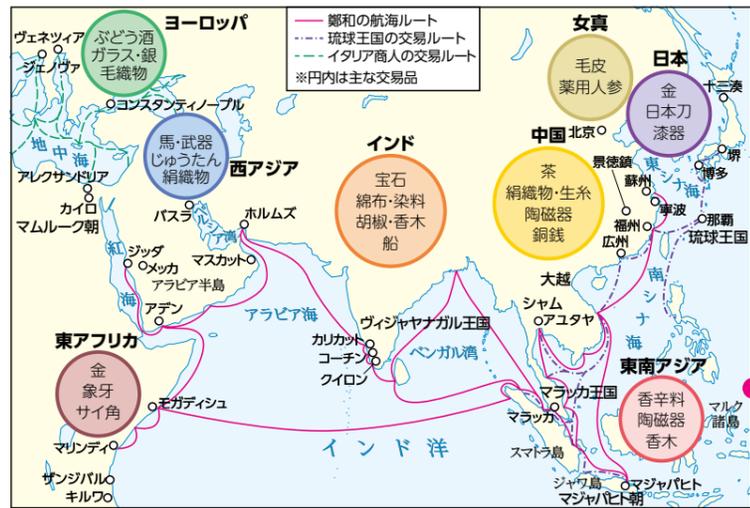
POINT 2
モンゴルの北元では、14世紀末にクビライ家の直系が断絶してはほかのチンギス=カン家の王族がハーン位を継いだ。

POINT 2
明の海禁=朝貢体制とアジア海域世界
明は朝貢・冊封関係と海禁を結合させた厳しい対外関係管理体制を敷き、沿海部の治安回復を図った。

POINT 2
宋・元代に海上貿易が発展していた東シナ海では、「14世紀の危機」のなかで日本で鎌倉幕府が倒れ南北朝の動乱が広がると、海商や武士団などの勢力が自立的な活動を強め、朝鮮半島・中国沿海部で襲撃・略奪行為を働くようになった。

POINT 2
明が成立すると、洪武帝は倭寇を力で抑え込む方針をとり、沿海部の治安維持のために民間の海上貿易を禁止し(海禁)、対外関係を国家間の朝貢・冊封関係に限定するという、厳しい対外関係管理体制を敷いた(海禁=朝貢体制)。

POINT 3
室町時代の日朝関係
日本と朝鮮の間でも、明との関係と同様に、貿易のための証明書を交付し、窓口を限定して交流する方式がとられた。



POINT 3
あしかがよしみつ
の足利義満が朝貢貿易に踏み切った(勘合貿易)。

POINT 3
モンゴルの影響の強かった朝鮮半島でも、倭寇撃退に功績のあった李成桂(太祖)が1392年に高麗を倒して朝鮮を建て、明の冊封を受けた。

POINT 3
一方、明にとってもこれら諸外国の朝貢は、皇帝の権威を高めるうえでも海外物産の入手のうえでも不可欠だった。

POINT 3
海の王国と陸の王国
明の国際秩序とアジア海上貿易の復興は、琉球・マラッカなどの中継貿易拠点を繁栄させる一方で、東南アジア大陸部に強力な国家を成立させた。

POINT 3
15世紀には、アジア海域の各地で、朝貢貿易のしくみを利用する動きが広がった。当時の明が、朝貢以外の貿易をほとんど認めないなかで、冊封を受けた琉球王国はほぼ無制限の朝貢貿易を許された。

POINT 3
一方東南アジアでは、15世紀にマラッカ王国が急成長した。マラッカは、ジャワやマラッカ海峡周辺の胡椒、マルク(モルッカ)諸島の香料など、東南アジア全域の商品の集散地となった。

POINT 3
15世紀のアジア交易
鄭和の船団はアフリカまで到達したが、交流は一時的なものにとどまった。

POINT 3
李成桂と李氏朝鮮
朝鮮半島北部の出身の武将で、女真人を率いて台頭した。国号「朝鮮」は明の洪武帝によって命名されたもので、古朝鮮(→p.37)と区別して李氏朝鮮ともいう。

POINT 3
訓民正音 序文
国の語音は中国と異なり、漢字と相通じない。それゆえ民は言いたいことがあっても結局その意志を表現できない者が多い。

POINT 3
読み解き
世宗が訓民正音を制定した理由を説明しよう。また、なぜこの後も漢字・漢文の伝統は揺るがなかったのか、考えよう。

POINT 3
マラッカの貿易ネットワーク
マラッカには、西はマムルーク朝やオスマン帝国から東は中国・琉球までの商人が集まり、「マラッカの港では84種類もの言葉が聞かれる」といわれた。

POINT 3
中継貿易を行って、琉球王国やマラッカ王国が繁栄したことを本文で押さえたうえで、両国が交易の中継地点として多くの地域と結びついていたことを、地図から具体的に読み取れます。



16世紀の東アジア交易 日本銀が倭寇(→p.147)の活動を通して、メキシコ銀がスペイン領のマニラ(→p.180)を経由して、貿易の対価として明に流れ込んだ。明の富裕層の間では、毛皮や薬用人参などのぜいたく品が流行した。

読み解き 何が交易品として取り引きされていたのだろうか。

寄港地を提供し、王みずから明に赴くなどの外交政策により、明の優遇を勝ちとり、インド洋・東南アジア海域のネットワークを、明や琉球に結びつける役割を果たした。明の対外政策が消極化した後は、代わりに西方への香辛料輸出を伸ばし、交換に綿布をもたらすインドのムスリム商人などを通じて、イスラームを受け入れた。その結果、マラッカが支配する貿易ネットワークを通じて、諸島部各地にイスラームが広がり始めた。

東南アジア大陸部では、明の軍事圧力に対抗しつつ、内陸から新しい強国が現れた。そこでは明の火器技術も利用された。大陸部北部で13~14世紀に成立したタイ人の諸国家のなかで、チャオプラヤ川デルタへ進出したアユタヤ朝(シャム)が特に発展し、明への朝貢貿易や琉球との貿易を活発に行った。南下するタイ人に押されてカンボジアの勢力は後退し、15世紀にはアンコールの都を捨てて、メコン川流域に中心を移した。ビルマ人やタイ人を先頭に、ラオス・カンボジアを含む広い範囲に上座部仏教が広まり、ヒンドゥー教・大乘仏教は衰退した。またベトナム(大越)では、明の支配を撃退した黎朝が、朝鮮と同様に、明の制度を取り入れて国家体制と軍力を強化し、南方のチャンパーに大打撃を与えた。大越も、明への朝貢を含む貿易を推進した。

明後期の産業・商業の発展

産業の成長と国際貿易の隆盛を背景に、明の経済は16世紀に江南地方を中心にめざましく発展した。貿易を通じた銀の流入の激増によって、銀の使用が浸透した。

「14世紀の危機」からの復興が課題だった明代前半は農村保護と現物調達の方策がとられ、人と財貨の移動が少ない時期だった。しかし、

15世紀末ごろから世界の気候が温暖化に向かうと、明においても農業

史料 首里城の「万国津梁の鐘」(1458年) 琉球国は南海のすばらしい地で、朝鮮の優れたものを集め、明とも日本とも親密で助け合う関係にあり、明と日本の二つの間で湧き出でる楽園の島である。船を万国の架け橋とし、異国の産物や至宝が國中に満ちあふれている。

3 首里城の鐘に刻まれた銘文 首里城の正殿に掛けられた鐘の銘文で、「万国津梁」は「世界の架け橋」という意味。読み解き 琉球は何によって栄えていると

1 東南アジア諸島部のイスラーム化 16世紀にマジャパヒト朝が衰えると、古代以来のヒンドゥー教・仏教文明は、バリ島のヒンドゥー教を除き、諸島部から姿を消してゆく。ただし現在でも、諸島部のイスラームには、土着の慣習(アダット)と並び、ヒンドゥー教の要素が混在している。

POINT 1

明後期の著しい経済発展の背景には、15世紀末からの温暖化による農業生産の向上と、大航海時代の国際的な商業の活発化があったことがわかります。

日本銀と「円」

古来、ユーラシアで国際通貨として通用してきたのは銀であった。銀は、小額で不便な銅銭や信用の維持が難しい紙幣と違って、額面が大きく価値が安定していたので、高額取り引きや貿易の決済に広く用いられた。東方では重さによって価値が決められて通

用し、モンゴル時代にはユーラシア規模で流通した(→p.139)。モンゴル帝国の解体後いったん下火になった銀の流通は、16世紀に再び拡大した。第一の波は、1530年代を画期とする日本銀の増産である。中心となったのは石見銀山であり、朝鮮からの精錬技術の導入によって、銀の産出量が爆発的に増加した。17世紀初めには世界の銀の約3分の1を産出したといわれ、日本はアジア最大の産銀国となった。第二の波は、スペインのアメリカ植民地から産出されるメキシコ銀であり、1570年代以降、貿易の代価として東アジアにもたらされた。メキシコ銀は円形の鑄造貨幣だったので、各地で「円」、または漢語で同じ発音の「元」とよばれた。現在、通貨単位として使われている日本の「円」、韓国の「ウォン(元)」、中国の「元」は、いずれも同じ語源に由来している。通した。



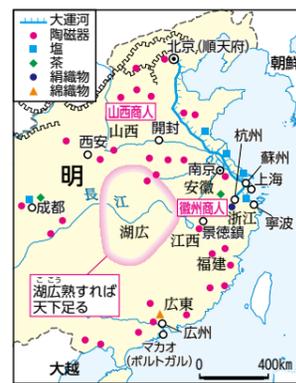
4 馬蹄銀 中国では銀は秤で重さを量って用いられた。馬の蹄に似たかたちなど、さまざまな形状の銀塊が流

生産の向上と手工業・商業の発展がみられ、さらに「大航海時代」の国際的な商業の活発化と結びついて、経済が著しい伸びをみせた。

人口は16世紀には1億人を超えたが、その約半分を占める江南地方が経済発展を牽引した。長江下流域の江南デルタの水田地帯はこのころほぼ耕地化され、新品種の導入や技術改良で生産性が高められた。水田に向かない場所では綿花や桑(蚕の飼料)といった商品作物の栽培が広がり、生糸・絹織物・綿織物などの家内制手工業が発達した。代わって稲作の中心地は長江中流域の湖広(湖北・湖南)や江西に移り、商品作物の栽培や商品生産が盛んな江南地方との間で地域間分業が進んだ。江南地方の商業的農業や手工業を長江中流域の食料供給が支えるさまは、「湖広熟すれば天下足る」と表現された。

一方、農業に限界のある地域では、それを補うため商業に特化する動きが現れた。内陸部出身の山西商人・徽州商人は塩の専売や軍需を担って巨大な富を築き、沿海部の福建の人々は海禁を破って海上交易に乗りだした。彼らは血縁・地縁で強固に結びついており、各地の都市に会館や公所をつくって同郷出身者・同業者などの活動拠点とした。

陶磁器と生糸は、代表的な世界商品として日本や西アジア、ヨーロッパにまで輸出された。アジア海域の貿易では、ヨーロッパ向けの東南アジア産香辛料の輸出と日本向けの中国産生糸の輸出が特に盛んだったが、ヨーロッパや日本には中国に対してめばしい商品がなかったため、銀が支払いに用いられた。16世紀に日本銀・メキシコ銀の産出・流通が急増すると、生糸・絹織物・陶磁器などの国際商品を買いつけるために、大量の銀が明に流れ込んだ。明は当初紙幣を流通させようとしたが失敗しており、海外から多量の銀が流入すると、銀の使用が一般化した。納税でも、各種の税や労役を一括して銀で納める一条鞭法が行われるようになり、全国へ広まった。



5 明代の産業 経済の中心地の江南からは、大運河を通して毎年大量の物資が北京に送られた。



6 赤絵 一度焼いた磁器に多色の顔料で絵を加えて再び焼いたもので、明代後期に流行した。

POINT 2

貿易によってヨーロッパ・日本から銀が流入し使用が一般化した結果、納税にも銀が用いられるように社会が変化したことを読み取れます。

問い つながり 明から輸出された商品を、輸出先の国とともに抜き出す。

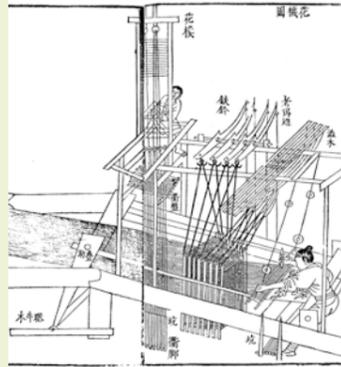
文化からみる 当時の社会

絵巻・挿絵から読み解く明代の社会

明代は、経済の発展によって社会全体で生活水準が向上し、都市の富裕層だけでなく庶民も文化を享受するようになった。ここでは特に絵巻や本の挿絵に焦点を当て、明代の社会の特徴をみてみよう。



↑1 「倭寇図巻」 1558年の明軍と倭寇の戦いを描いた絵巻。撃退にあたった明の高官が功績を顕彰するためにつくられたもので、合戦の情景が高価な絹布に豊かな色彩で描かれている。江南の都市では、ニュース的な役割をもつ豪華な絵巻や名画の複製品が盛んにつくられ、富裕層の間で流行した。



←2 「天工開物」 (宋応星著) 花模様を織り出している。挿絵と説明を組み合わせる書物が流行し、さまざまな分野の技術書が木版印刷で商業出版された。

文化整理表



↑3 「西遊記」 娯楽として本が読まれるようになり、さまざまなジャンルの作品が出版された。口語で書かれ挿絵の入った小説(読み物)が人気を博し、士大夫から庶民まで多くの読者を得た。

読み解き 図1はどのような人が作成させたのだろうか。図2と図3はどのような人々が読んでいたのだろうか。これら資料から読み取った明代の社会の特徴はどのようなものか、本文も踏まえて考えよう。

明後期の社会と文化

経済が活況を呈した明後期、江南地方などの都市部では郷紳ら富裕層の間で華やかな文化が栄えた。出版や芸能は民衆にも浸透し、ヨーロッパの知識も伝来した。

宋代以降の中国は、人々が能力や経済力に応じて科挙受験・商業・土地経営や出稼ぎ、小作などを選択する流動的な社会であった。科挙によって官僚の資格を得た名士は明代には郷紳とよばれ、地域社会で勢威をもった。郷紳は、経済的には地主であることが一般的だったが、科挙合格は難しいうえに特権は一代限りだったため、世襲的な領主や地主貴族は生まれず、有力者の顔触れは常に入れ替わった。農業の中心は、小作をしながら副業として手工業を営む小農民の家族経営であり、一か所で大人数を使役するような地主の大規模経営は一般的ではなかった。

16世紀から17世紀にかけて、江南地方の都市の富裕層を中心に、華やかな文化が栄えた。木版印刷による出版や大衆芸能が盛んになり、「四大奇書」などの小説が人気を博した。民衆の間でも茶の飲用や陶磁器の使用が広まり、衣類も麻から保温性に優れる綿に変わった。思想面では、科挙試験のための学問となって形式化した朱子学への批判の動きが現れ、王守仁(王陽明)が説いた陽明学は、個人の心情を重んじ実践を重視

POINT 1

「文化からみる 当時の社会」と本文を関連づけて、富裕層を中心に華やかな文化が栄えたことや、庶民の間で小説が人気を博したことを押さえられます。

イエズス会宣教師が明に伝えた世界

明代には、ヨーロッパのイエズス会宣教師が訪れ、キリスト教の布教のため、西洋の科学知識を広めることを利用した。その知識が明の人々に与えた影響を、資料から読み取ろう。

→4 イエズス会宣教師 16世紀半ばにフランシスコ・ザビエルが布教のために日本・明を訪れた。明末に来訪したマテオ・リッチは、世界地図の「坤輿万国全図」を作製し、またエウクレイデス(→p.71)の幾何学を徐光啓とともに漢訳して『幾何原本』として紹介した。徐光啓は、アダム・シャール(→p.155)の協力で曆法書『崇禎曆書』も作成した。

↓5 「坤輿万国全図」 世界図の伝来は、中国がアジアの一國にすぎないこと、地球が球形であることを教え、衝撃を与えた(→巻末2)。



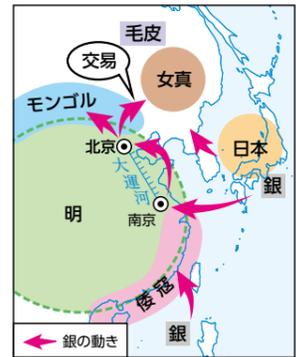
読み解き 図4のなかで、ヨーロッパから中国に伝来したものは何だろうか。また図5では、それまでの地図とどのような点が異なっているだろうか、p.108図3などと比べて考えよう。

POINT 2

キリスト教宣教師がもたらした西洋の知識や技術を、「文化からみる 当時の社会」で具体的に確認できます。

POINT 3

国際貿易の発展を背景に、明の海禁=朝貢体制への対抗が各地で活発化した結果、明が海禁を緩めて国境貿易に応じたことが読み取れます。



↑6 16世紀の明を取り巻く状況 明の南北の動乱は、海禁=朝貢体制に対して貿易の開放を求める動きだった。貿易で流入した銀は、税として集められて北方防衛のために北京に送られた。

問い つながり 明がそれまでの貿易政策を転換した背景について、要約しよう。

して人々の心をとらえた。また、科学技術への関心が高まり、薬学書『本草綱目』(李時珍著)、農書『農政全書』(徐光啓編)など多くの分野の実用書が著された。イエズス会をはじめとするキリスト教宣教師が来航し、ヨーロッパの天文学・暦学・地理学・数学・砲術などの知識や技術をもたらしたことも、科学技術への関心を刺激した。

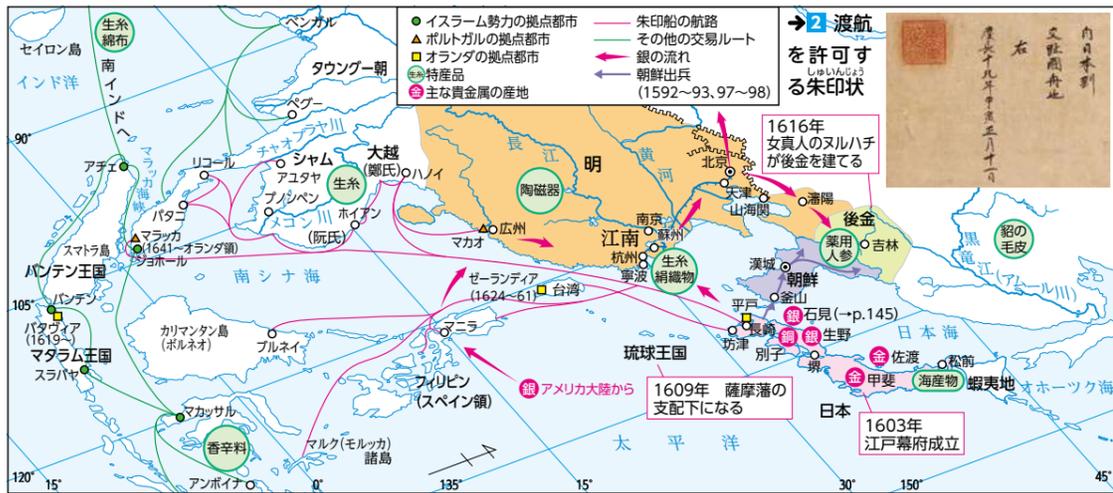
16~17世紀の貿易をめぐる動きと政治・社会変動

国際貿易が活発化すると、さまざまな勢力が貿易の利益を求めて衝突した。海禁=朝貢体制が崩れて互市貿易が開かれ、軍事と商業が結びついた新興勢力が成長した。

16世紀に国際貿易が盛んになると、明の周縁部では、規制を破って貿易の利益を得ようとする動きが活発化した。北方からは北元の王族のアルタンが侵入を繰り返し、南方では海禁を破って海上での私貿易や海賊活動が再び激化し(後期倭寇)、南北からの圧力は1550年代に頂点に達した。これらは単なる略奪行動ではなく、明の海禁=朝貢体制に対抗して貿易を求める南北共通の動きであり、国際貿易の主導権をめぐる抗争であった。対応を迫られた明は、1570年前後について政策を転換し、南方では海禁を緩めて日本以外との民間貿易(互市)を認め、北方でもアルタンと講和して国境貿易に応じた。貿易にはマカオを拠点としたポ

特色① 特色② 特色③ 特色④ 特色⑤ 入試対策 教材 試し読み

清皇帝がモンゴルのハーンと中華皇帝の地位を受け継いだことがわかり、清がのちに広大な版図をもつに至った理由の一端を理解できます。



POINT 1 17世紀初めの東アジア交易 毛皮・人参貿易を握る後金と金銀銅を豊富にもつ豊臣・徳川政権が勢力を確立し、海上では鄭氏一族とポルトガル・オランダなどが貿易を競った。

POINT 1

明の海禁=朝貢体制の緩和によって、日本を含む周縁部で軍事・商業勢力が台頭し、その対応に追われるなかで、明国内の政治が混乱して滅亡に至ったことがわかります。

東南アジアの日本人

朱印船貿易の時代には、マニラ(フィリピン)・ホイアン(ベトナム)・アユタヤ(シャム)などの日本町が栄え、商人だけでなく浪人や日本を追い求めたカトリック教徒が活躍した。

1 朝鮮出兵 日本では文禄・慶長の役、朝鮮では壬辰・丁酉の倭乱という。日本軍は当初快進撃を続けたが、李舜臣の朝鮮水軍や明の援軍の反撃で苦戦し、秀吉の死によって撤兵した。

2 朱印船 中国・ベトナム・インド産生糸などを買い入れ、銀・銅を輸出した。貿易拠点の港市に居留地ができ、東南アジアに日本町、九州に唐人町が栄えた。

問い つながり

国際貿易の活発化は、東アジア諸地域にどのような影響を与えたのか、要約しよう。

トガルやフィリピンを領有したスペインも参入し、日中の海商と競合した。

このように政府の統制を超えて貿易が活発化すると、利益を求めて競争も激化し、そのなかから軍事と商業が結びついた強力な新興勢力が台頭した。北方では、モンゴルのアルタン王家に加えて東北の女真人の間でも統合が進み、また東シナ海でも海上勢力が再編されていった。

日本では、強固な家臣団を編制し領域支配を広げた戦国大名が登場し、織田信長・豊臣秀吉が鉄砲を取り入れて貿易港・銀山を掌握し全国制覇を進めた。統一を果たした秀吉は、倭寇を禁止する一方で、海外への直接進出を図って朝鮮出兵を行った。このため明との関係が決定的に悪化し、日明間の公式貿易の再開は困難になった。

そこで、豊臣氏に代わって政権を握った徳川家康は、認可を与えた朱印船を台湾・マカオや東南アジアに渡航させて現地の中国商人と交易させた。日本との貿易は利益が大きかったため、マカオのポルトガル人や、台湾に拠点築いたオランダ人も日明間の中継貿易に参入した。

このような変動に対し、明では張居正が政治の立て直しに努め、検地と一条鞭法の全国的施行や官僚の統制強化を進めた。しかし、中央集権的な改革は地方の郷紳層の反発を買い、とりわけ政治活動が盛んだった江南は、政府批判の中心地となった。地方から税として吸い上げられた銀は官僚・軍隊の維持や北方防衛に投じられたため、貿易の活況や都市の繁栄にもかかわらず、農村の窮乏が進んだ。1620年代以降、地球規模の寒冷化で災害が多発し、農村は疲弊したが、政争のため有効な手は打たれず、暴動・反乱が続発した。1644年、その一つである李自成の乱によって北京が攻略され、明は滅亡した。



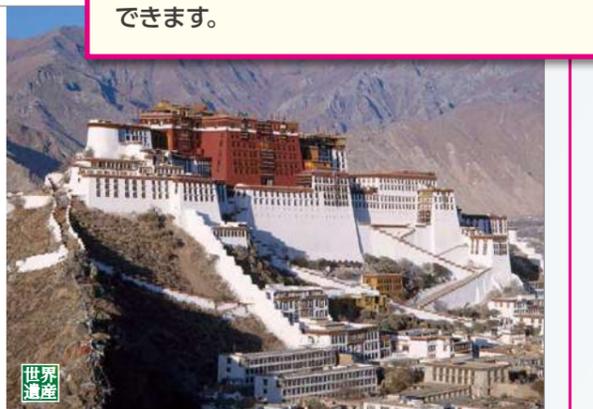
POINT 3 整列して乾隆帝の謁見を受ける八旗 八旗は八つの軍団からなる軍事・行政組織で、各軍団は満洲・蒙古・漢軍の3軍で構成される。色分けした旗印で区別したので八旗とよばれ、すべての家臣・領民はいずれかの旗に所属して兵役・労役・納税などの義務を負った。

清の形成とチベット仏教世界

明との貿易による利益で台頭した女真(満洲)人の後金は清へ発展し、明に代わって中国を支配するとともに、モンゴルを抑えてチベット仏教圏の盟主となった。

16世紀、明の富裕層の間で中国東北の特産品である毛皮や薬用人参の需要が高まると、それまで明の間接支配下にあった女真人の間で、貿易の利益をめぐる抗争が激化した。女真の統合に成功したヌルハチ(太祖)は、八旗を基盤とした強固な支配体制を打ち立て、1616年に後金を建てて明に挑戦した。跡を継いだホンタイジ(太宗)は内モンゴルに進出し、北元のハーン家を従えた。これを機に、彼は民族名を女真から満洲に改め、1636年に国号を大清(清)と定めて皇帝を称した。ここにチングス・クビライ以来のモンゴルのハーン(清)の地位は満洲人に引き継がれることになった。1644年に李自成の乱で明が倒れると、清は長城を越えて北京に遷都し、李自成や明の残存勢力を次々に平定した。こうして清皇帝は中華皇帝の地位も受け継いだ。

このころ中央ユーラシア東部では、チベット仏教が急速に拡大した。16世紀後半にアルタンが帰依したことをきっかけに、モンゴル人が広く信奉するようになり、次いで西方のオイラト部や東北の満洲人にも広がった。このため、チベット仏教の指導者であるダライ=ラマの宗教的権威は、パミール高原以東の内陸地域の大半を覆うことになった。パミール高原以西ではイスラームが優勢だったため、17世紀以降、中央ユーラシアは東のチベット仏教と西のイスラームという二つの宗教文化圏に分かれることとなった。ダライ=ラマ政権は軍事力や寄進の提供を受けられるために世俗勢力と提携したことから、モンゴル・オイラト諸部族や清はダライ=ラマの提携相手になろうとして競い合った。17世紀後半、オイラト部の一部族ジュンガルが勢力を広げると、清はジュンガルとチベット仏教の保護者の座を争うこととなった。



POINT 4 ポタラ宮 チベットのラサにある歴代ダライ=ラマの宮殿で、名前は観音菩薩の聖地「補陀落」に由来する。17世紀にダライ=ラマ5世が造営した。

3 満洲(満州) マンジュという語の発音を写したもので、それまでの女真に代わって民族名とされた。後に彼らの居住地である中国東北部を指す地域名としても用いられるようになった。

4 パミール高原以東のイスラーム 東トルキスタンは16世紀末にほぼイスラーム化した。17世紀以降、チベット仏教勢力のジュンガル、次いで清に支配された。中国内地でも、イスラームは甘粛・陝西など西北部中心に広まった(回民)。

転生とダライ=ラマ

チベット仏教(→p.44)では、高德の僧は菩薩の化身とされ(化身僧)、死去すると、生まれ変わりと認定された男児を転生者として養育して継承させる転生相續制度がとられた。多数いる化身僧の頂点が最大宗派のゲルク派のダライ=ラマであり、17世紀にはチベット仏教の最高指導者となった。

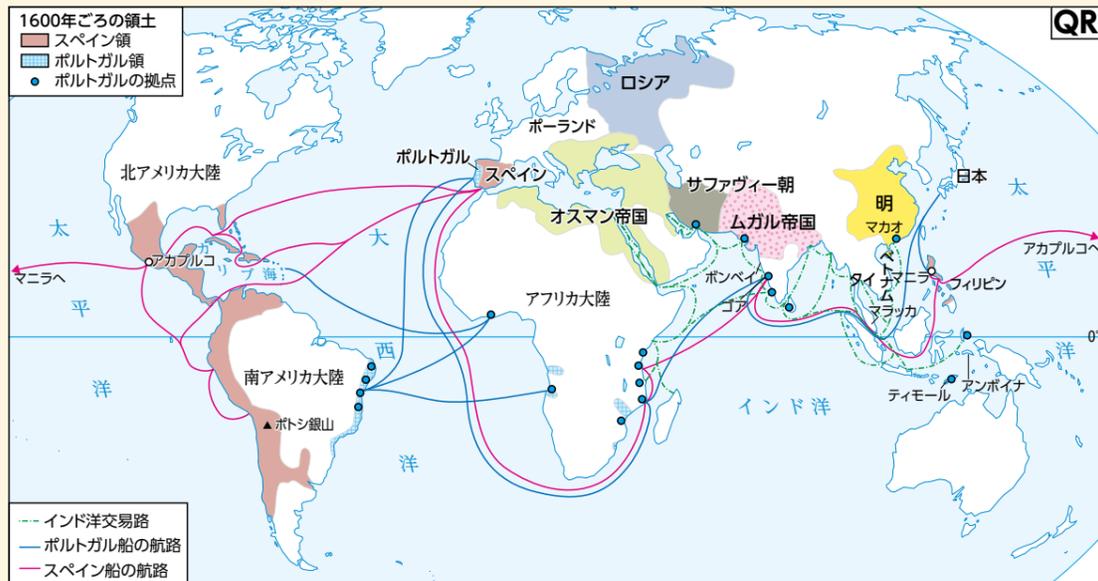
1節の振り返り

この節の学習を踏まえて、p.141の「節の課題」に対するあなたの考えを説明しよう。

特色 1 特色 2 特色 3 特色 4 特色 5 入試対応 QRコンテンツ 関連教材 試し読み

# 結びつく世界 16世紀 「世界の一体化」の始まり

原寸大



↑ 16世紀の世界

## 結びつく世界 16世紀 「世界の一体化」の始まり

### ●アジアと広域ネットワーク

「14世紀の危機」が去ると、アジア各地域の経済は急速に回復した。インド洋や東アジア海域などの海上交通のネットワークがモンゴル時代以上に発展し、貿易量も増大した。明の海禁で中国製の陶磁器が品薄となるとベトナム・タイ産陶磁器が輸出されるなど、生産物や流通ルートの多様化も進んだ。16世紀には、オスマン帝国やムガル帝国が繁栄する一方、ロシアの東進と毛皮交易、日本銀輸出の増大など、さまざまな地域で経済の活性化がみられた。

### ●「世界の一体化」の始まりと垂直的な分業

一方、ヨーロッパ人は、香料・陶磁器・生糸などの魅力的なアジアの商品を求めてスペインやポルトガルを中心に「大航海」に乗りだし、南北アメリカ大陸に到達した。ヨーロッパ人は、ポトシ銀山の発見などで、当時のアジアでの取り引きにおいて事実上の決済通貨となっていた銀を手にし、これによってアジアの物産を持続的に入手できるようになった。銀を基軸とした交易の活性化は、南北アメリカ大陸とアフリカ大陸、そしてユーラシア大陸各地の広域ネットワークの結びつきを急速に深め、「世界の一体化」が始まった。交易ネットワークは大西洋、インド洋だけではなく、マニラ-アカプルコ航路など太平洋を介して、地球を一周する結びつきとなった。

交易の活性化によりもたらされた商品は、貴族だけでなく庶民にまで及び、日常生活が変化した。

このような貿易の活性化はヨーロッパの経済に大きな影響を与えた。毛織物などの利潤率の高い工業生産が集中する地域と、そうした地域に輸出する原材料や食料の生産に特化する地域とに分化する傾向が生まれ、前者と後者の間の垂直的な分業は富の蓄積に格差を生じさせた。分業の底辺に組み込まれた地域では、東ヨーロッパにおいて再強化された直営地農業やカリブ海のプランテーションのように強制労働が行われることが多かった。

### ●アジアの海の活況とヨーロッパ

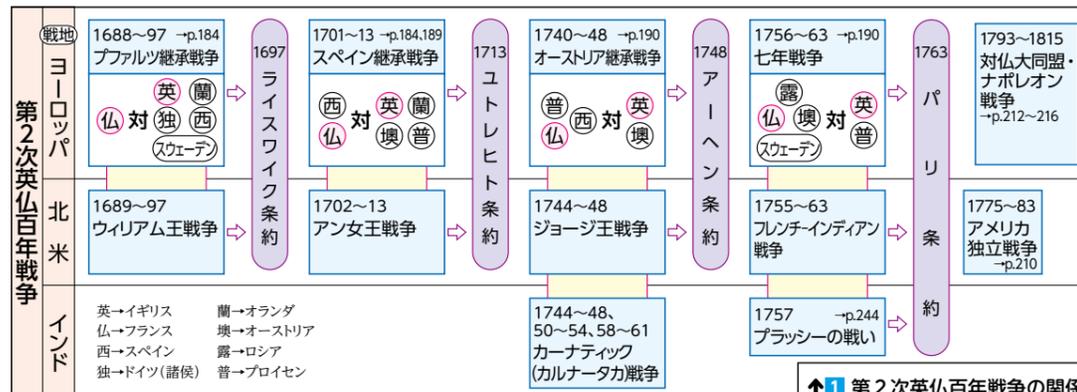
日本列島を含むアジアへのヨーロッパ人の進出は、カトリックや銃砲とともに、たばこやとうがらしなどのアメリカ大陸の産物をもたらし、アジアの社会、経済、生活に大きな影響をもたらした。他方で、この時代にはヨーロッパ人がアジアを圧倒するだけの力は、経済的にも軍事的にもなかった。ヨーロッパ人がアジアで活動するためには、すでに発達していたアジアの交易ネットワークのなかで役割を見つけ、維持しなければならなかった。また、格差のある垂直的な分業もヨーロッパおよび大西洋地域を中心に、限られた地域にとどまっていた。

◀ p.140 p.200 ▶

時代の特徴 16世紀は南北アメリカ大陸を含む世界の諸地域が結びつき、世界の一体化が始まった時代だった。一方、世界経済の中心は引き続き、アジアの海の交易だった。

# 3部3章4節 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易

原寸大



## 4節 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易

節の課題 ヨーロッパの覇権争いは、世界の諸地域にどのような影響を与えたのだろうか。

### イギリスとフランスの覇権争い

西ヨーロッパとその影響が及ぶ経済圏では、イギリスとフランスが覇権を求め、インドやアメリカをも戦場にして激しい戦争を繰り返した。

5 名誉革命の年に始まったプファルツ継承戦争から、英仏両国は植民地と商業の主導権をめぐる、1世紀以上に及ぶ断続的な戦争状態に入った(第2次英仏百年戦争)。フランスは17世紀末までに、カナダのケベックやミシシッピ川流域のルイジアナ植民地、今のハイチなどのカリブ海などに植民地を設け、奴隷貿易も行った。また地中海ではオスマン帝国との貿易を盛んに行った。イギリスも17世紀後半には、カリブ海のジャマイカなど、砂糖を生産する植民地を多数つくった。1701年に始まったスペイン継承戦争では、ユトレヒト条約でスペインからジブラルタルを、フランスからニューファンドランドなどを獲得した。北米にも植民地を次々に築き、1730年代までに13植民地が成立した。

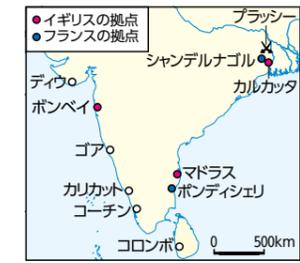
15 イギリスは、オーストリア継承戦争ではオーストリア側に立ち、続く七年戦争(アメリカの戦場ではフレンチ・インディアン戦争)でもプロイセンと組んで、フランスと戦った。1763年のパリ条約で、イギリスはフランスからカナダとミシシッピ川以東のルイジアナ、スペインからフロリダを獲得した。こうして北米とカリブ海の植民地を中心としたイギリスの帝国が形成された。

イギリスとフランスはアジアでも激しく対立した。両国は、17世紀からインド沿岸の港市に商館を設けていた。18世紀になると、インドでは地方の支配者がムガル帝国からの独立の傾向を強めたが、フランスは彼らを利用して勢力拡大を図り、イギリスもこれにならった。ヨーロッパで七年戦争が勃発した際、インドでは、イギリス東インド会社軍が、1757年にプラッシーの戦いでフランスが支援するベンガル太守の軍を破り、イギリスの優位が確立した。

中学校との関連 植民地、奴隷貿易

### ① インドにおける英仏の拠点

イギリスは、マドラス(チェンナイ)・ボンベイ(ムンバイ)・カルカッタ(コルカタ)などに拠点を置き、フランスは、シャンデルナゴル・ボンディシェリなどを拠点とした。またフランスはコルベール(→p.184)の指導の下それまで振るわなかったフランス東インド会社を、1664年に再建した。



↑ インドにおける英仏の拠点

### ② 政府の代わりにする東インド会社

各国の東インド会社は、国王の特許状によって、貿易をする権利だけでなく、条約を結ぶことや、軍事力をもって戦争をすることなど、国家権力を代行する権限を認められていた。

問い 年代 イギリスの植民地帝国が成立した時期は図1の年表中のどこにあたるか、抜き出そう。

POINT 2 第2次英仏百年戦争に関する構造図から、英仏の争いがヨーロッパ諸国を巻き込んだだけでなく、世界各地でも展開されたことがわかります。

特色①

特色②

特色③

特色④

QRコンテンツ

関連教材

試し読み

# 3部3章4節 イギリスとフランスの覇権争い

# いと大西洋三角貿易

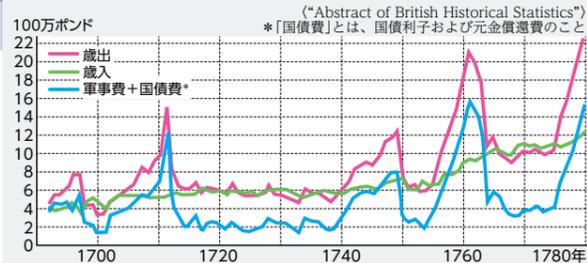
原寸大

## POINT 1

グラフと教科書 p.195の構造図を組み合わせ、読解する問いを設置しています。

### コラム 財政軍事国家と国債

イギリスでは財政革命によって税収を確実にし、財政への信頼が高まったことを背景に、公債を金利の安定した国債に統一した。この国債による資金調達で18世紀におけるイギリスの戦争遂行を可能にし、人口規模や経済力において勝るフランスとの戦争に勝利した。その反面、税収のほとんどが軍事費や国債の返済にあてられ、民事にあてる予算が大幅に縮減された。さらに19世紀初頭には過大な累積債務のために、破綻寸前となったが、産業革命(→p.206)の本格化による経済成長によって危機を脱した。



#### 18世紀のイギリスの歳入・歳入と軍事費

読み解き 軍事費が増大している時期に生じた戦争は何であったか、p.195の図1と照らし合わせて考えよう。

## POINT 2

イギリスがフランスとの植民地獲得競争に勝利できた背景には、イギリスの国債の信用度が高く、オランダから資金が流入するといった資金調達能力の高さがあったことがわかります。



北米での勢力争い パリ条約により、北米のフランス領がいったん消滅した。ミシシッピ川以西のルイジアナはスペインに譲渡されたが、1800年にフランスに返還された。

## POINT 3

七年戦争の結果、各国は財政危機に直面し、その負担を植民地や国内に押しつけたことが、アメリカの独立戦争やフランス革命につながったことがわかります。



#### 大西洋三角貿易

### イギリスの勝利と各国への影響

イギリスは財政改革を成し遂げて、対仏抗争で優位に立った。一方、英仏の抗争はヨーロッパ各国に財政問題を引き起こした。

イギリスでは名譽革命の後、1694年にイングランド銀行が創設され、議会の承認を得て政府が発行する借用証書(国債)を発行し、これが金融市場で取り引きされるようになった(財政革命)。

議会政治が確立し、徴税の権利をもつ議会在元利を保証していたイギリス国債の信用は高かった。そのため、17世紀の富裕国であったオランダでは、豊かな資金をもっていた人々がイギリスの国債を購入したため、オランダの資金がイギリスに流れることになった。

イギリスが、相次ぐフランスとの戦争に勝利したのは、この財政革命によって、フランスより戦争の費用を集める能力が高まったためであった。大量の国債を発行したイギリス政府は、国民には重い税を課すことにもなった。それでもフランスとの戦争に次々と勝利し、植民地を拡大していったため、議会在承認した税に対しては、国民の不満は爆発しなかった。

第2次英仏百年戦争のなかの七年戦争は、当時としては大戦争であった。このため、戦勝国のイギリスを含めて、参戦国はいずれも深刻な財政危機に見舞われることになった。植民地に負担を分担させようとしたイギリスやスペインでは、白人の定住者による独立運動が起こり(アメリカ独立戦争・ラテンアメリカの独立)、帝国の再編をせざるをえなくなった。また多くの植民地を失ったフランスでは、本国の財政が危機的な状況となり、フランス革命の引き金となった。

### 大西洋三角貿易の展開

アメリカの作物、ヨーロッパの軽工業品、アフリカの黒人奴隷を取り扱う大西洋三角貿易は、イギリス産業革命の準備をする一方で、アフリカを荒廃させた。

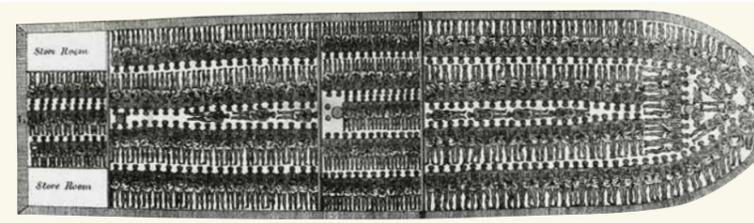
スペインはラテンアメリカに広大な植民地を保有しながら、奴隷供給地のアフリカ西海岸に拠点がなく、植民地で使役する奴隷を購入するた

### 視点を変えて 奴隷貿易と荒廃するアフリカ

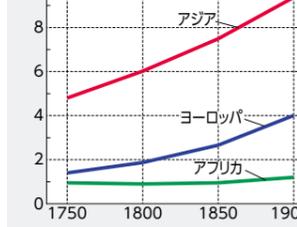
ポルトガル人・イギリス人・フランス人などが熱心に行った大西洋奴隷貿易は、全体で数千万人のアフリカ人を、大量の労働力を求めていたアメリカやカリブ海の植民地に奴隷として送り込んだ。それは、ヨーロッパ人の商人やプランテーション経営者にとっては、大きな利益の源であった。しかし、奴隷とされた本人やその家族にとっては悲劇であり、働き盛りの人々を連れ去られたアフリカ社会にも、深刻な打撃となった。奴隷と交換されたのは、武器や鉄、インドの綿布であった。アフリカでの綿布需要が、イギリスでの産業革命による綿布生産を促した。さらに、アフリカ西海岸にはヨーロッパ人から手に入れた武器を用いて、奥地で奴隷狩りを行い、ヨーロッパ人に売り渡すことを仕事とするダホメーやベニンなどの黒人国家も現れた。こうしたゆがんだ発展は、アフリカの成長を妨げる原因となった。

奴隷が導入されたアメリカなどでは、奴隷解放宣言(→p.237)、公民権運動(→p.332)の後も、いまだに黒人への差別的な対応が残る。貧困率は白人より高く、教育水準も低いのが現状である。

#### 奴隷船の内部全体図



### アジア・ヨーロッパ・アフリカの人口変化



#### アジア・ヨーロッパ・アフリカの人口変化

めに、外国商人に奴隷供給の特権を認めていた。利益が大きかったこの特権は、18世紀の諸戦争の原因の一つにもなっていた。

一方、奴隷貿易を盛んに行ったのは、西アフリカに拠点をもちたポルトガル・イギリス・フランスであった。イギリスのリヴァプール、フランスのナントなどから、火器や綿織物を積んだ船が、ベニン王国など西アフリカの黒人国家に向かい、そこで積み荷と奴隷が交換された。連行されたアフリカ人の奴隷は数千万人に上り、アフリカ社会は深刻な打撃を受けた。

アフリカからカリブ海やアメリカ大陸へ向かう航海は、「中間航路」とよばれたが、この航海は無理に奴隷を詰め込んだり、水不足や感染症が生じたりしたため、死亡率がかなり高かった。運ばれた奴隷は、カリブ海やアメリカ大陸で砂糖やたばここと交換され、ヨーロッパへそれらの世界商品が送られた。大西洋三角貿易として知られるこの一連の貿易で、ヨーロッパ各国は大きな利益を得た。特にイギリスは、この奴隷貿易を基盤として、カリブ海と北アメリカ大陸を核とする広大な世界帝国を完成させたため、膨大な貿易の利益を得ることができた。またカリブ海と北アメリカ大陸はイギリス製品の市場となり、一方で綿花のような原料の供給地ともなった。こうした国際的なつながりは、イギリスで世界最初の産業革命が起こる要因の一つとなった。人道的な立場から奴隷制度への批判が高まると、イギリスでは19世紀初頭に奴隷貿易が禁止され、その後、各国の植民地は奴隷制度の廃止に向かった。

1 王立取引所の創立 16世紀には、商品取引場として王立取引所(→p.260)が創立された。後に株式売買や保険契約なども行われるようになった。

2 アジア人やアフリカ人へのまなざし ヨーロッパ人は、奴隷貿易を行って、奴隷を物のように扱った。しかし一方で、ヨーロッパの知識人の間には、ヨーロッパの近代文明への批判として、アフリカ人やアメリカ先住民、アジア人こそが、けがれのない「高貴な未開人」だとする見方も生まれた。

3 イギリスの帝国 重商主義政策は、原料の供給源や製品の市場などの獲得に役立ち、産業革命の前提となる条件を整えた。そのためこのころのイギリス本国とその植民地は、「重商主義帝国」ともよばれる。

#### 4節の振り返り

この節の学習を踏まえて、p.195の節の課題に対するあなたの考えを説明しよう。

## 3章の振り返り

17~18世紀のヨーロッパの社会構造の変化に最も大きな影響を与えたものは何だろうか。政治、外交、経済や貿易などに着目して、あなたの考えを説明しよう。

特色 ①

特色 ②

特色 ③

特色 ④

特色 ⑤

入

## POINT 4

大西洋三角貿易で得た膨大な利益や国際的なつながりが、イギリスで産業革命が始まる要因の一つとなったことがわかります。

関連教材

試し読み

ヨーロッパ

アメリカ

アフリカ

POINT 1

「平等」をめぐる、公民権運動と女性の権利獲得運動を取り上げています。さまざまな資料の読解などを通して、それぞれの運動の背景や成果について考察できるようにしています。

## 探究 TRY

### 「平等」は達成されているのか?

— 「平等」を求めた人々の運動と達成

#### 「平等」は、当たり前じゃなかった?

人類は、歴史の中で「平等」を求めてさまざまな運動を行ってきた。このページでは、二つの事例から、当時はどのような「不平等」があるとされ、人々はどのようにして「平等」を達成しようと取り組んでいたのか、考察しよう。

#### 学習の振り返り

歴史 総合：公民権運動、女性参政権運動  
 世界史探究：奴隷貿易→p.197、南北戦争→p.237、  
 女性参政権運動→p.299、公民権運動→p.332



↑1 NATOの会議に参加した各国の女性大統領や閣僚(2022年)

#### A 公民権運動

##### 黒人差別と公民権運動

1861	南北戦争勃発
63	奴隷解放宣言(→p.237)
68	黒人の市民権承認
70	黒人の選挙権承認
70年代から	ジム・クロウ(黒人分離)法の成立(→p.270)
96	連邦最高裁判所判決「分離しても平等ならば合憲」
1954	連邦最高裁判所判決「公立学校における分離教育は違憲」
55	公民権運動始まる(→p.332)
57	リトルロック高校事件(黒人生徒の登校拒否)
63	ワシントン大行進
64	公民権法成立(人種差別撤廃)
65	投票権法成立(投票時の人種差別禁止)
68	キング牧師暗殺
2009	オバマ大統領就任
20	BLM運動盛んに

**史料 2** 公民権法制定時のジョンソン大統領の声明(1964年)

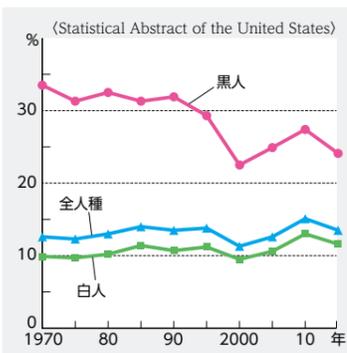
われわれは、すべての人々が平等に作られていると信じている。…しかしながら、そうした恩恵を奪われている人々が、何百万人もいる。自らの失敗のせいではなく、肌の色のせいなのである。…この公民権法は、われわれ全員が、…各自の心の中で、われわれの愛する米国における不正の最後の痕跡を排除すべく努力することを求める挑戦である。  
(米国大使館レファレンス資料室編「米国の歴史と民主主義の基本文書」)

**史料 3** オバマ元大統領の就任演説

われわれは南北戦争や、人種隔離といった苦い経験を味わい、暗い歴史から、より強く、より結束して立ち上がりました。古い憎しみはいつか必ず過ぎ去ると私は信じています。…60年近く前には地元のレストランで食事が許されなかったかもしれない父親をもつ男が、今(大統領演説という)極めて神聖な宣言を行うために皆さんの前に立つことができますのもこのためなのです。  
(2009年1月20日リンカーン記念堂前にて)



↑5 ブラック ライヴズ マター (BLM) 運動(2020年) 2020年に黒人男性が白人の警察官に殺害された事件を受け、アメリカ全土で抗議運動が展開された。



↑4 アメリカにおける貧困水準以下の家族数の割合

POINT 2

現代における平等をめぐる課題についても探究することを促しています。

- HOP 読解**
- 1) 公民権法が目指した「平等」とは、どのようなものだったのだろうか。Aの資料2や教科書p.332のほか、資料集などを参考に考えよう。
  - 2) 現在のアメリカでの黒人の立場は、「平等」といえるだろうか。Aの資料3や図4、5などを参考に考えよう。
  - 3) 女性の権利獲得運動の要求は、どう変化したのだろうか。Bの年表や図6、7、資料集などを参考に考えよう。
  - 4) 女性の権利獲得運動が求めたことは、どの程度達成されているだろうか。Bの図8、9を参考に考えよう。

**STEP 説明・議論**

**HOP 読解** での考察やほかの資料も調べて、右に示された視点において「平等」は達成されているといえるのか、グループで意見交換し、右の思考ツールにまとめよう。その上で、あなたが「平等」の達成において重要と考える要素を説明しよう。

法の下での平等	社会的平等
経済的平等	政治的平等

#### Jump! 現代への展望

現在でも世界には「平等」が達成できていない例がある。そうした例を調べ、あなたが解決したいと考える例の一つを選び、ここでの探究成果も踏まえて、「平等」の実現にはどのような取り組みが必要か、考えよう。

#### B 女性の権利獲得運動

近代以降の女性の権利獲得運動

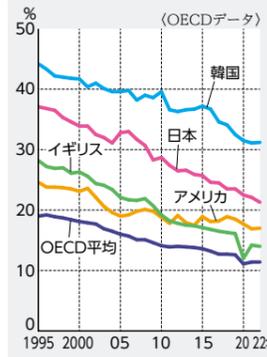
1789	フランス革命 人権宣言採択(→p.213)
91	グージュ 「女性の権利宣言」発表
1853~56	クリミア戦争 ナイティンゲール活躍(→p.231)
93	英領ニューゼーランドで世界初の女性参政権付与
1914	第一次世界大戦開戦 労働力としての女性の活躍(→p.283)
	大戦後、欧米諸国で女性参政権広がる
60	世界初の女性首相誕生(スリランカ)
66	全米女性機構設立 「女らしさ」からの解放を主張
70年代	ウーマン=リブ運動盛んに
75	第一回世界女性会議開催
79	女性差別撤廃条約成立
85	男女雇用機会均等法制定(日本)
2001	オランダで同性婚が法制化
10年代	国連でLGBTQの権利について議論が盛んに(→p.362)
17	MeToo運動(SNSを通じた活動)



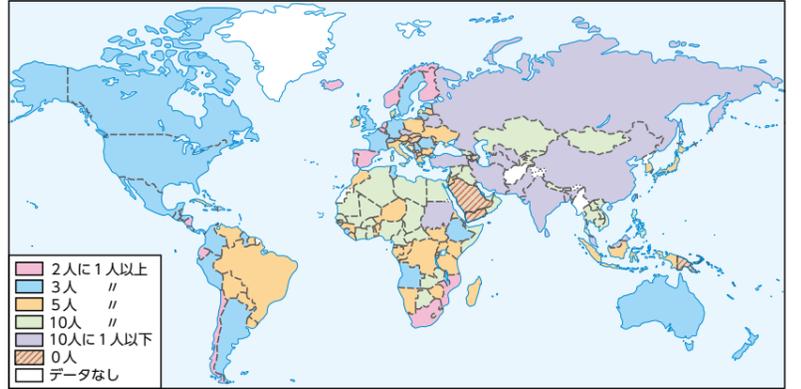
←6 「女性の戦時労働する権利」を求める行進(1915年、ロンドン) 女性参政権を求める運動は、19世紀半ばに始まった。その活動は、穏健に行進を行うものから破壊活動を伴う過激なものまで、さまざまであった。



→7 ウーマン=リブ運動(1977年) 公民権運動が行われていた1960年代には、家庭に縛られ、社会から押しつけられる「女らしさ」に疑問を投げかける活動が盛んになった。そして、70年代にはアメリカから世界へとその活動が広まっていった。

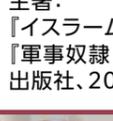
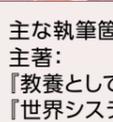


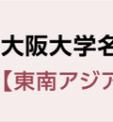
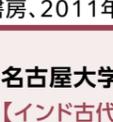
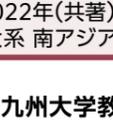
↑8 男女の賃金格差の推移 0に近いほど平等に近くなる。



特色①  
特色②  
特色③  
特色④  
特色⑤  
入試対応  
QRコンテンツ  
関連教材  
試し読み

# 本文執筆者 紹介

 <b>大阪大学名誉教授 桃木 至朗</b> 【東南アジア・海域アジア史】	主な執筆箇所：東南アジア史全般、現代史、各部扉 主著： 『市民のための歴史学』大阪大学出版会、2022年 『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年（共編者）
 <b>京都大学名誉教授 杉本 淑彦</b> 【近現代フランス史】	主な執筆箇所：近代以降ヨーロッパ史 主著： 『ナポレオン—最後の専制君主、最初の近代政治家』岩波書店、2018年 『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年（共編著）
 <b>早稲田大学高等学院教諭 青野 公彦</b> 【中世ヨーロッパ史】	主な執筆箇所：古代～中世ヨーロッパ史 主著： 『教会改革とナツィオ（国民）：一四一八年のコンコルダートをめぐって』（森原隆編著『ヨーロッパ・エリート支配と政治文化』成文堂、2010年所収）
 <b>成蹊大学教授 二井 正浩</b> 【社会科教育・歴史教育】	主な執筆箇所：各部扉、各部まとめと展望、地球世界の課題の探究 主著： 『レリパンスの視点からの歴史教育改革論』風間書房、2022年（編著） 『レリパンスを構築する歴史授業の論理と実践』風間書房、2023年（編著）
 <b>東京大学教授 吉澤 誠一郎</b> 【中国近代史】	主な執筆箇所：近代以降東アジア史 主著： 『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年（監修、共著） 『清朝と近代世界—19世紀（シリーズ中国近現代史1）』岩波書店、2010年
 <b>立命館大学教授 山下 範久</b> 【歴史社会学】	主な執筆箇所：特設「結びつく世界」 主著： 『教養としての 世界史の学び方』東洋経済新報社、2019年 『世界システム論で読む日本史』講談社、2003年
 <b>立命館大学教授 末近 浩太</b> 【中東・イスラーム地域研究】	主な執筆箇所：近代以降イスラーム史 主著： 『中東政治入門』筑摩書房、2020年 『イスラーム主義—もう一つの近代を構想する』岩波書店、2018年
 <b>神戸市外国語大学准教授 山本 昭宏</b> 【メディア文化史】	主な執筆箇所：現代史 主著： 『戦後民主主義—現代日本を創った思想と文化』中央公論新社、2021年 『残されたものたちの戦後日本表現史』青土社、2023年

 <b>神戸市外国語大学名誉教授 指 昭博</b> 【近世ヨーロッパ史】	主な執筆箇所：近世ヨーロッパ史 主著： 『図説イギリスの歴史[増補改訂版]』河出書房新社、2025年 『イギリス宗教改革の光と影～メアリとエリザベスの時代～』ミネルヴァ書房、2011年
 <b>名古屋大学助教 三田 昌彦</b> 【インド古代～中世史】	主な執筆箇所：南アジア史全般 主著： 『岩波講座 世界歴史 第4巻 南アジアと東南アジア ～15世紀』岩波書店、2022年（共著） 『世界歴史大系 南アジア史2』山川出版社、2007年（共著）
 <b>九州大学教授 清水 和裕</b> 【初期イスラーム史】	主な執筆箇所：古代～近世イスラーム史 主著： 『イスラーム史のなかの奴隷』山川出版社、2015年 『軍事奴隷・官僚・民衆：アッバース朝解体期のイラク社会』山川出版社、2005年
 <b>京都大学教授 金澤 周作</b> 【イギリス近現代史】	主な執筆箇所：近代ヨーロッパ史 主著： 『チャリティの帝国—もうひとつのイギリス近現代史』岩波新書、2021年 『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年（監修、共著）

下記の表は、右のQRコードから閲覧・ダウンロードできます



## 特色一覧

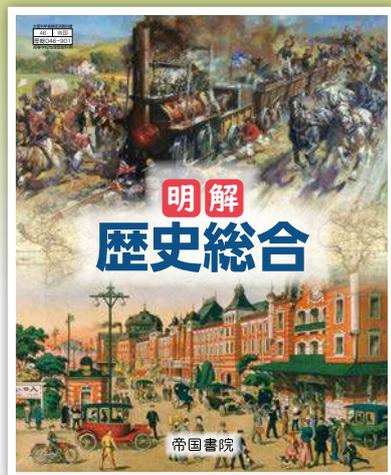
項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・因果関係を重視して書かれた本文や特設「結びつく世界」、特設「文化からみる当時の社会」により、<b>世界史の流れや社会構造、文化の背景、世界のつながりが理解できる</b>になっている。</li> <li>・特設「探究TRY」をはじめとする資料読解や問いにより、学習者が<b>主体的に探究学習を行える</b>になっている。</li> <li>・要約文・本文・側注の三段構成や、豊富な資料により、<b>世界史を整理して学習できる</b>になっている。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文は全時代において、<b>因果関係が重視され、歴史の大きな流れや社会構造が理解できる</b>記述になっている。また、<b>9世紀以降の東南アジア海域の交易に関する内容が追加</b>され、海と陸のネットワークがつながり、世界が結びついていく過程が分かりやすくなっている。</li> <li>・<b>多様な世界の成り立ちとそこに暮らす人々との共生、国際協力の重要性を理解</b>できるよう、2部では諸地域の歴史的特質の形成が、3部では諸地域の交流やつながりの歴史が、4部では世界の結びつきのなかで起こった戦争と平和への取り組みが、5部では現代世界の課題と解決に向けた取り組みが丁寧に取り上げられている。</li> <li>・特設「結びつく世界」が12か所設けられ、<b>同時代的に起こった社会構造の変化や、現代に至る世界の一体化の過程、諸地域の相互関係が理解</b>できるようになっている。</li> <li>・文化史に関する本文ページには、特設「文化からみる当時の社会」が設けられ、本文と絵画や史料などの資料を関連づけて学習できるようになっており、<b>当時の社会の様相や、社会と文化が相互に与えた影響、当時の文化が現在に与えた影響が理解</b>できるようになっている。</li> <li>・コラムは、多様な立場を踏まえて歴史事象を多面的・多角的に考える「視点を変えて」をはじめ、概念用語を解説する「Key Word」、補足的な内容を扱う「コラム」を設置し、さまざまな視点から内容を深められるようになっている。</li> <li>・特設「探究TRY」は、これまで学習した内容を踏まえて複数の資料を読み解くことで、<b>学習上重要な概念についての理解を深めながら、思考力・判断力を育成</b>できるようになっている。</li> </ul>
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足的な事項や詳細な内容は側注に書き分けられており、学習内容のポイントを端的に押さえることができる小見出しごとの要約文も設置されているため、<b>歴史の大枠から詳細な事項までを整理して学習</b>できるようになっている。</li> <li>・地図や図表、絵画資料、文章史料が充実しているとともに、資料読解を促す「読み解き」が随所に設けられ、<b>資料の比較や関連づけなど、資料の活用を通して思考力・判断力を育成</b>できるようになっている。</li> <li>・学習を見通す「部の導入」「章の問い」「節の課題」、学習を振り返る「まとめと展望（部の振り返り）」「章の振り返り」「節の振り返り」や、各ページの「問い」など、<b>問いが随所に設置され、学習者が主体的に探究学習を行える</b>ようになっている。</li> <li>・<b>教科書全体を通して、QRコンテンツが充実し、教科書紙面を超えたさまざまな学びに対応</b>できるようになっている。特に、「一問一答」「演習問題」は学習内容の定着を図ることができるよう、「文化史整理表」「重要用語」「地図」は学習事項に対する理解を深めることができるよう、「動画」「外部リンク」は学習意欲を高めることができるよう、それぞれ配慮されている。</li> </ul>
表記・表現及び使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に合わせて、<b>重要事項がもれなく丁寧に解説</b>されている。</li> <li>・<b>ふりがなや重要語句へのゴシック（太字）</b>が効果的に振られている。</li> <li>・本文には関連図版・写真の図番号が示されており、<b>資料の活用を促す工夫</b>がなされている。</li> <li>・本文行間には関連する事項が扱われている箇所への参照ページが割り当てられ、<b>教科書を横断的に活用</b>する工夫がなされている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文や側注、キャプションなどの文字には、見やすく読み間違えにくい<b>ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）</b>が使用され、誤読を防ぐ配慮がなされている。</li> <li>・<b>カラーユニバーサルデザイン</b>を採用し、色覚特性のある学習者にも読み取りやすい表現になっている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙は<b>環境に配慮し、かつ裏写りがしない用紙</b>が使用されている。</li> <li>・使用期間の間、破損することがないよう、<b>堅牢なつくり</b>になっている。</li> <li>・指導資料や準拠ノートなど、<b>充実した関連教材</b>が用意されている。</li> </ul>

## 著作関係者

※所属・肩書きは令和8（2026）年3月時点のもの

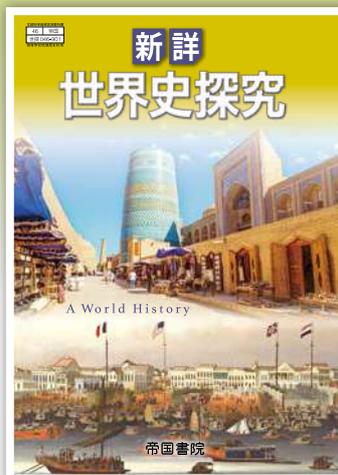
著作者	編集協力
青木 一真 (東京都立国際高等学校指導教諭)	河合塾グループ 株式会社 K I E S
青野 公彦 (早稲田大学高等学院教諭)	坂本 新一
大橋 康一 (滋賀県立高等学校元教諭)	高澤 貞義
金澤 周作 (京都大学教授)	山内 秀朗
後藤 誠司 (京都市立高等学校元教諭)	
指 昭博 (神戸市外国語大学名誉教授)	
清水 和裕 (九州大学教授)	
末近 浩太 (立命館大学教授)	
杉本 淑彦 (京都大学名誉教授)	
杉山 清彦 (東京大学教授)	
二井 正浩 (成蹊大学教授)	
野々山 新 (愛知県立大府高等学校教諭)	
本間 靖章 (北海道札幌南高等学校教諭)	
三田 昌彦 (名古屋大学助教)	
美那川 雄一 (静岡県立小山高等学校教諭)	
桃木 至朗 (大阪大学名誉教授)	
矢景 裕子 (神戸大学附属中等教育学校教諭)	
山下 範久 (立命館大学教授)	
山本 昭宏 (神戸市外国語大学准教授)	
吉澤 誠一郎 (東京大学教授)	
株式会社帝国書院	
編集協力者	
笹川 裕史 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎元教諭)	
西村 克仁 (同志社香里中学校・高等学校教諭)	
虫本 隆一 (同志社香里中学校・高等学校教諭)	
矢部 正明 (関西大学中等部・高等部教諭)	
山田 道行 (京華中学高等学校教頭)	
特別支援教育に関する監修・校閲者	
村山 彩 (筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)	

# 帝国書院の 高等学校用 歴史教科書のご案内



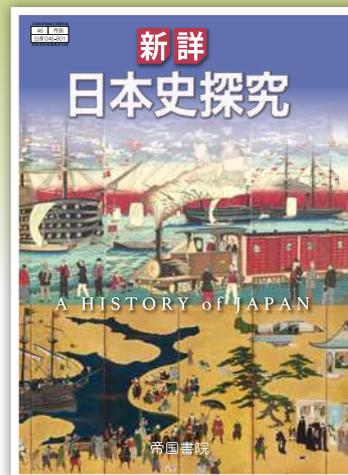
## 明解 歴史総合

現在につながる  
「世界×日本」がわかる教科書



## 新詳世界史探究

世界の構造と変化をとらえ、  
探究する力を育てる教科書



## 新詳日本史探究

歴史の流れと背景をとらえ、  
探究する力を育てる教科書

● 帝国書院の歴史教科書は、以下の4点を大事に編集しています

ポイント

1

### 歴史を多面的・多角的にとらえる力が身につく教科書

本文やコラム、特設では、日本と世界のつながりや、多様な立場からの視点を重視しています。教科書での学習を通して、歴史を多面的・多角的にとらえる力が身につきます。

ポイント

2

### 思考力や資料の読解力が身につく教科書

見通し・振り返りの問いや、複数資料を組み合わせる特設を設置し、アイコンなどでも資料活用を促す工夫をしています。日々の学習活動のなかで、思考力や資料の読解力が身につきます。

ポイント

3

### 高校生にとって分かりやすい教科書

因果関係や背景を重視した理解しやすい記述に加え、大きな判型を生かして多くの資料を掲載しています。歴史学習を用語の暗記にとどめず、歴史の流れの理解へと進めることができます。

ポイント

4

### 先生にとって使いやすい教科書

丁寧な指導資料と、プリント・スライド・評価問題例などの充実したWebサポート、用語解説・動画・ワークシートなどの多様なQRコンテンツで、日々の授業をサポートします。

各教科書の詳しい内容については、  
高等学校教科書Webにてご確認ください。

